

先づ温然たる若草の山に向へば體緩に神舒ぶるの感がある。今の市街地に古都の外郊に當り、當時の大宮人の櫻がさして逍遙した遊覽地である、市は現時人口三萬八千人を有し、奈良人形、鹿角細工、根來塗、奈良晒布、奈良漬、霞酒、筆墨等の産あり。奈良公園に近く鐵道院經營の奈良ホテルがある、春日野公園の一隅に位して池に臨み形勝の地を占めて居る、建築は四邊の風光に適應せしめむが爲に古風宮殿の式に據り、設備も行き届いて居る、専用自動車あり、停車場の送迎は片道一人賃金五十錢、市内外巡遊の求にも應ずる。

春日神社、東大寺、興福寺境内は今奈良公園となつて居る、規模の大、風致の美、海内他に比すべきものはない。人力車賃興福寺、春日神社、三笠山、大佛殿廻り四十錢である。猿澤池は驛より十九町、謡曲采女の古蹟で興福寺の南岸下に在る、池には鯉が多く、俗に魚七分水三分と云つて居る、石階を登れば興福寺址で、古の宏大壯麗な有様は

遠くより見に行く人もある。賽路の左右には燈籠が多い、廟宇の華麗なことは更めて説くに及ぶまい、祭神は四坐四字百五間の廻廊左右に度り、千體の釣燈籠、繡華花の如く古色揃すべきものがある、詣路の石燈、社内の掛燈、毎年節分の夜悉く點火すと云ふことである。廟の背後に峙てる

は春日山で一山鬱蒼として見る日も心地がよい、青海原ふりさけ見れば」と仲魔をして古郷の月を戀ひしめたのはこの山である。若草山はまた手向山ともいひ、満山小芝生で山容温新笠を覆せたやうである、春焼の後殊に雅趣があり、兒女の麗粧して遊べるありさま、宛然土佐家の圖様を見るやうである、手向山の八幡宮は楓の名所で、其處を過ぐれば東大寺、二月堂、三月堂、四月堂があるが、中に二月堂は山腹に倚りて眺望がよい、三月堂は奈良第一の古建築で人をして天平時代の建築を思はしめる、大佛殿は即ち寺の本堂で、結跏趺坐五丈三尺五寸の盧舍那佛を安置してある、仰望其偉大なるに驚かぬものはなからう、これが今より一

今は見ることが出来ないけれど、尚南圓堂、北圓堂、東金堂、假金堂、五重塔などがある、南圓堂は八角寶珠形の堂宇で、古色愛すべきものがある、堂の南に二重塔がある、北圓堂は境内最古の建築で、藤原時代、南圓堂五重塔は應永年間の再建で、東山時代の趣味を發揮したものである、東金堂の前に弘法手植の花の松がある、清陰百歩の地に敷いて、花よりも麗である。師範學校門内に在る八重櫻は、東圓堂の址に、古の奈良の都の名残を留めて居る。奈良帝室博物館は寺の東に在り、其陳列品は歴史美術工藝の三部に分れ、皆優秀なる寶物である。一の鳥居を潜れば春日神社の境内で、春日野の若草煙るが如く萌えて居る、路の右傍は淺茅ヶ原で、梅の木が多く、雪消澤も近くにあつて、若菜摘んだ古がなつかしい。いはゆる神鹿は詣人の興がる所で、或は芝生の上或は小流の畔、或は路傍に或は樹陰に、三々群をなし伍々隊を作りて、人の袂をひいて食を乞ふさま洵に愛らしいものである、十月中旬に行ふ鹿の角切には

千二百年前の鑄造かと思へば、世界の珍とせらるゝのも尤なことであると思ふ。正倉院は大佛の西北に在り、我邦無雙の寶庫で、聖武天皇御遺愛の貴重品を納め、今帝室の有に歸して居る。

正倉院前より西して東大寺の轉害門を出で、更に五六町行けば、宏潤なる一帯の風光が眼前に展開せらるるのである、遠く南を眺むれば、平野の極まる所に畝傍、香久、耳無の三山相竝び、近く東には觀音山、若草山、春日山の諸丘陵相連り、西は生駒、志貴の諸山蜿蜒として相接し、雲煙縹渺として宛然一幅の名畫を展べたやうである、元明以降七朝七十餘年、咲く花の匂ふが如く盛んであつた奈良の古都は、實にこれら諸山に圍まれたる、この一帯の廣き盆地に構へられたのである。

法華寺の西數町、土俗大國の芝と稱する芝生は、古の大極殿の遺址で、其西北に雜木林の繁茂した處は内裏の址であると思ふ。佐紀村に至れば路が三つに岐れて居る、一は

關西本線

北秋篠寺に至り、一は西大寺に至り、一は南郡山に行く道である。賽者はまづ北して秋篠寺に詣で、西大寺に行くがよい、西大寺は南郡七大寺の一眞言律宗の本山で、殿堂は近世復興したものであるが、尙宏大の遺制を存して居る、寺を出で、南すれば、一帯の地風情ある松林が續いてゐる。これが唐招提寺の境内である、寺は唐僧鑑眞の創建したもので、南部七大寺中、典雅幽深千古の風色を傳へて居るものは、法隆寺以外この寶坊あるのみである、本堂の後にある講堂は、平城宮の朝集殿を賜りて移建したもので古色掬するに足るものがある。山門を出でて尙南すれば、疎林の間一塔高く中天に聳えて居るものが見える、これが藥師寺である、本堂の本尊藥師如來は金銅の立像で脇士は日光月光の二尊である、これが嘗てフエノロサをして世界無比の鑄造佛であると驚嘆せしめたものである、東塔は三重であるが塔階があるから、恰も六層を見るやうである、塔と相對して佛足堂があり、中に有名なる佛足がある。寺を出で、

南すれば羅城門址、即ち古都の南の果で、郡山町の北である。

郡山は奈良の次驛で柳澤氏の舊領地である、白木綿、紡績等を産し、名物城の口あり、城址は町の西偏にあり、附近榮敷多く、夕陽花光城壁を照らすのである

我朝の古美術は、奈良の古刹殊に法隆寺に其粹を集めて居るとは、斯道の人の唱ふる所である、寺は法隆寺驛の北十三町、人力車賃十一錢、歷朝勅願寺中第一の古刹である。本邦古美術中、其舊態を存せる點に於て、此寺の右に出づるものなく、從て保護建築物及國寶の數頗る多く、中には金堂、五重塔、中門は、元明朝のまゝであつて雄大絶倫である、伽藍の結構配置恰も人面を形成して居るので佛面伽藍とも稱へて居る。南大門を入りて中門に至れば、門を中直に其後なる講堂に達して、おのづから一廓を構成して居る金堂は五間四面の重層で裳階あり、これに對して無限の

關西本線

美感を催さぬものはなからう、堂内の四壁は悉く四佛淨土圖及菩薩諸像を畫き、天井裏には蓮花の描寫あり、有名な玉藻厨子もまたこの堂内に安置してある。金堂を出づれば西に五重塔があつて、内に泥塑の佛像人物山水等を配置してある。夢殿は太子の三昧定に入らせられた所で八瓣形の建築、本尊の觀音は太子等身の像である。凡そ此寺は其建築に於ては推古朝の典型を遺し、法寶に於ては隋唐三韓の光明を傳へて居る、これが識者の推賞して措く能はざる所以である。法輪寺は法隆寺の北六町、これより東六町にして法起寺がある、聖徳太子岡本の宮の跡で、其三重塔は法輪寺の三重塔と共に推古朝に屬して居る。廣瀬神社は驛南十五町、人力車賃十七錢、官幣大社で歷朝祈年の大祀である

○奈良縣廳、奈良驛より東十二町の物産陳列所、同東十六町 ○市役所、同東十二町 ○公會堂、同東北二十町 ○農事試驗場、同北六町 ○女子高等師範學校、同東十四町 ○尾花座、同東十二町 ○興樂座、同東北十五町 ○攝津紡

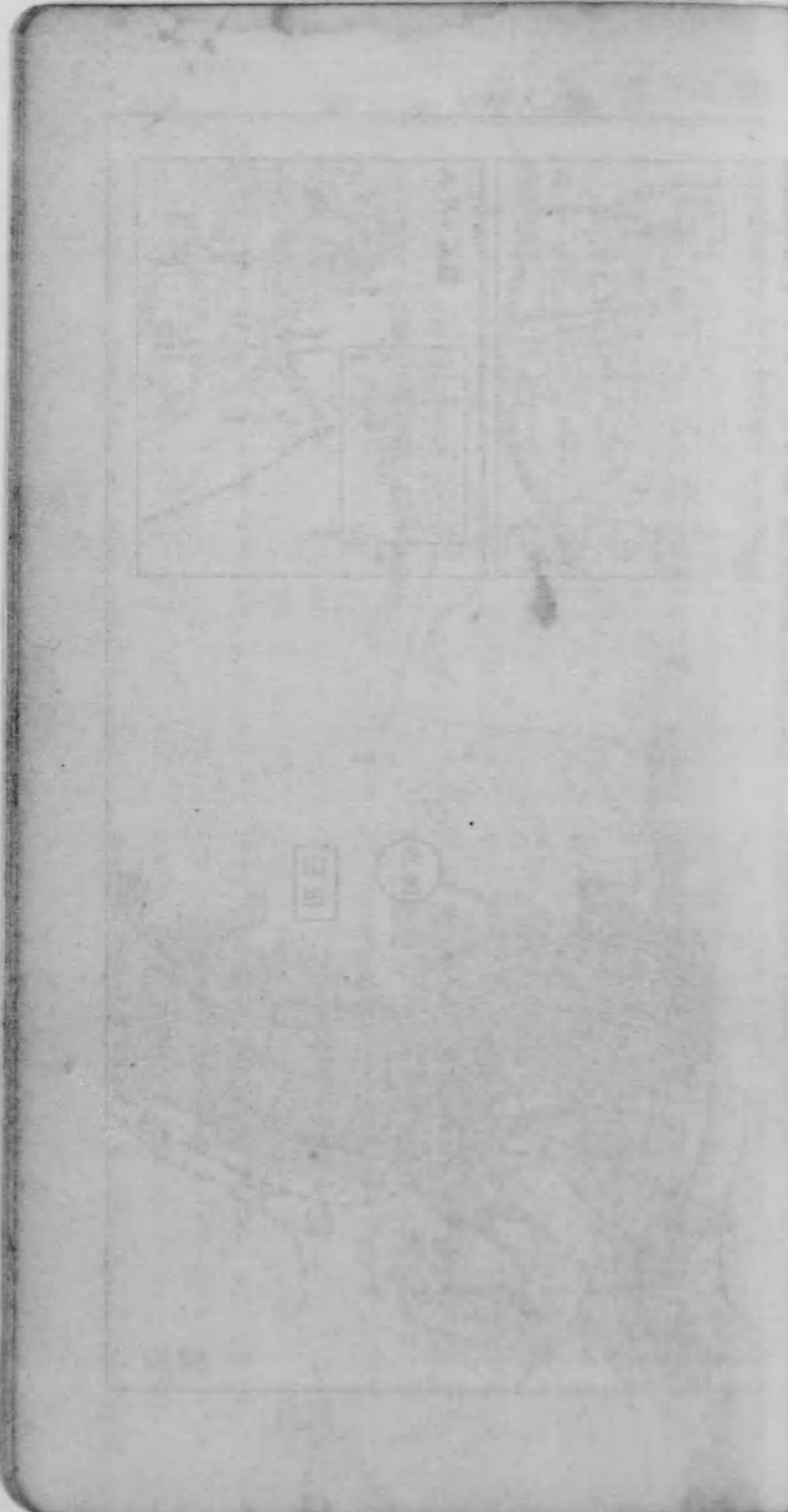
織工場、郡山驛より北十町 ○修善寺、同北半里 ○法興寺、同北二十町 ○西大寺、同北一里十町 王子あうじ、和歌山驛の分岐點 ○龍田神社、西半里、官幣大社 ○龍田川の紅葉、北東二十五町、紅葉の勝地、龍田龍田に其名著し、龍田橋あたり風情が多い、人力車賃二十錢 ○遊樂寺、南八町 ○龍田山、觀音院、西北一里、堂塔懸崖の上に倚つて雲中の趣を添ふ、龍田往復一圓三十錢、人力車山頂まで十五錢 柏原かしはら 河南國道の分岐點、同縣附近名勝が多い、道明寺附近の地は大坂陣の時の古戰場として名高く、古市、豊田附近は歴代の帝陵が多い、富田林より大和川を渡りて東南に進めば、金剛山の翠色巒肩を歴し、人をして補正成の千早、赤坂に於ける武勇を追想せしむべく、觀心寺、天野山上には吉野朝末路の悲しむべき遺蹟がある ○道明寺、天満宮、東南二十五町 ○玉手山遊園、東南三十町 ○葛井寺、西南一里四町 ○柏原製油會社、驛前 ●砂利、鉄 八尾 ●本郷、腰、橋、寸 平野ひらの ○大金佛寺、南三町 天王寺てんのうじ 城東線分岐點 ○動物園、西五町 ○夕陽丘、北十四町 ○四天王寺、北七町 ○一心寺、北十町 ○雲水寺、北三町 渡町みなとまろ ○道頓堀、千日前、東四町

参 宮 線 龜 山 — 鳥 羽

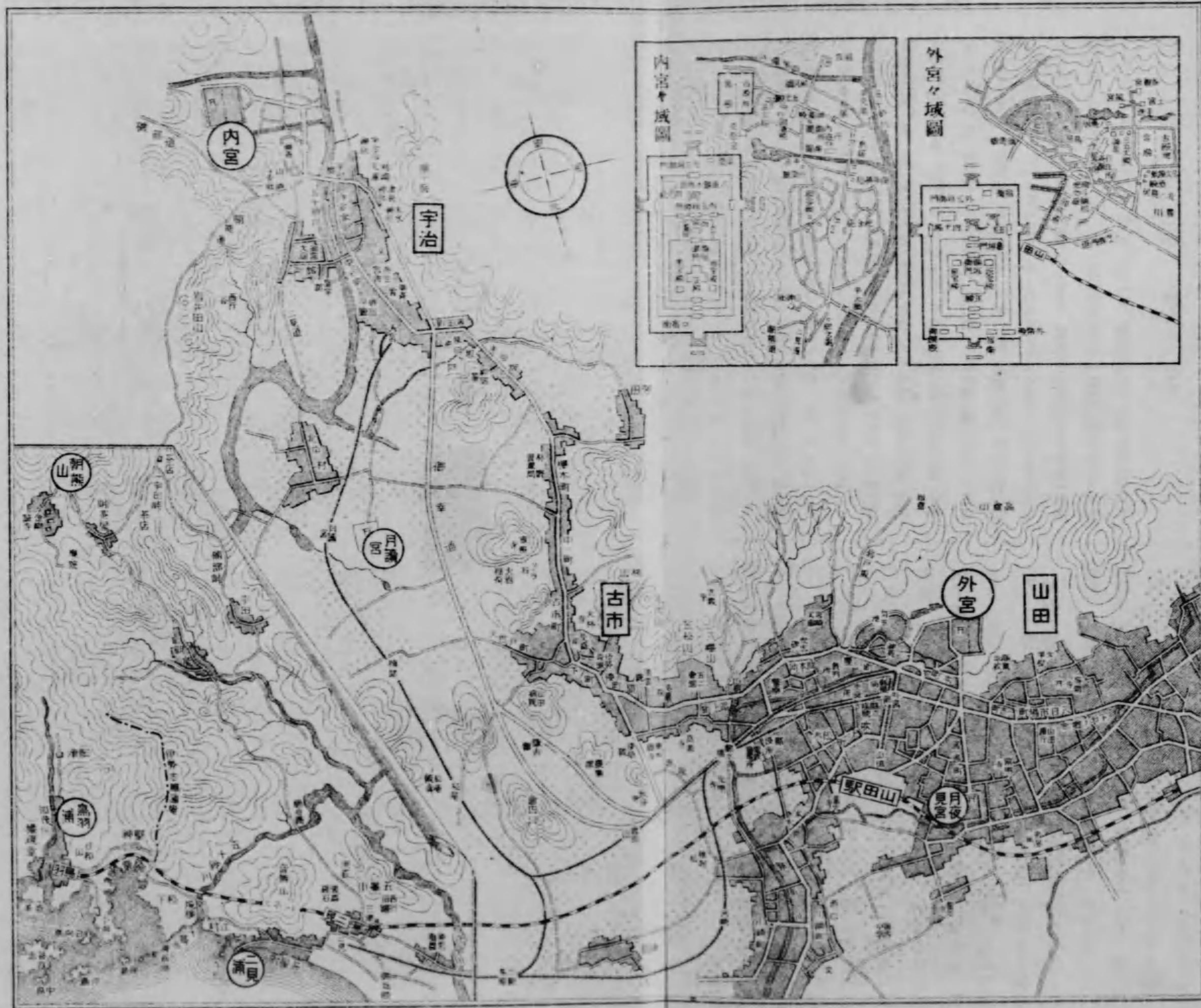
一身田 いしんでん ○ 那修寺、東二町、眞宗高田派の本山、佛殿祖堂以下堂宇悉々として居る 津 つ 上古三津の一、伊勢灘に臨み、附近を阿彌浦と云ひ、岩田川の吐口を港泊として居る、藤堂氏の舊城市で勢州第一の都會、伊勢は津で持つ俗説がある、今人口四萬七千人を有し、阿彌焼、津振子綿布等を産す ○ 津城址、東南十九町 ○ 津公園、西南三町、關内屈指の名園 ○ 觀音寺、南半里 ○ 三重縣廳、南六町 ○ 市役所、南十五町 ○ 農事試験場、西南一里 ○ 農工銀行、南十町 ○ 東洋紡績工場、南三十三町 ○ 中村商會、南一里 阿彌 あこぎ 津市の南端 ○ 阿彌浦、北東十三町、海浴に遶す、人力車賃十八錢 ○ 阿彌塚、東北十二町、謡曲阿彌の亡魂を祭る ○ 結城神社、南東十五町 高茶屋 たかぢや、○ 香良洲浦、東南三十町、海水浴場あり、香良洲神社あり、人力車賃二十六錢 松坂 まつざか ○ 松坂公園、西七町、蒲生氏郷の城址、鈴の家翁本居宣長の書齋あり、翁を祀れる山室山神社も附近に瀕して居る、人力車賃十錢 ○ 宣長の墓、西南一里半、人力車賃二十六錢 ○ 岩内瑞巖寺、西北二里 ○ 大口海岸、東北一里、輕便鐵道賃五錢 ● 松坂木綿、木材、その他 徳和とくわ ○ 安樂天神、東

南二十八町 ○ 神宮麻績權禰神社、東一里半、○ 神宮麻績權禰神社、東一里二十五町 相可 あかか ○ 一乗寺、北十一町、寺背の高丘伊勢灘の區光佳 宮川 みやがは ○ 宮川堤の櫻、東十五町、人力車賃十三錢 ○ 水産試験所、西北一里半、人力車賃三十三錢 ● 紙標草入、菅笠 筋向橋 すづかひばし ○ 宮川堤の櫻四十町、人力車賃十錢 山田 やまだ

伊勢大廟 及附近 五十鈴川の上、神路山の麓、神さびたる一區の淨地がある、これが神祖、天照皇大神を奉祀せる大廟のある所で、市を宇治山田と稱し、日本の所、聖地である、今人口四萬人を有し、春慶塗、宮木箸、笹笛、茶傘、紙葎入等を産し名物赤福餅あり。山田よりは内宮、二見に至る電車あり、内宮よりも二見浦への電車がある、電車賃外宮まで三錢、内宮まで十三錢、廻遊賃内宮を経て二見まで二十八錢、内宮二見を経て歸著するもの三十五錢、自動車は乗合、外宮内宮間二十錢、驛内宮間二十五錢、貸切外宮内宮間六人乗一圓二十錢、驛内宮間六人乗一圓五十錢、外宮内宮二見浦等廻遊六人乗七圓、人力車賃外宮まで八錢、内宮まで二十六錢、外宮を経て内宮まで三十錢で



宇治山田附近地圖



參 宮 線

ある。大廟は内宮と外宮に分れ、内宮は皇大神宮と稱し奉りて五十鈴の川上に、外宮は豊大御宮と稱し奉りて高倉の山麓に鎮座ましまして居る、外宮は山田驛より五町、雄略の御世今の大宮地に鎮め奉られたもので、百穀發生のもとを掌り、天下の人民に衣食を幸ひ給ふ神である。神殿は南向にて萱葺の掘立柱、白木の儘の結構であるから、神代のまも實にやと偲ばれる。内宮は外宮を距ること凡そ五十町、宇治橋に至れば、五十鈴川流は澄みて、神路山は杜に茂つて居る。橋を渡れば即神苑で、綠氈を展べたやうな芝生に處々稚松の點綴するあり、清涼の氣身に逼りて、我已に塵世をばなるゝこと遠きを覺ゆるのである。苑内大山大將奉獻の巨砲と、東郷大將奉獻の大砲彈がある、前者は二十七八年役、後者は三十七八年役の戦利品として、共に神明加護の謝恩を表せる絶好の紀念である。尙進めば老杉古檜森然として天を衝き、蒼古幽邃の趣崇高の情に堪へないので

ある。一ノ鳥居を経て、五十鈴川の氷に口漱んで左に轉じ、二の鳥居をくぐり、御垣の下に跪きて拜すれば、森々たる木立に風靜に渡りて、神下りますかと宮居尊く、清淨無垢なる白木造に一點の塵も許さず、額づけば得もしらぬ美き瀟り移りて、衣の香ばしきも嬉しく、木の間より洩れ来る日の御影の嚴かなるを仰ぎては、何事のおはしますかはしられども、恭けなさに涙のはふり落つるを禁じ得ないであらう。宮は崇神の御世までは、宮中に奉祀せられたが、神威を瀆し奉らむことを恐れまして、大和の笠縫の里に移しまゐらせ、後垂仁の御世に倭姫命神誨を請けて、今の地に齊き祀られたので、御靈代は長くも八咫の御鏡にして、三種の御神器の一である。そも、内外兩大宮が皇室の宗廟として、舉世尊崇の中心たるは、今更めて説くのをばない、されば四時の祭祀莊嚴を極め、事あれば必ず勅使を遣はして奉告せらるゝのである。特に明治三十七八年役を畢りて平和克復するや、聯合艦隊先づ來りて爰に詣で、尋で

車駕親臨、親しく克捷奉告の祭を行はせられた。蓋し曠古の盛儀である。

○熊山、内宮より頂上まで一里二十九町、麓まで一里七町、人力車賃三十五銭、橋部より一里半、橋部まで電車賃九銭、山は海拔一七〇〇尺、伊勢藩の風習秀絶である。○宮川堤の櫻、西二十町。○遺古、農業館、東南十五町。○神宮司廳、南一里四町。○市役所、南六町。○神宮皇學館、南一里九町。○三重セメント會社、東十五町。○帝國座、西六町。○二見浦、ふたみのうら。○沙白く松青く海水浴に遊ぶ。○夫婦岩、東北十四町。○御覽殿、西北八町。○胡熊山、南二里。○貝細工、味村若布、鹽粕濱。○鳥羽とは、稻垣氏の舊城下、風光の美を以て聞ゆ、濠内宮島に於ける養の眞珠貝採りは旅客の喜ぶ所である。○觀覽料一圓二圓五十銭。○日和山、南三町、鳥羽濱の風光一瞬の下に差まゐる。○磯の山、南十三町。○鳥羽城址、東南五町。○鐵工所、東南三町。○伊勢宮、東南四里三十町、馬車人力車共に八十銭、所謂伊勢大廟の裏宮で二千年來の古社である。○御木本裏辻遊樂場、東南六里、人力車賃一圓二十銭。○水産試験所、南八里、人力車賃一圓七十銭。○眞珠、伊勢海老、鮎粕濱、阿部香いせ

草津線 拓植—草津

深川ふかは、○宮乃湯泉、西南十九町、人力車賃十五銭。○養生川きよかは、近江鐵道の接續點、同線附近多賀神社や紅葉の勝を以て聞ゆる永源寺がある。○鹽野温泉、南二十町。○廣福寺、南一里。○信樂陶器製造所、南三里半。○陶器一三、雲みくも。○天保義民記念碑、隣附近。○三雲神社、西南八町。○妙感寺、西南十七町、藤原藤房の開基、境内無樹が多い。○米、花崗石材。○石部いしべ。○新善光寺、西北二十五町。○金勝寺、南一里半、金勝山頂に在り、觀音寺とも云ふ、湖水觀望の勝地として世に知られて居る。

奈良線 木津—京都

上粕かみこま。○泉橋寺、西南七町。○茶、生果。○玉水たまみづ。○玉川寺、東五町。○山吹山、東三十町。○茶、生果。○長池ながいけ。○青谷梅林、東南三十町。○甘藷、茶。○字治うち。○字治以北は東海道線京車の沿道、長池の畔、神社、興隆寺、宇治神社、藤原八幡、觀音寺、龍泉寺等の遺古の元祖として名高い。○杖四神社、東南一里十町、官幣大社に列す、境内池沼が多い、人力車賃四十銭。○生駒山聖天、東二里。

櫻井線 奈良—高田

帯解おびとけ。○圓照寺、東化半里。○帶解地蔵尊、東南三町。○櫻井のちものもと。○柿本寺、東南三町、附近人懸塚あり。○丹波市たんばいち。○天理教會本部、東九町。○石上神社、東十五町、人力車賃十二銭、官幣大社、社城山に據り、林を貫ひ、頗る清冽である。○柿本やなぎもと。○大和神社、北十二町、官幣大社。○景行天皇御陵、東南十六町。○梨、密柑。○三輪みわ。○大神神社、東五町、三輪山麓に在り、官幣大社、國家修成の功神、おほみのねしの。○大物主神を祀る、社前三輪の茶屋あり。○三輪茶屋。○櫻井さくらゐ。○文殊院、西南八町。○長谷寺、東一里十町、初瀬軌道賃金十三銭、寺は湖山の半腹に在り、殿堂、觀音共に宏壯、古來櫻花の名所として聞え、今境内に牡丹が多い、殿堂の構造は京都清水寺に似、三折九十二間の長き廊下あり、廊角毎に、風情ある欄燈籠を掲げてある、春野月輪なるの時鐘り此趣意を遺物すれば、古燈籠の火美しう櫻花に映じて、光景已に千年のものである。蓋し三輪初瀬は古へ奈良朝の時、公卿百官の修遊一日を消した處で、古文書を讀く

爾、三室戸寺、浮島の寶塔等の名所がある。○茶、喜壽殿、春日橋。○本。○こはた。○萬福寺、南十町、電車賃五銭。○日野樂師、東北半里。○觀音寺、三寶院、東北三十五町。○火燈製造所、南九町。○火燈殿、東南十三町。○桃山も、やま。○桃山御陵、東十町、人力車賃往復十五銭。○桓武天皇御陵、西北九町、人力車賃往復十五銭。○觀月橋、西南四町。○御香宮、北三町。○巨椋池、南十四町。○日本製布工場、東南十町。○清酒、味淋。○伏見ふしみ。○藤森神社、東北十町。○清酒、竹藪。

片町線 木津—片町

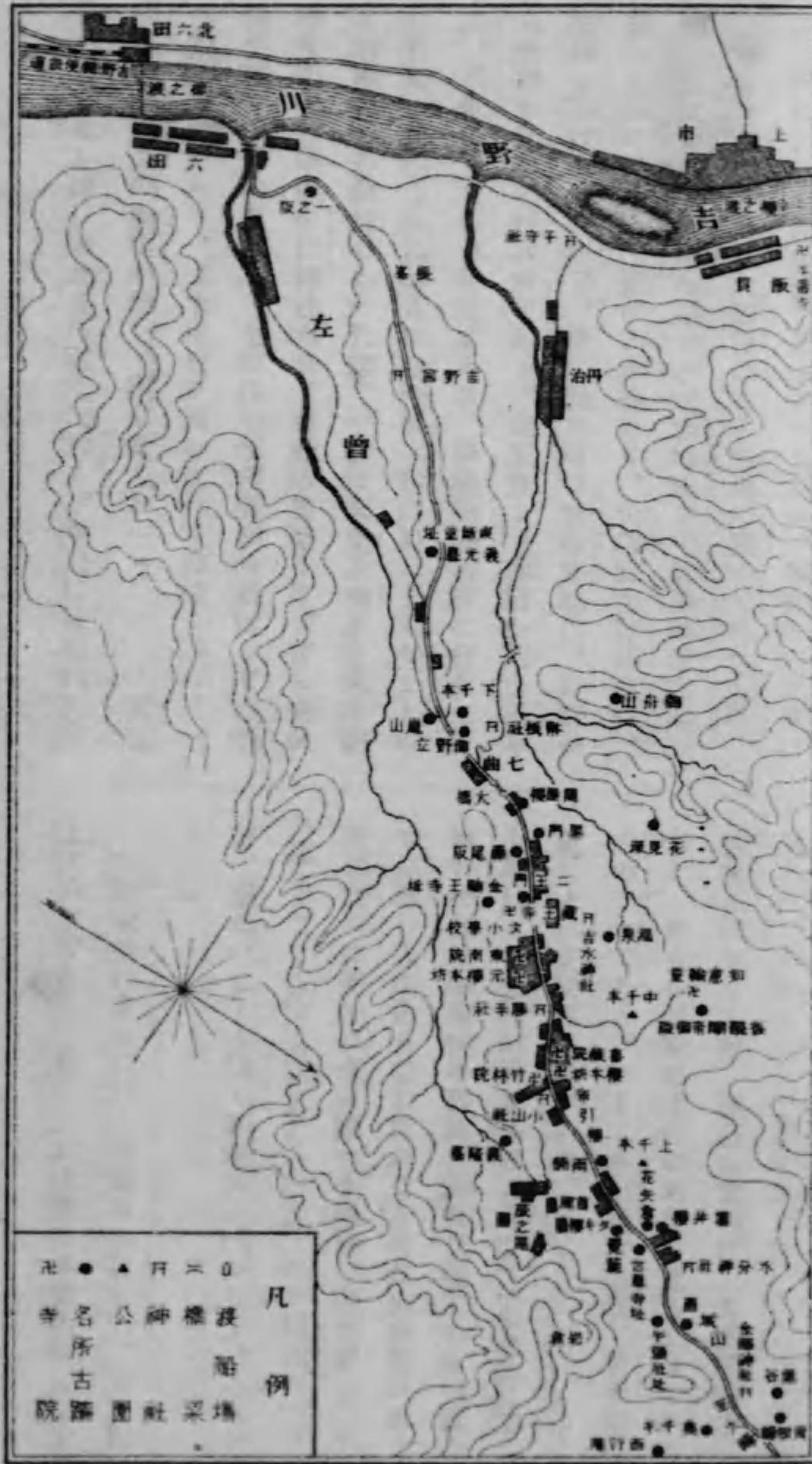
祝園はふぞの。○祝園神社、東北半里。○田邊たなべ。○新一休寺、西七町、一休入寂の地。○茶、庭納豆。○長尾ながを。○博士王仁墳、東南四町。○津田つた。○神宮寺桃林、南十五町、人力車賃十五銭。○四條屋しでふなはて。○四條屋神社、東八町、飯盛山の西腹に在り、楠木正行及弟正時の墓を祀る、社地は正行が決死吉野を出で、敵の大軍と奮戦した處、四條屋字北條に今猶ほ、庭の遺跡を存して居る、小楠公の墓は隣の西四町、田畝の間に在る。○野崎觀音、南半里、堂の後院本で有名なお松久松の墓がある。○住道すみのだう。○瓢箪山稻荷、南一里半、人力車賃四十銭、運氣森

人の目になつかしい地である、蓋曲玉葛の墓もこの近くにあり、**多武峰** **談山神社**、南一里半、人力車賃四十六錢、藤原鎌足を祀る、**祠殿莊麗**、西の日光と云はれて居る、境内櫻楓が多い、**歌傍うねび**、**歌傍山**東北御殿、西南十町、人力車賃十五錢、皇祖神武天皇の御陵である、區域周圍四百五十間、纏らずに二重濠と瑞籬とを以てし、松樹其の間に蓮致を添へて、うたゝ敬虔の念を催さしむる、**檜原**、**神宮**、**御陵**の南十町、人力車賃十八錢、神武天皇及皇后媛踏躰五十鈴媛を祀る、地は神武初國の皇居の址で國家發祥の地である、賽者標を正して帝業の偉大なるを想ふであらう、**久米寺**、西南二十二町、人力車賃二十二錢、久米仙人の由緒のある寺である、**飛鳥神社**、東南一里九町、**四寺**、**越寺**、共に南一里十五町、人力車賃三十六錢、**天の香**、**久山**、東南二十八町、**歌傍山**、西南二十町、**耳成山**、東北十町、**梨**、**午**、**旁**、**大和嶽**

和歌山線 王寺—和歌山市

下田しもた、**宮庭寺**、西南一里、人力車賃二十五錢、**二上山麓**に在り、奈良朝時代の古名刺で中尊姫の遊跡の長蛇陣がある、**東塔西塔**は天平初朝の遺物として名高い、**蓋曲玉葛**の墓の井原屋もこの境内に在り、**龜**、**釜**

吉野名所圖



金剛砂、**高田**たかだ、**櫻井**の接續點、**攝津紡績工場**、東二町、**守道**、**皮革製造所**、西二十町、**大和本郷**、**所**こそ、**橋**の橋、西二十五町、**葛城山麓**に在り、**一言主**神社、西南二十五町、**吉野寺**、東十五町、**役の行者の誕生地**、**耕木綿**、**壱坂**つぼさか、**壱坂寺**、東一里半、人力車賃三十五錢、奥の院には五百羅漢石あり、寺に運市の杖を傳ふるものを懸して居る、**吉野口**よしのぐち

吉野山公園

吉野連峰の北端なる**金峰山**の山嘴に在り、**堂塔祠**、**宇樹林**の間に構へられて**風光秀麗**である、特に**山脊**畔至る所花ならざるはなく、人をして「これはこれとはばかり」の感あらしむるのである、加ふるに**吉野朝廷**四十餘年、蒼涼萬古の事蹟を留めて、**歌書**よりも**軍書**に「悲し」の感も亦深い、**山**は**吉野口**より**東南**四里、**六田**に至る二里の間、**輕便鐵道**がある、**賃金**三等二十四錢、**人力車賃**、驛より**吉野**まで八十錢、**六田**には**柳の渡**あり、**一條**の**春水**餘に渡れば、**五町**にして**吉野山**入口の**黒門**が見える、是より**二十餘町**の間**五強り**の**坂路**あり、**長峰**と云つて居る、**廿八町目**には**村上義光**忠烈の碑あり、**卅町前後**の邊、**山**

谷も悉くこれ櫻花、峰も尾も悉くこれ白雲、即口の一、目千本で一に日本が花とも云つて居る、吉野宮は此香雲裡に在り、官幣大社で後醍醐天皇を祀つてある。吉野町の人家はこれより山嘴を傳うた道路の左右懸崖に凭つて構へられ、頗る風情がある、町を過ぐれば金峰山寺で壯麗華麗な藏王堂を見るのである、堂前四本櫻あり、大塔宮吉野落の時、離杯を擧げられた所で、堂の西三町の實城寺址は、吉野朝三帝四十餘年の行在所である。藏王堂より本道を南に進めば、三町にして吉水神社がある、後醍醐の吉野に行幸せられた時、先づこゝにお入になつて、花にれてよしやよしの「吉水の」の御詠のあつた處で、宮は天皇及楠木正成を祀つてある、附近山口神社あり、神社の前を左に、谷に沿ひ溪を渡りて東に上れば、七町にして吉野朝の勅願寺であつた如意輪寺がある、楠木正行が髻を截つて佛殿に納め、一族百四十三人の姓名を記し、巖もて「かへらじと」の歌を刻したと云ふ扉は猶此寺に藏して居る。堂後に後醍醐天皇

陵がある、落花紛々の時茲に詣で、吉野朝の古を思へば、涙襟を濡すであらう。更に本道に戻りて山口神社より南に進めば、三町にして竹林院がある、これより天王橋を渡り、猿坂に至りて東、溪谷を望めば、香雲巖として日光に映じ、風光の美宛然土佐の名畫を見るやうである、これが中の千本である。かくて赤引橋、濃櫻、雲井櫻等を愛で、更に上れば世尊寺址がある、これより二町にして六分神社、七町にして金峰神社がある。昔清水は金峰神社より右四町、西行法師三年庵住の舊地で閑寂な境である。「淺くともよしや又汲む人はあらじわれにこと足る山の井の水」と法師の詠じたのは庵址に至る路の小川で、芭蕉後こゝに至りて「露とくく、試に浮世そゝがばや」の吟があつた、庵址の後方、櫻花いよ／＼深く幽趣云ふべからず、これが奥の千本である。

吉野大峰に登るにはこの道を本道とし、吉野町より頂上まで六里である、山上には大峰山本堂あり、宏大な建築で

和歌山線

藏王権現を本尊としてある。山は四月十日に開いて十月十日に閉ち、半歳の間人の住ふものはない。

吉野川上流沿岸の地も亦景勝の地が多い。上市は驛の東南三里半、人力車賃七十錢、町の東五町、川を挟んで妹背山がある、宮流は上市の東五十町、峻巒峙立し、碧巖壁りて其下深潭をなす處、橋あり、風光がよい、此近傍は古の國栖の地で、朝廷大儀の時來つて歌曲を奏し御贄を献した所である。大瀧は宮瀧と距る五十町、それより一里にして丹生川上上社あり、官幣大社である、附近一帯の地石灰洞が多い。吉野一帯の地木材、吉野紙、苗木を産し、名物吉野葛、櫻餅、鮎鮎あり

北字智きたらち ○金剛山千早城址、西北一里半 五條こてう 吉野川に臨む、附近香魚池に通ず ○榮山寺、東南二十町、寺前の吉野川を普無川と云ひ、嶺岩並列して淵を爲し、風光がよい ○賀名生行宮址、南二里 ○丹生川上下社、東五里 ●鮎、密柑、凍豆腐、羊羹、納豆 本はしもと ○藤其寺、西二町、木食上人の開基である ○功智堂、一里、人力車賃十八錢 ○高野山、南西四里、河相まで二里、人力車賃三十八錢、河相高野

和歌山線

北三町 ●木、藤、生と、綿布、布織屋、ほしや ○伊太新曾神社、南一里八町 田井ノ瀬 たののせ ○日龍國 惠濟神宮、西南二十五町、人力車賃十六錢、官幣大社である ○蓬山神社、西南一里半 和歌山 わかやま 徳川氏親藩の善城市、紀の川の吐口に在り、人口七萬七千人、南海第一の都會である、綿フランネルの産地として名高く、漆器、密柑、桑等の産あり ○和歌山公園、南十五町、電車賃四錢、舊城内に在り ○岡公園、南二十町、電車賃四錢 ○和歌の浦、西南一里半、電車賃十錢、天の橋立、三保の松原と地形を同じうし、古松白沙の間に優養す、三斷橋、玉津島神社、東照宮、南龍神社、紀三井寺等あり、紀三井寺よりの眺望最勝れて居る ○鶴の浦海水浴場、西北二里 ○淡島神社、西北二里 ○和歌山縣廳、西南十五町 ○市役所、西南十四町 ○農工銀行、西南十五町 ○農事試験場、西南二十八町 ○水産養殖場、南一里半、電車賃十錢 ○鐘淵紡績工場、南東十五町 ○和歌山紡績會社、西十五町 ○綿ネル會社、七町 ○紀國座、辨天座、南十町 ○上山英農園、南八里、和歌浦より箕島港まで汽船廿二十五錢、箕島より二十五町人力車賃三十錢、密柑及除蟲菊多く、除蟲菊の製造場なり ○龍野地方、山水の勝あり、瀨八丁、那智の段、熊野神社等世に聞ゆ、和歌浦より田邊まで汽船便あり、田邊より本宮まで十六里半、本宮より新宮まで陸路七里、船路九里、那智は新宮の西五里を隔て、居る

山内二里、彌生一四七十錢 ○稻妻織布工場、南三町 ●高野豆腐、鮎、鮎所柿、綿布 高野口 かうやぐち ○慈母院、南十五町、弘法大師其母を茲に迎へ、月に九度山上より來りて、孝養を盡したと云ふので九度山と云ふ、眞田幸村父子閑居の邸址も近くにある ○高野山、南三里半、彌生二四四十五錢、人力車賃推出まで五十町、二十八錢、推出より彌生一四七十五錢、山は弘法大師の開基、金剛峯寺の聖域で、輪奐たる堂塔壯麗なる僧坊山に凭り谷を埋めて、海内第一の聖刹と稱せられる、寺域周圍十三里、僧坊百三十餘、大門、金堂、本堂、高大壯麗言語に絶して居る、奥の院は大師の廟所、四面聖形造で瑞籬を周らし、聖蓋たる杉檜之を圍み、清涼なる玉水之を湧つて居る、幽邃閑寂眞手の聖場である、高野高野物狂にはよく全山の廣濶が寫されてある ○久保嶺山、東二里半 ●高野豆腐 名手なで ○飯盛嶺山、南三十町 ○赤沼田嶺山、南四十町 ●鰻石、密柑 粉河 こかは ○粉川寺、北七町 ○長田觀音寺、西半里 ●鮎、密柑 打田 うちだ ○安樂川橋脚、南二十四町 ○福林寺、北二十三町 ○櫻現寺、北半里 ○倉谷嶺泉、北一里 ●密柑、綿布、桃 岩田 いはで ○岩田大宮、西四町 ○櫻末寺、北一里十三町、人力車賃二十錢、新義眞言宗總本山、高野山と並びて法風盛に戦國の際に及び、僧兵の強項根柢を據て第一とした、寺域宏闊、古松老柏の間櫻籬が多い ○吉村製糸場、西四町 ○林織布工場、東北八町 ○上田織布工場、

春めくの人さまくの伊勢参り 荷兮
遷宮や西行よりは五百年 立吟
有かたさ餘りて寒し神の庭 几董
なつかしや奈夏の際の一時雨 曾良
初霜やいつ大佛の柱立 芭蕉
欠盆の吉野もゆかし露の臺 几董
花喰に鮎ものぼるか吉野川 蓼太
花も火をともしや不斷高野山 立園
霞たつ春やほのく和歌の浦 宗長
路南紀伊の國に入蜜柑畑 子規

山陽線

山陽線とは

一 山陽本線

神戸、下関間三二九哩三分、兵庫、和田

御間一哩七分、及貨物支線

一 播但線

姫路、和田山間四〇哩九分、豆腐町、飾

磨間三哩三分

一 宇野線

岡山、宇野間二〇哩四分

一 吳線

海田市、吳間一二哩四分

一 宇品線

広島、宇品間三哩七分

一 山口線

小郡、山口間七哩九分

一 大嶺線

厚狭、大嶺間一二哩二分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、神戸を起點として瀬戸内海に沿うて西し、姫路、岡山、尾道、広島等

の都市を貫いて、下関に至りて止まるのである、下関より

は門司に渡る連絡船あり、十五分にして九州線と連絡し、

又釜山に至る連絡船あり、一週一回は鮮滿直通急行列車に

連絡する爲め十一時間、其他は十一時間半で朝鮮鐵道と連

絡する。列車の運行は下関に直通するもの京都より二回、

東京より四回あり、東京より直通の内一回は特別急行列車

にて、同列車に頼れば、東京より約二十五時間、京都より

は約十四時間、神戸よりは約十二時間半で下関に達する。

別に北陸線を通じて信越線新潟と本線姫路との間にも直通

列車の運轉あり、新潟、姫路間二十五時間を要する

神戸を後にして明石に至る間、右には一帯の翠巒屏風を

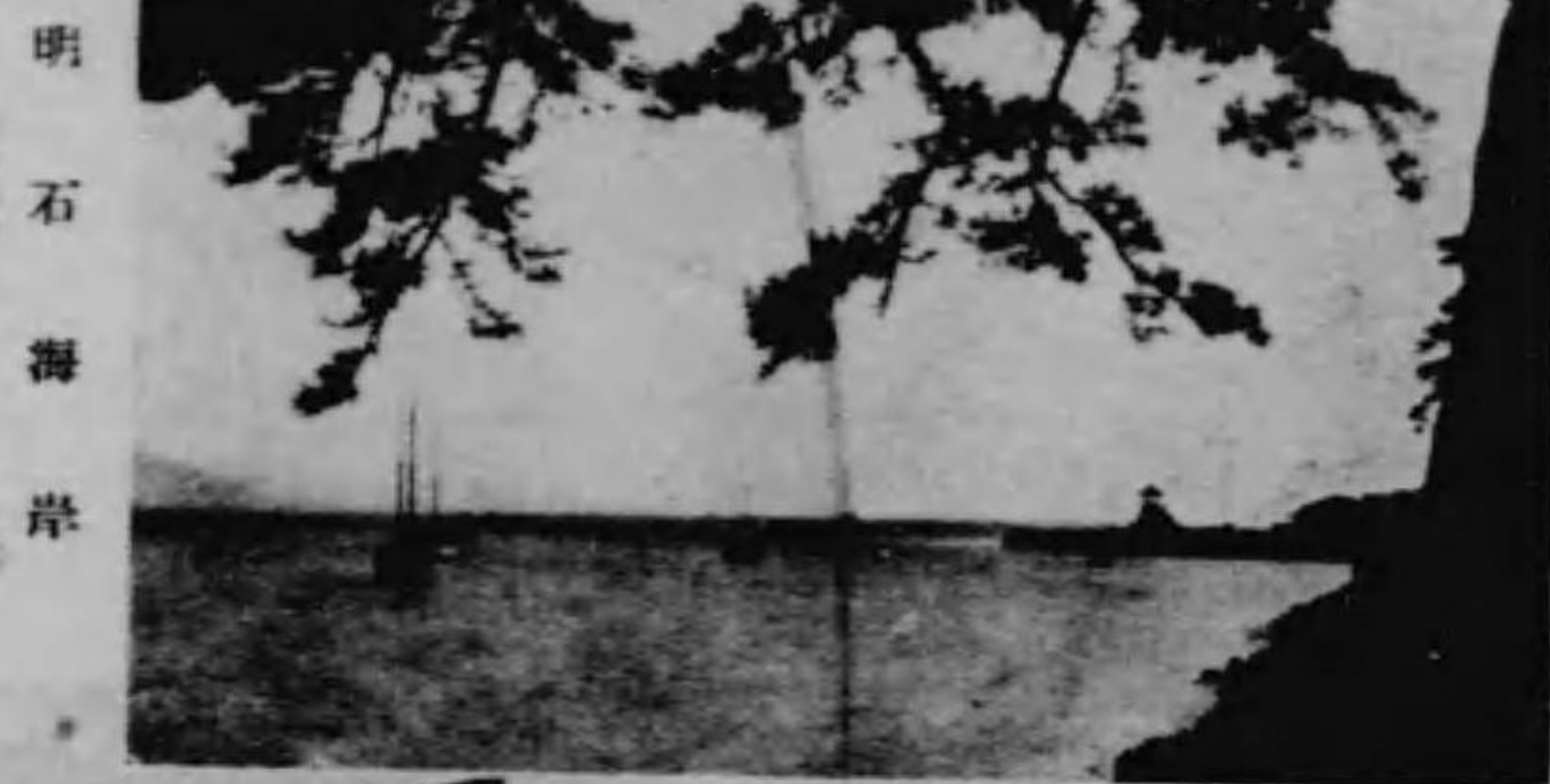
樹て、左は肥泉の山遠く煙を爲し、淡路島は近く呼ばば將

見渡せばながおれば

見れば須磨の秋

芭蕉

須磨の潮引



明石海岸

飯館の種も

つゝまず須磨明石

詩六

短夜はひとまる

ねして明石かな

永治

姫路城



龍野舊油屋障眼

いはりせし蒲團

干したり須磨の里

菰村

蚊帳一重くくに

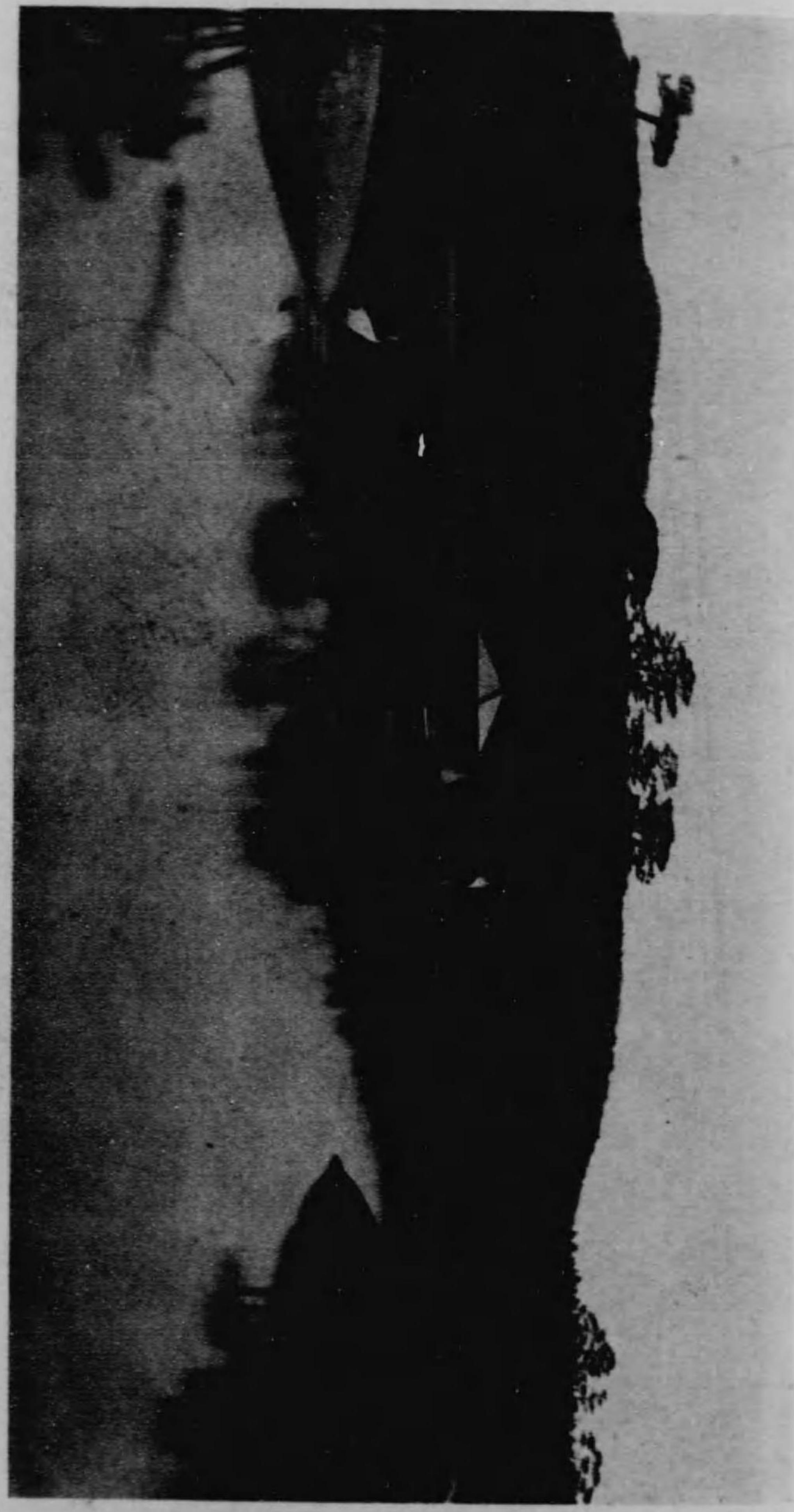
須磨の秋近し

藝太

汽車の窓にさし込む

須磨の月夜かな

子規

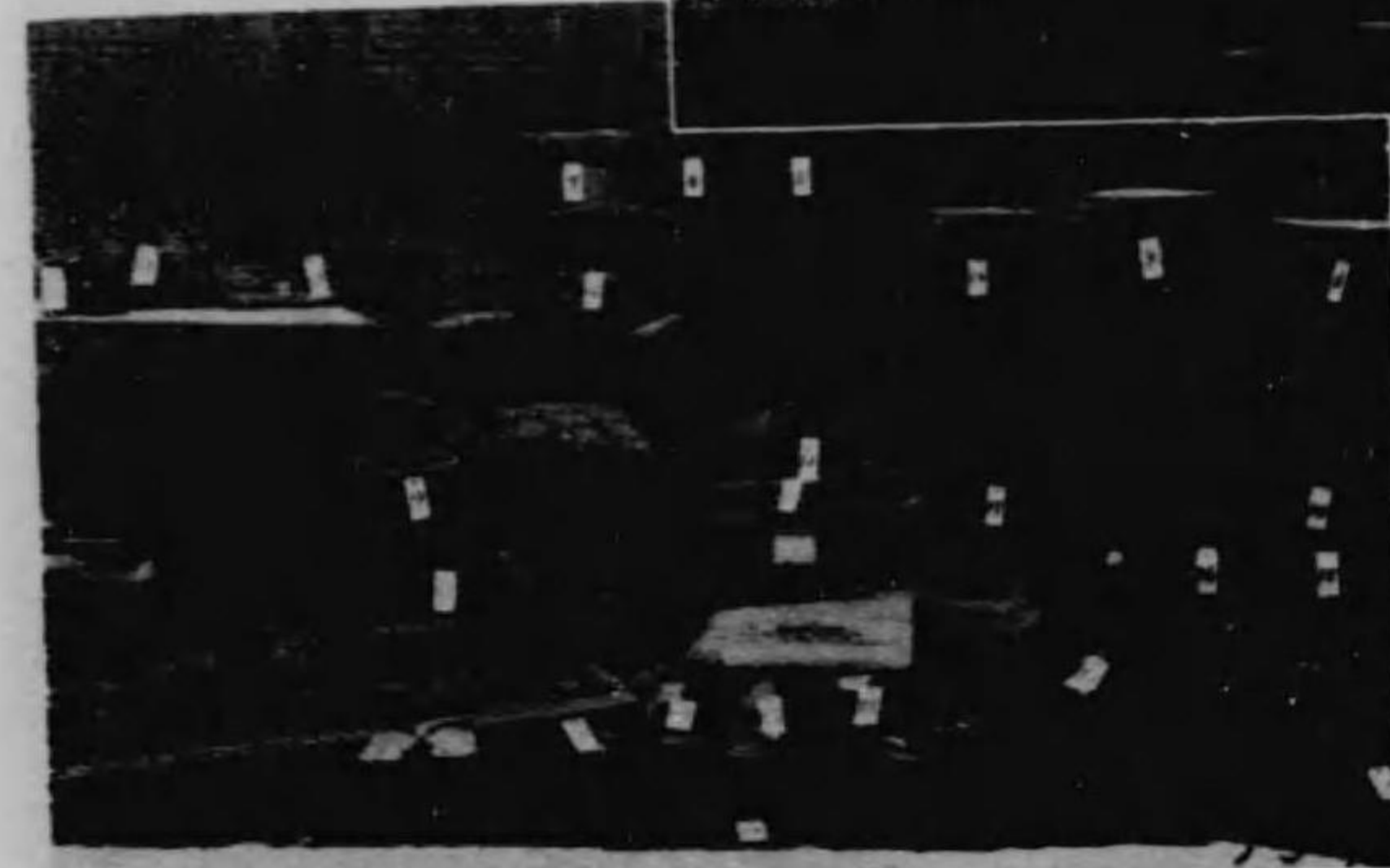


岡 山 後 樂 園 圖

岡 山 城



幸源即馬姓名譽
肉食誰傳舊典刑
矣兼東風胡蝶夢
山河如此附蝶蛤
山 陽



花 庭 及 應 用 品



吉 備 津 神 社



新 港

かつきす
るあまの
手引の糸
綺は豊垂
衣折るに
ぞありけ
る

港 崎 系



後 崎 道 の 尾
業 作 織 製 表

玉 島 港 外 八 幡 山



江 田 島 海 軍 兵 學 校



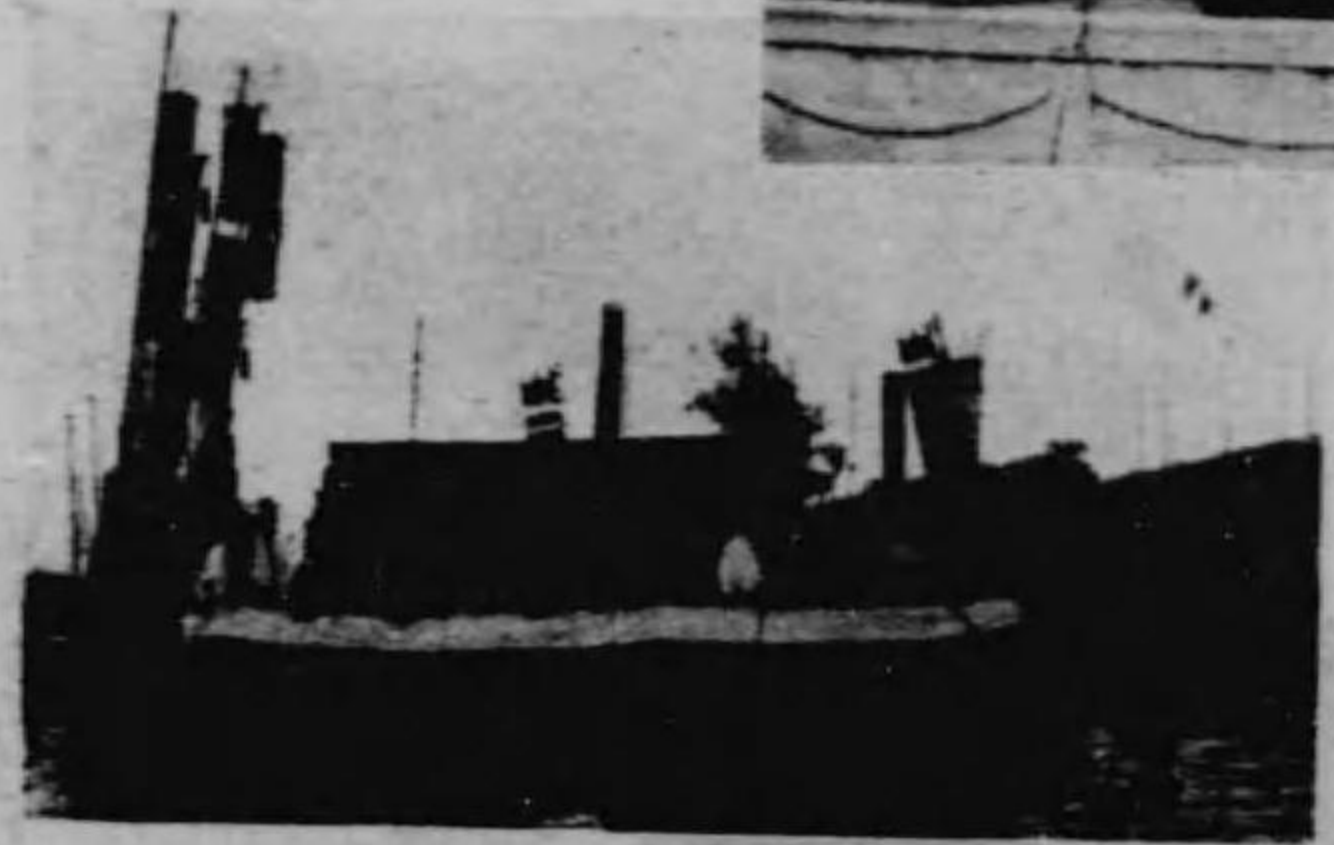
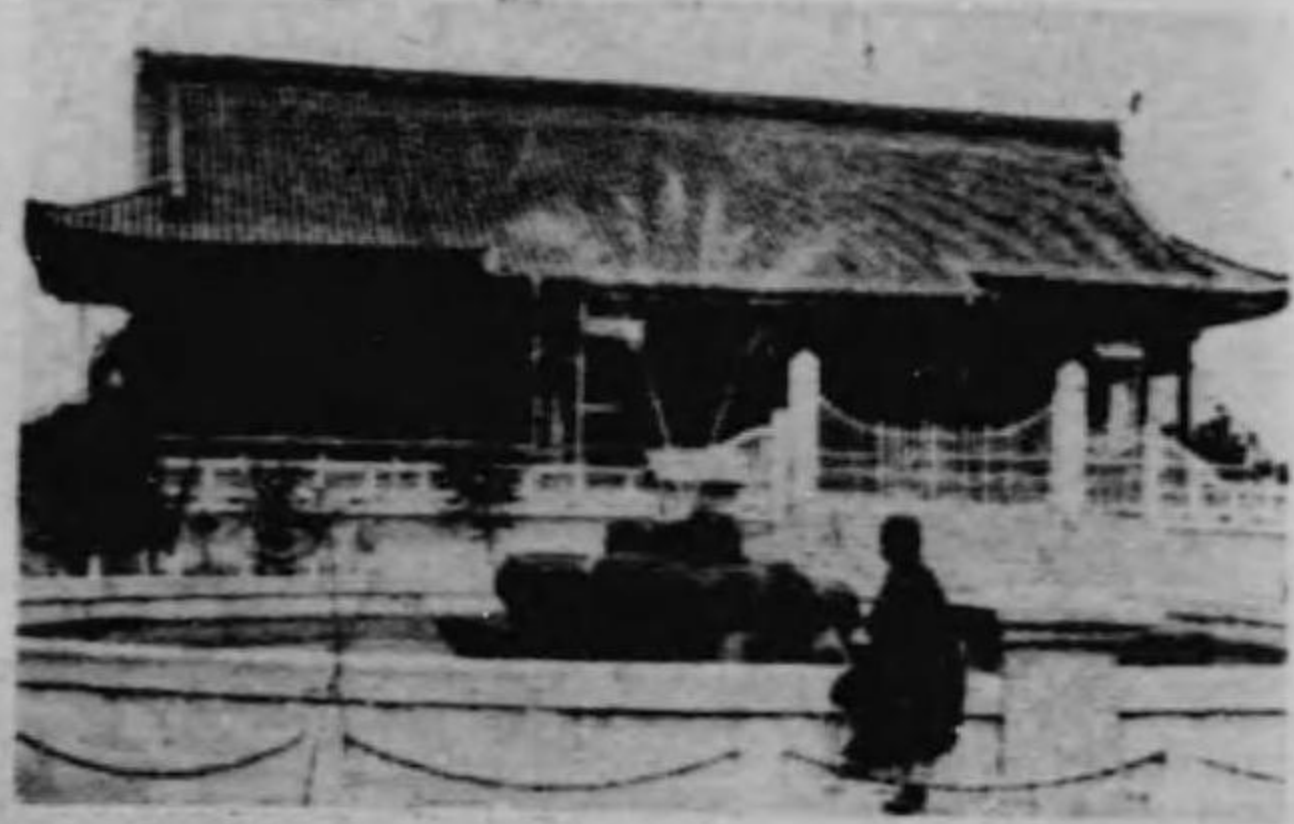
宇 品 港
世 降 や さ く ら
見 な が ら 宇 品 ま で
子 規



島 歌 小 津 其 の 風



廣島比治山公園内
 舊 櫓 便 殿
 官島や春の
 夕浪うねり来る
 子
 規



船廠
 客棧
 裝材



徳山海軍煉炭所



三田尻の港にて
 松原や高洲の
 糟こゆるまで
 三田尻の鹽田



山口風山公園
 月の出しはの
 更にけるかな
 了
 彼



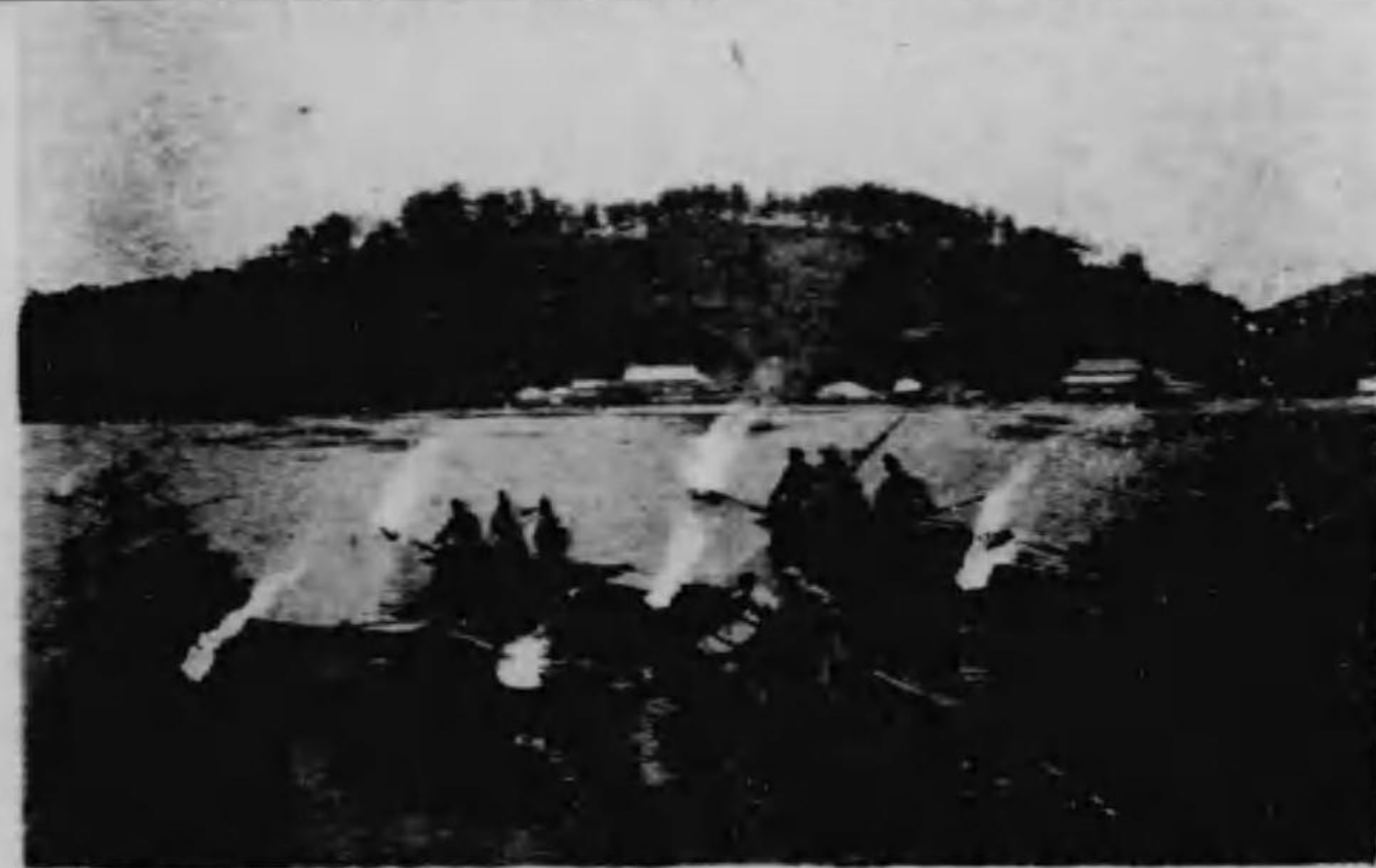
廣 島 市 神 島 照



に應へむとして居る、而して汽車は青松白沙の間を縫うて走り、優艶明媚また飽くを知らない風光である。姫路よりは南の方磨、北の方和田山に至る播但線あり、本線は姫路城の白壁を後にして、右に増位山、廣峰山、書寫山を仰ぎつつ進み、橋保川を渡るのである。有年よりは鐵路弓の如く迂回して、備後三郎が義舉に名高い船坂山の長隧道を過ぎて岡山を指す、岡山よりは南宇野に至りて讃岐線との連絡を爲す宇野線あり。本線は更に西して笠岡に至りて再び海光に接し、須磨明石以來久しく平凡なる山野に厭いた旅客をして、思はず目を拭はしむるのである。見よ前面深碧なる波に長く横はるは神島で、片島の奇螺之に連り、更に遙に養島を隔て、沼隅半島と相對する處、風光の美正に一個の好畫圖である。尾道糸崎のあたり風光愈美を加へ旅客をして眼に暇なからしむるのである。三原よりは海光に遠ざかりて藝州の山野を走る。河内、西條驛あたり、低山性の峰巒起伏し、溪流潺湲嵐氣綠を抱いて居る。海田市に至れば

三度海光に接し、こゝに南して吳車港に至る吳線を岐う、廣島よりは其海港たる宇品への支線を岐つて居る。廣島を後にすれば、やがて宮島の青螺が眼界に現れて來る。翠綠鬱蒼たる島の前に大島居が夢の如く海中に立ち、其後に蜃氣樓の如き彌廊の連なるは嚴島神社、社の左方高く聳ゆるは千疊敷及び五重塔である。宮島より西、玖波大竹あたり、大島附近、下松、徳山、福川あたり、鐵路瀬戸内海に瀕して風光甚佳、特に下松附近魚ヶ邊一帯の海岸、奇岩怪石汀邊に横はりて、笠戸の島低く波に浮ぶ所、佳景、云ふべからざるものがある。小郡に至れば北に岐るる山口線あり、厚狹に至れば北の方大嶺に至る大嶺線あり、本線は尙西して、埴生驛あたり左照系根の松原を隔て、豊前の連峯を望み、長府よりは下關の背後に伏起する丘陵の間を縫うて迂曲し、間もなく下關に達するのである。山口より津和野に至る鐵道は今工事中にて、仁保まで五哩餘本年十二月開通の豫定である。

岡 益 速 路 船



小 門 の 夜 焚



生 野 岡 山 廣 岡 場

山陽本線

山陽本線 神戸—下關

附 宇品線、山口線、大嶺線

兵庫 ひやうご 神戸市内の一隅、これより和田岬に至る支線あり。○長田神社、西北十七町、電車賃三錢。○淡川遊園地、東十四町、電車賃三錢。○新湊、南二十三町、能福寺大佛、南七町、電車賃三錢。○清盛塔、南十二町、鷹取たかとり、禪昌寺、西北十二町、紅葉の勝あり。○五月寺、東南九町、鷹取山、北三十町、須磨すま、須磨、明石附近は京阪神の人の四時遊放を曳くの地で、恰も鎌倉、逗子附近の地の京濱の人に於けると同一である、此地水勢沙明太だ歴雅の地、加ふるに源氏の君、行平の風流、平門一時の夢など、自然の勝景に史的の趣味を添へて、人をして懐古の情に堪へざらしむるのである。○須磨寺、北八町、電車賃四錢、源平當時の遺物を存す、境内今遊園となつて居る。○一の谷、西七町、電車賃四錢。○教盛寺、西十四町、電車賃四錢。○彌敷天神、東五町、○藤ケ峯、西北十町、○松尾村兩堂、東北七町、電車賃四錢。○武庫野宮、東北十五町、○櫻餅、櫻濱須磨味噌、須磨、櫻濱、垂水たるみ、○海神社、東一町、○神子まひら、○松林の中にあり、松は高さ二三大に迫り、おほむね長柿を賣うし

て枝幹屈曲し、高きは舞ふが如く、低きは臥すが如く、一樹には一樹の趣あり、百樹には百樹の風韻がある、沙はさながら白玉を散らすかと思はれ、南明石海峡を隔て、近く淡路島と相點頭き、青松雲波一色をなす處、白帆點々其間を舞うて居る。○神子嶽、明石あかし、○明石城址、西北三町、○人丸神社、東北八町、人力車賃九錢。○中崎遊園、南四町、海水浴場なり。○岩屋神社、南十一町、○岩屋の濱、西南十三町、○淡路島、南海上一里、驛より乗船場まで人力車賃十錢、岩屋町まで汽船賃十錢、海水浴に遊し、風光の美あり。○農事試験場、西北二十町、○木下鐵工所、南三町、○櫻津紡績會社、西北十七町、○米、麥、帆布、打刃物、明石嶺、魚介類、調味噌。○大久保おほくぼ、附近酒造家多し。○鳥ヶ谷温泉、西北二十二町、○和酒、備寸、土山つちやま、○櫻濱名所通り、別府の手枕、松、尾上の嶺、謡曲に名高き高砂、尾上の松、石の野殿、曾根の松等を巡覽するを云ふ、人力車賃一圓、四時間を要す。○加古川かこがは、○櫻濱名所通り、高砂、尾上、○鶴林寺へ輕便鐵道の便あり、鶴林寺へ四錢、尾上へ六錢、高砂へ七錢。○高砂港、南四十町、海濱海水浴に遊す、輕便鐵道賃九錢。○三菱製紙所、南一里、○雙ヶ淵紡績工場、南一里、○日本毛織會社、西六町、○洋紙、綿紙、手織物。○寶、粟はうでん、○櫻濱名所通り、石の寶殿へ、人力車賃十錢、高砂の松、曾根の松へ二十五錢、尾上の嶺へ三十錢、

山陽本線

○曾根の松へ三十五錢、○大嶺鹽田、南一里、○倉鹽、浴巾、煉瓦。○御着こちやく、○國分寺、西二町、○麻生山、西南十町、播磨富士の名あり。○姫路ひめぢ、市は播磨の中央、沿海の平野に在り市川に臨む、播磨嶺の分岐點である、元酒井氏の城市で、城は曾て秀吉の築いた世に名高い白雲城、五層の天主閣として半空に聳えて居る、今第十師團の營所である、市は人口三萬七千人を有し、姫路車、姫路本線を産する。○射橋兵主神社、北十町、○船場本徳寺、西十一町、○龜山本徳寺、西南半里、○第十師團司令部、北十二町、○歩兵第八旅團司令部、北十一町、○姫路市役所、東六町、○製綿會社、東九町、○良燈社工場、西十町、○福田製鐵工場、西南十三町、○高井綿ネル工場、東九町、○網干あほし、○鶴、○堀寺、北半里、電車賃八錢、室徳太子の起された法慶寺別院である。○魚吹八幡宮、南一里、○福門寺、南一里五町、電車賃八錢、○龍野町、北一里半、電車賃十一錢。○龍野醬油、紫藤、鮎、○龍野たつの、○林田梅林、東北三里半、○室津港、南二里、龍川時代西國大名参勤往來の著岸、港内の風光最佳、謡曲室君には昔の面影を止めて居る。○野見宿禰の墓、西北一里十五町、○龍野醬油、紫藤、紫、鮎、鮎、○波たは、○赤松、南三里、馬車賃二十錢、大石良雄等四十七

義士の出所地名高い、鹽の産地である、大石嶺、大石川、龍野寺内の聖堂、元祿の昔を追想せしむるものが多い。○上郡かみごぼり、○白銀城址、北二里、○三石みつし、○舟坂山、東二十五町、○煉瓦會社、西二町、○石粉會社、西南十二町、○クレイ會社、西四町、○耐火煉瓦、石粉、○煉石細工、石粉、クレイ。○吉永よしたが、○芳嵐園、西北二十町、人力車賃十六錢、櫻花が多い、村内寶成寺に和氣清麿の碑がある。○開谷、南二十五町、人力車賃十錢、池田光政の創立、熊澤善山の子弟を輩出した處。○和氣谷池田家廟墓、西北二里、○和氣わけ、○寛温泉、北七里、○天神山城址、西北一里、○伊部町、南二里半陶器の産地。○伊部、土管、煉瓦。○萬富まんとも、○金剛童子、南十六町、○桃、梨。○西大寺さいだいじ、○西大寺、南一里、輕便鐵道賃十錢、眞言宗の古刹、毎月十四、五兩日會陽あり、賽者數千人競うて馬木を取る。○米、ボール紙、岡山をかやま、もと池田氏の城址、中國屈指の大都市、旭川に臨り岡山平野に位置を占めて居る、今人口八萬六千人を有し、紡績系、花冠等の輸出が多く、競艇、競馬、小倉織、綿ネル、生糸、米穀等の取引が盛に、其他備前樂、龍野桑の産あり、名物吉備團子、米のなる本は旅客の珍とする所である、鐵道はこゝより分岐して南する宇野線あり、宇野よりは四國高松への連絡船あり、僅に一時二十分を要するのみである、別に中國鐵道あり、北は津山、西は瀨井に達して居る、市内電車の便あり。○岡山

山陽本線

城址、東半里。○後樂園、東十六町、電車五錢、人力車十四錢、旭川を隔て、直に岡山城と相對し、林泉の美に富んで居る、園中四ヶ所の池沼を繋ぎ、渠を通じて水を旭川の上流より引き、回流して復旭川に入る、一脈の水流或は潮となり或は瀧となり、岩を噛み苔を洗ひて迂曲し、以て園の風致を加へるので、延壽亭、翠湖閣、茂松庵、龍池軒、流店、一亭一樹既器各趣が變つて居り、仙鶴悠々池畔に逍遙して人に馴れて居る、春花秋葉夏晴冬雪、四時の光景一として佳ならざるはない。○東山公園、東南二十町、電車五錢、下車後人力車賃十錢、遙に元島瀆を望み、風光明輝である、園内和氣清廣、兒島高徳、楠正成のが、天然の野却て此に多いやうである、園内和氣清廣、兒島高徳、楠正成の三靈を合祀した三靈神社あり。○國清寺、東二十二町、池田氏累世の香華院。○五百羅漢、東二十町。○蓮昌寺、東二十二町。○宗忠神社、西南三十二町、人力車十八錢、墨住教の本社である。○三福港、南二里半。○高杉稻荷、中間道稻荷山崎の北三町、賃金二十二錢。○吉備津神社、同吉備津驛より東五町、賃金十四錢、三個三社第一の古社、今官幣中社に列す、祠宇頗る古風を遺して、規模宏大建築壯麗である、社内御釜の桶殿あり、饗賓阿曾女に講うて吉備神話をトするが例である、社後の丘岡は即ち吉備の中山、絶頂にある龜形の大塚は、古備津産命の御墓である、一條の細流この山に發し、祠域を流ざりて居るのは古來にも高い細谷川。○高杉が通る、同高杉驛より北八町、

賃金十八錢。○豪溪、同高杉驛より一里二十五町。○第十七師團司令部、北二十町。○岡山縣廳、東十三町。○市役所、東南十六町。○第六高等學校、東三十町。○岡山醫學專門學校、東十六町。○鐘淵紡績備前工場、南五町。○岡山工場、東二十六町。○同生系工場、南二十三町。○農工銀行、東十三町。○岡山劇場、東十町。○高砂屋、東十六町。○庭瀨にはせ。○吉備津神社、北一里、人力車賃十五錢、岡山驛參照。○花庭、疊表、燃川園。○倉敷くらしき。○倉敷公園、南一町。○帯江觀音、東南一里。○倉敷紡績會社、南二町。○倉敷系會社、南七町。○紡績系、花庭、疊表。○玉島たまし。○町は驛南二十七町。人力車賃十五錢、四國との交通の衝に當り、備中第一の要港である、港頭柏島の丘上の圓通寺は既述のよい所である、養父ヶ島及八幡山は港の南半里、風光佳。○吉備備前、北二里半。○水島鉛水製煉所、南海上三里、運船十錢。○紡績系、製鋼。○金神こんじん。○金光神社、東南三町、岡山の墨住神社と共に地方有数の流行神である。○沙美海水浴場、東南一里十町、人力車賃二十八錢。○寂光院、南二十二町。○笠岡かさおか。○備中の一要津、生糸養蠶區田を産す。○古城山公園、東一町。○廣濟橋山、東一里。○神島海水浴場、南上南一里、汽船賃備前まで八錢、外浦まで十五錢、附近高峯、白石島、北木島、渡島島、大飛島、小飛島等あり、自遊りをすれば島が多い。○竹原町、北三里半、輕便賃金二十八錢、○多度

山陽本線

津、南海上十里、汽車賃四十五錢。○大門だいまん。○海水浴場、東南十二町。○福山ふくやま。○蓮田川の下流に在り、市街は海より離れて居るが、向瀬水溝渠を通じ運漕に便である、もと阿部氏の城邑で、綿糸、生糸、蠶糸、養蠶等の産がある。○福山城址、北二町。○福島紡績工場、南五町。○工業試験場、西南五町。○新港、南三里、輕便運賃賃金二十一錢、瀬戸内海の要津、風光の美を以て関ゆ、保命酒、醬を産す、仙酔島、福壽寺、沼名神社等の勝地あり。○阿伏鬼觀音、南より西一里十五町、人力車賃十五錢、阿伏鬼御前殿の上に在り、關は海面より高きこと九十二尺、關に完て下懸すれば、海山の既述甚奇絶である。○松永まつなが。○阿伏鬼觀音、南三里半。○下駄尾道をのみち。○備後第一の海市、瀬戸内海船業の中心地である、東洋汽船を介して四國の多度津、今治への連絡便あり、多度津まで四時間を要するに過ぎない、伊豫の道後温泉に遊ばむと思ふ人も並より高濱への汽船便に頼るがよい、船賃三等九十一錢、市は今人口三萬一千人を有し、花庭、疊表、酒、鯛を産し、所謂備後表の主産地である、地形は大寶變岩の二山其後に峙ち、向島其前面に横はりて一海峡をなし、海山の展露まことに濶蕪である、この風光を見やうとするには、大野山に在る千光寺がよい、寺は、驛の東北八町展露吉備第一である、見渡せば幾十の青翠眼下に錯落して、海は正に幾多の平湖をなし、遠くは伊豫灘の翠煙るが如く、絶勝譽ふるものがない。○西國

寺、東十五町。○淨土寺、東二十町。○天壽寺、東八町。○備前八幡宮、東北十三町。○國島土生船渠、西南海上十里、汽船賃三十二錢。○市役所東八町。○備前座、東十九町。○崎いとどき。○開港場の一、最近貿易額二百八十五萬圓に上る。○能地の浦の浮網、西南海上三里。○大崎下島、生口島の南林、海上八里汽船便あり、花候紅藍蠶種として天も亦勝ふ、附近大小の島嶼星羅散布し、瀬戸内海の美を盡して居る、夏期海水浴に適す。○三原みはら。○小早川氏の舊城下、後に山を貫ひ前は直に海に臨む、城址は驛の北に接し今公園となつて居る。○妙正寺、北四町、境地山に倚り海に枕んで既述佳。○西野庵林、西一里。○八坂鏡山、北二里。○米、麥、疊表。○本郷ほんがら。○佛通寺、東北一里半、人力車賃三十八錢、臨濟宗の本山、安藝の高野と云つて居る。○忠海町、南三里、海岸の一名邑、綿布を産す、人力車賃四十八錢。○竹原町、西南四里半、人力車賃七十二錢、額山陽の生地である。○米山寺、南二十五町。○小早川城址、北八町。○河内かうち。○竹林寺、西二十町。○深山公園、北八町。○西條さいどう。○吾妻子の瀧、南一里。○農事試験所、南三町。○西條酒、白土。○海田市かいたいち。○吳線の分岐點。○府中多祿理官西一里、神武天皇行在の古蹟である。○彌、葡萄、養蠶區田。○廣島ひろしま。○大田川の成せる三角洲上に立ち、背後に廣島平野を控へ、南は直に海に臨み、宇品港を以て其埠頭として居る、元淺野氏の城市で、人口十五萬、

千人を有し、中國第一、本邦第八位の都會である。大田川は市内に入り、四派に岐れて貫流して居るので、宛然水の都と稱せらるゝ大阪を見るが如く、然も市場の風に於ても其範を大阪に倣つて居るやうである。物産は、桑、蠶、紙、糖、茶、海苔、藍、木材、山崎油、家具、佛壇、漆器等あり、柿羊羹は此地の名産である。○廣島城、西半里、電車賃五錢、毛利輝元の創築したもので向天主廟を存し、今第五師團司令部あり、三十七八年の役、明治天皇親征を廣島に駐め、城中を以て大本營となし、軍國の事を統へ給ひ、我軍大捷武威八表に揚つた、此地實に國史の上に不朽の名を得たのである。○饒津神社、北十二町、人力車賃七錢、善海祖長政を祀る、境内今公園たり。○泉邸、西九町、電車七錢、泉石花卉の勝あり。○比治山公園、南十七町、人力車十錢、園内日清の役に際し、臨時廣島帝國議會議事堂内に在つた記念銅像殿を移して、銅像影及當時の御物を奉置してある。○國藥寺、西前二十町。○興樂園、西南三十町。○江波公園、西南一里十町、附近は饒、海苔の主産地である。○不利院、北一里。○多聞院、南十五町。○宇品港、廣島の海港、宇品支線の終點、二十七八年戰役以來、軍事上重要な兵站基地として、其名世界に著はれ、市の繁華を來したのも、亦この港を有するが爲で陸軍運輸部本部、陸軍糧食支隊等あり、瀬戸内海、四國、臺灣航路の要津である、港西の宇品島は橋梁相通して居る、觀音堂あり、裏山がよい。○廣島縣廳、西南二十九町。○廣島市役所、西南二十九町。

嚴島略圖



嚴島は陸軍重要地帯なるが故に、本島二十町一帯に、陸軍部によりて、放大した地名を注記したるに過ぎず。山嶽の起伏、海岸線の形状等も、概して大略に從ひたる。

三十五町。○大阪合同紡績工場、南六町。○物産陳列所、西二十三町。○露座西三十三町。○横川よこがは、此より可部に至る輕便鐵道あり。○八太郎林、北二里半、輕便賃金十四錢。○泉邸、東三十町。○巴、斐こひ。○百花園。北三町。○草津梅林、西一里。○五日市、つかいち。○海水浴場、南四町。○風呂釜、鹽釜釜。○廿日市、つかいち。○桂公園、東北九町。○洞雲寺、北四町。○陶全委の墓あり。○饒津細工。○宮島みやじま。

宮島の勝

嚴島は山陽線第一の勝地である、宮島驛に下車すれば汽車の時間と連絡した小汽船あり、十五分にして、風光明媚なこの別天地に運ぶのである。島は廣島灣の西南、佐伯郡の陸に沿うて、東西三十町、南北二里半其北偏に嚴島神社あり、風光秀麗なる境を占め、股關海に向ひて、水中に基礎を建て、居る。其結構を見るに、大宮及客神社の二大部より成り、大宮、寶殿其中央にあり、幣殿、拜殿、祓殿、其間にあり、祓殿の前に高舞臺、其左右に平舞臺あり、樂房それについて左右に分れ、門客神社、樂房と並びて左右に立て居る。廟嘴は火燒前といひ、更に海に突出すること七間餘、遙に海中の大鳥居と相對し其一

端に一大燈籠を設けてある。寶殿の左右に廻廊あり、屈曲四十八間の長きに互り、一間毎に鐵燈籠を釣つてある、潮來れば廣斥渡忽ち生じ、百燈長く照映して、光彩陸離名状すべからざるの美觀を呈するのである。有名な海中の大鳥居は、火燒前の前方七十間、軟沙の上に立て居る、満潮の時は、參詣の舟白帆を揚げて潜り入ることが出来る。本殿より左折して廻廊を廻れば客神社で、寶殿、拜殿、幣殿、祓殿、並び備はつて居る、社殿の後方に在る圓形の一瑤池は鏡ヶ池といひ、月夜明鏡の裏、嫦娥其嬌容を映するのである。殿閣の前方、左右の江濱松並木あり、松に傍うて百八の石燈籠がある、此あたり麋鹿遺逸して人に親しむのである。凡そ此神社の結構は、江山自然の形勝を利用して、殿閣廊廡の排布を爲し、高きに攀ちて俯視すべく、舟に泛びて遠望すべく、江山樓閣相掩映して、無限の妙趣を見るのである。

御手洗川を渡れば大願寺がある、海に沿うて更に西すれ



ば大元神社、境内今公園となつて居る。大元浦の後山には二層の寶塔がある。紅葉谷は公園で、小洞幽遠、御手洗川潺々として奔る處、岸の兩邊楓樹多く、危橋架り、怪岩横はりて景趣をなして居る。宮の東岡の塔岡は陶晴賢の陣を構へた處で、北方町を隔て、毛利氏の戊兵を置いた要害鼻を望むことが出来る。岡に豐公の築造した千疊敷、及五重塔がある、要害鼻は汽船棧橋の上方で、元就は茲に兵を置いて陶の大兵を誘致したのである。海岸に沿うて北に行けば長濱、海水浴に適する。御山は大宮の後なる秀靈の峰、登路廿八町、頂上の觀望廣潤である、登路に白糸の瀧あり、瀧の宮あり、夏の夜は螢の多い所である。

島に杉浦、鷹巢浦、腰細浦、青海苔浦、山白濱、須屋浦、御床の浦の七浦あつて、各浦に江比須祠を祀つて居る、安藝の宮島まれば七里浦は七浦七江比須、風光の變化に富める、煙波の趣致多き、島巡りも亦興が多からう、此島巡りをするには院所屬の巡遊汽船あり、嚴島棧橋を發し、須屋浦

山陽本線

青海苔浦、杉浦をて歸著す、巡航期間四月一日より十一月廿三日まで、毎日一回午前十時に發し、午後一時四十分

大竹おほたけ、小瀬川戦場、西十二町、慶應年間長州征伐の時の劇戦地、魚切蛇喰の跡、北四里、土佐紙會社工場、西十五町

山陽本線

土管、養老、三田尻、みたり、周防第一の良港、三田尻廣に開む、宮市と合して、今防府と云ふ、附近に鹽田が多い、宮市天満宮、北九町、人力車

風光を見渡される

大島おほはたけ、岩尾瀬、東北二十九町神代に在り、夏初神代講を設

肥前、肥後、厚狭あさ、大瀬の分岐點、赤間石を産す、目白不動、東北二十町、深川温泉、大瀬線伊佐郡の北七里、於福嶺山、同嶺北三里半

小月をつき、小月地を産す、東行庵、北一里、馬車賃二十錢、高杉晋作閉居の地、墓あり、俵山温泉、北八里半、馬車八十三錢、長府ちやう

五分、朝鮮の釜山へは鮮満直通急行列車に連絡する爲め、一週一回は十一時間、其他は十一時間半で行かれる。驛前には院直醫の山陽ホテルあり、館内各室とも清楚を旨とし、酒場、玉榮場、閱覽室、浴場等の設備もあるから、宿泊は無難であるが、汽車汽船の待合せ、入浴食事等にも便利である。市街は後に丘陵を貫ひ、前は直に海に瀕して、東端浦より西は彦島に連つて居る、其後山に登れば、眼界遠く開け、山光水色畫くが如く、山陽線中絶に見るの佳景である。○赤間宮、東二十町、人力車賃二十三錢、紅石山麓に在り、境内に隣して安徳帝の御陵あり、附近平家一門の墓あり、懐古の情を催さしむるもの多し。○壇の浦、東二十五町、人力車賃二十九錢、浦に平家蟹及小平家を誣す。○龜山神社、東十六町。○春帆樓、東十九町、日清講和談判場。○櫻山、西二十町。○小門、西二十二町、人力車賃二十五錢、海水浴場あり、風光佳、附近の漁夫夏秋の交、夜々小舟に松明を焚き網を以て魚類を捕ふ、漁火散じては螢火の如く、集つては火團の如く、また一美觀を呈するのである。○下関要港司令部、東三十町。○市役所、東十四町。○開門汽船會社、東十四町。○稻荷座、西一町。○辨天座、東十六町。

播 但 線 飾 磨 —— 姫 路 —— 和 田 山

宇 野 線 岡 山 —— 宇 野

飾磨 しかま 家島群島前面に聳ちし、風景甚佳、海水浴に適す。○家島港、海上五里、汽船賃二十五錢。○高松港、海上二十五里、汽船賃八十錢。○明琴、紡績系、素織、コークス。天神 てんじん ○松原神社、東一里。○濱の天神、南六町。○素織、干練。龜山 かめやま ○本徳寺、東二町。野里 のさと ○白國梅林、北七町。○廣崎神社、北二十五町、廣崎山上に在り、眺望佳。○書寫山、山麓まで一里半、山上圓教寺あり、幽靜なる別天地で、遊藝に適す。○地位温泉、北七町、人力車賃十錢。瀧口 みぞぐち ○中村鎮泉、西北二十町。○鹽田鎮泉、西一里半。福崎 ふくざき ○妙徳寺、東半里。○松茸寺 前てらまへ ○太田の瀧、西北二里。生野 いくの 生野鎮山があるのて名高い。○生野鎮山、東十二町。○金ヶ瀬鎮山、東一里半。○藤原明礬山、西二里。○生野公園、東三町。○瀧石、明礬鎮 新井にぬ ○勳王志士南八郎(本名川上彌一)の墓、南半里。竹田 たけだ ○朝来山の櫻、東南十一町、但馬吉野と云つて居る。○虎臥城址、西七町。

鹿田 しかた ○宗史神社、西十五町 人力車賃十二錢 茶屋町ちや

渡瀬せんとするの勢がある、市内電車あり、江田島は西二里、海軍兵學校がある、北方廣島市と相鄰む間に似、島が浮んで安藝の小富士といはれて居る、江田島の南方にある倉島は、元一地畝を爲して本土と接續して居たのを、平清盛が舟行の便を計らむ爲、これを開墾したのだといふ、これ即ち瀬戸内海路地の一なる瀬戸瀬戸で、對岸鞆町との間五十間餘に過ぎない、潮流激しくて帆船は順潮の時でなければ、容易に通過することが出来ない、附近風光明媚である。○瀬戸の瀬戸、南二里。○吳鎮守府、東南十五町。○海軍工廠、東南三十二町。○海兵團、東南十町。○市役所、東六町。○油網、酒

吳 線 海 田 市 —— 吳

まろ ○瀬戸ノ渡、南二十町、人力車賃十五錢、濠平の戦、佐々木盛綱渡瀬を渡りて平軍を走らせた處、詠曲瀬戸に詳かなり、今只一陸の細流があるばかりである、古今地的變遷の一證として、地文學上多大の興味がある。○不洗の觀音、西一里。○帶江鎮山、西北二里。○味野町、南西九哩、輕便鐵道賃二十六錢、商船學校あり。○花庭、小倉鎮、足袋。由 加ゆが ○由加神社、西南一里十町。○小倉鎮、備前鎮。八 濱 はちまゝ ○水産試驗所、東一里。○兒島委員會社、東北一里。○龜、灰貝。宇 野 うの 兒島半島の南端、四圍島松への連絡汽船あり、一時二十分を要す、風光佳、海水浴に適す。○扇井海水浴場、西十五町。○日比港、西一里二十三町。○益川海水浴場、西二里七町。○牛ヶ首島、東北一哩半、船賃二十錢、近く日蓮の大石像を建設する營

小 屋 浦 こやうら 夏朝海水浴場あり 吉 浦 よしうら ○江田島兵學校、南西三海里 吳 くれ 廣島産の東側、海軍鎮守府所在地、造兵廠、造船廠、製鋼所あり、住時海岸の一小島、今尙大なる軍港となり、人口十萬一千人

本元第十位の都會となつた、中國に於て既に岡山市を超え、將來或は廣島市を

ほのくとあかし人丸さくら花 任 口
霧はれて高砂の町まのあたり 蕪 村
名月や赤穂の鹽汲いとまなみ 許 六
秋風や鬼とりひしぐ吉備の山 去 來
宮島の神社はしる小鹿かな 子 規

山 陰 線

山 陰 線

山陰線とは

一 山陰本線 京都、小田間二四九哩六分
一 舞鶴線 綾部、新舞鶴間一六哩四分、舞鶴、海舞

一 倉吉輕便線 上井、倉吉間二哩六分
一 境線 米子、境間一哩二分

一 大社線 出雲今市、大社間四哩七分

の總稱で、其本線は京都を起點として、保津川の溪谷に沿うて山陰に入り、綾部に至りて舞鶴線を北に岐ち、本線は西して福知山にて福知山線と合し、和田山にて播但線に合し、これより北して圓山川に沿うて城崎温泉地に至り、竹野に出で、初めて蒼茫たる日本海の煙波に接するのである

竹野より西米子に至るまで、汽車は絶えず日本海に沿うて走り雄壯な風光が多い、鐘驛は懸崖の上に在り、展望雄大にして眼下狂瀾の岩に激するを見る、斷崖の下岩に懸つて軒を列ぬる漁村の見ゆるは平家の落武者村で、旅客は車窓限りなき興趣を覺ゆるであらう。鐘驛より西に走ること約一哩、辨天荒神兩山の溪間、落武者村なる餘部の村落を過ぎて、延長一〇一五呎、高さ一二五呎、恰も紅霞の如く中空に架けたる餘部の大陸橋を渡る、雲上徂徠の語は正にかゝる處を形容した詞であらう。久坂、濱坂より居組、岩美に至る間、千仞の絶壁道を壓して聳立し、奇岩怪石懸瀉と其雄を争つて居る、景致勝絶天下に稀に見るの奇觀で、車窓目を休むるの適なき風光である



豊岡柳篋製造作業
柳行李二見の
浦の湯入り舟
渡々



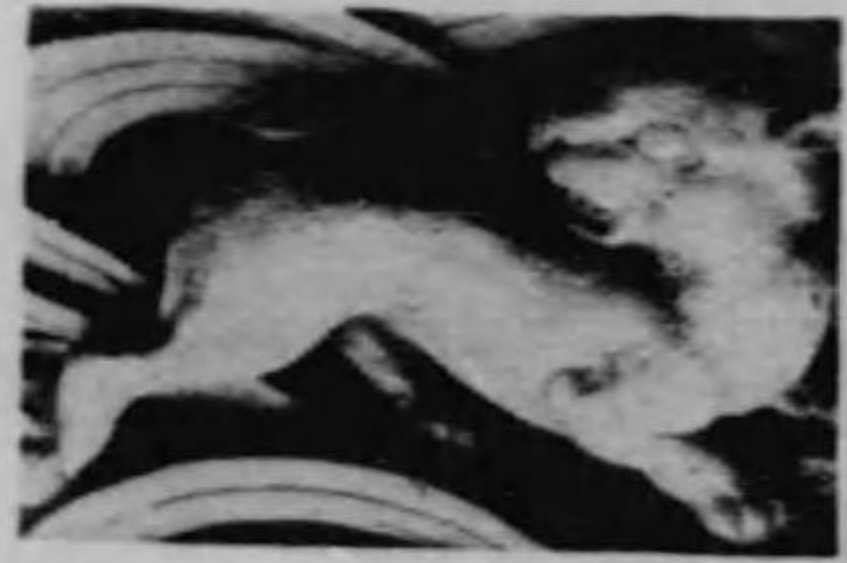
城崎の温泉は涅槃寺の
開基道知の發見と傳ふ
城崎温泉全景



餘部鐵橋
かしこくも
踏みわけしより
たえやらで



道しるやまの
名こそ高けれ
浦富海岸
種島



同兔の影刻

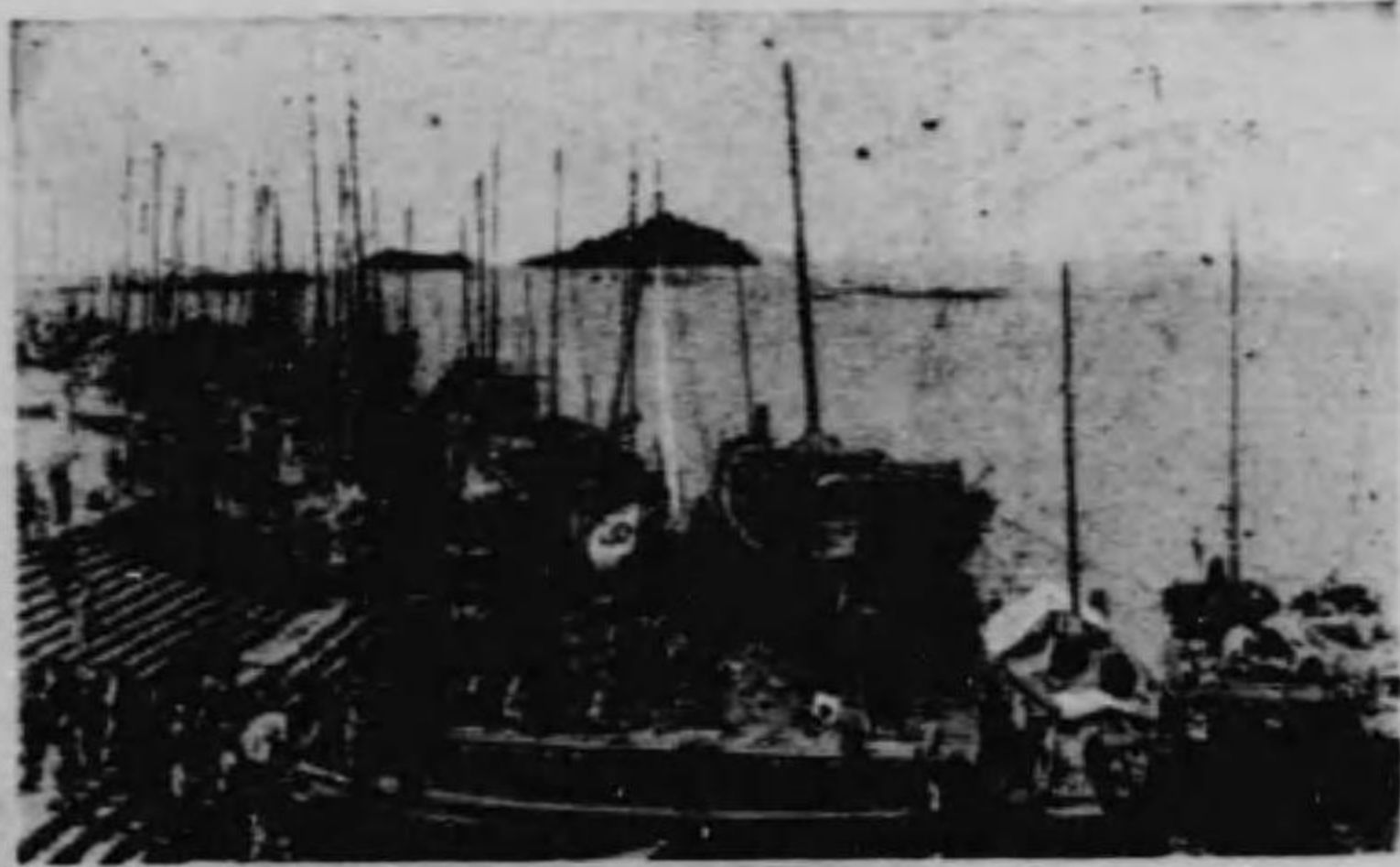
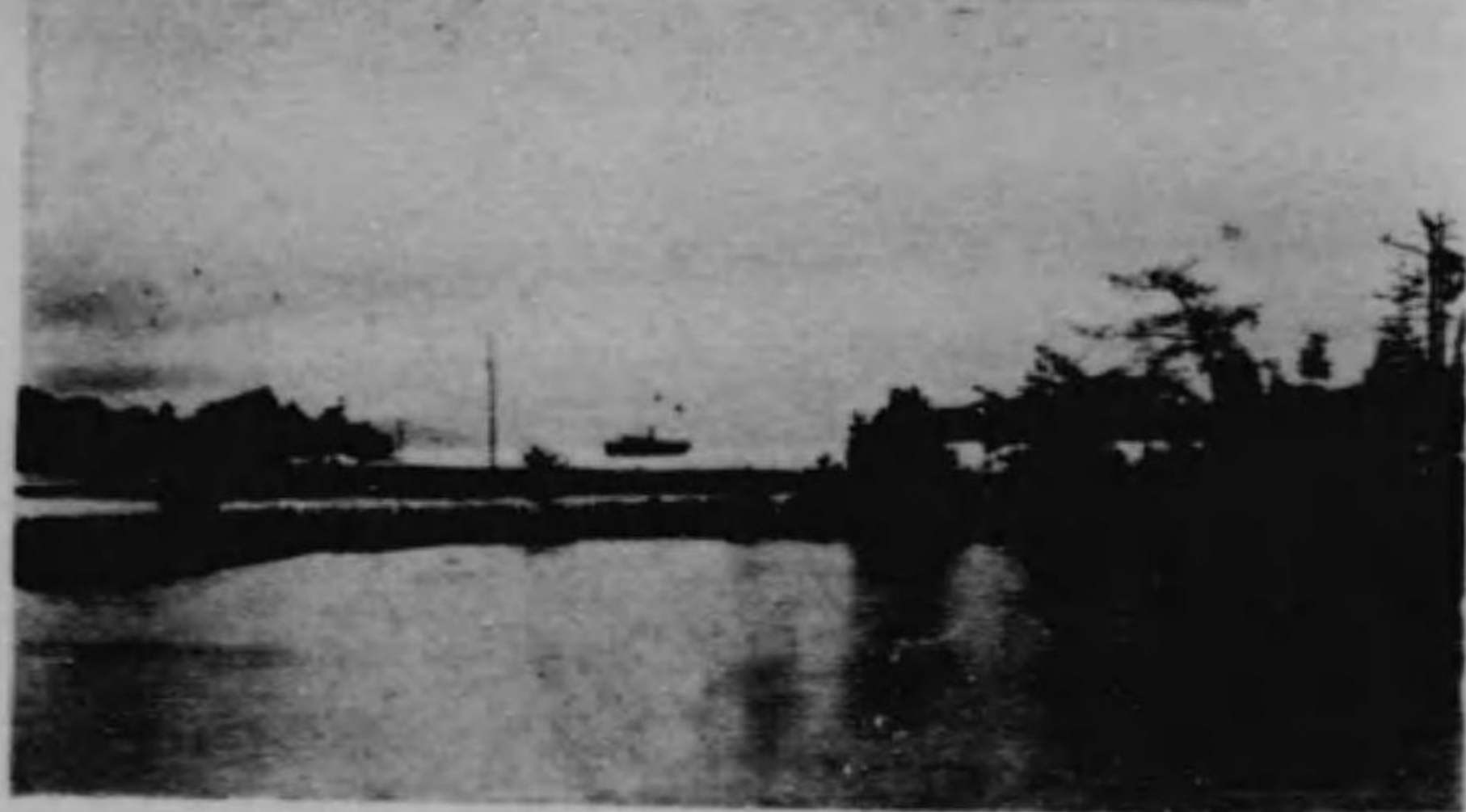
家々の留守居
よるなり大社
其角
今市の市日と
いへば時雨かな
許六

出雲大社八足門

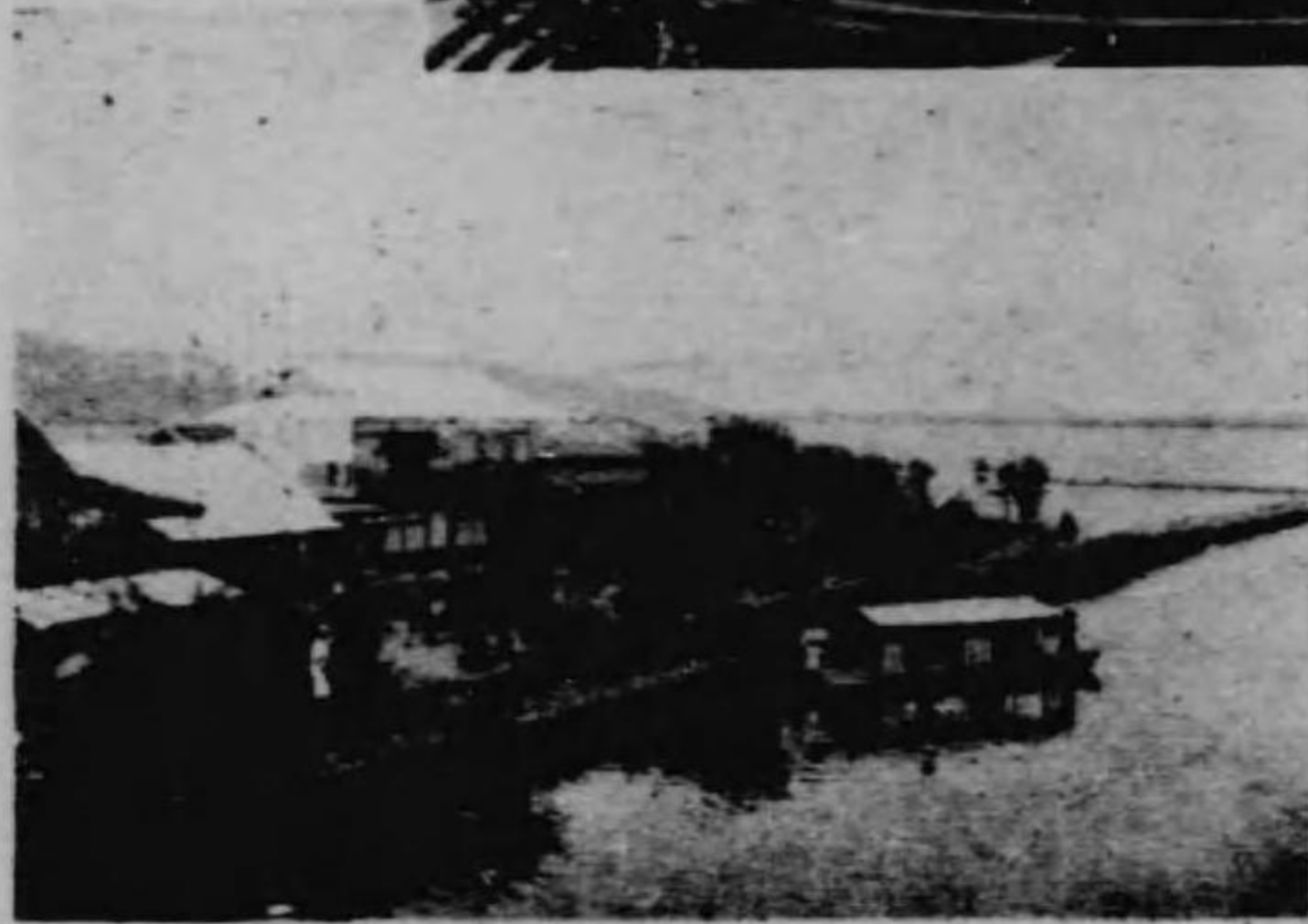


美保ヶ関

天の橋立切戸の渡



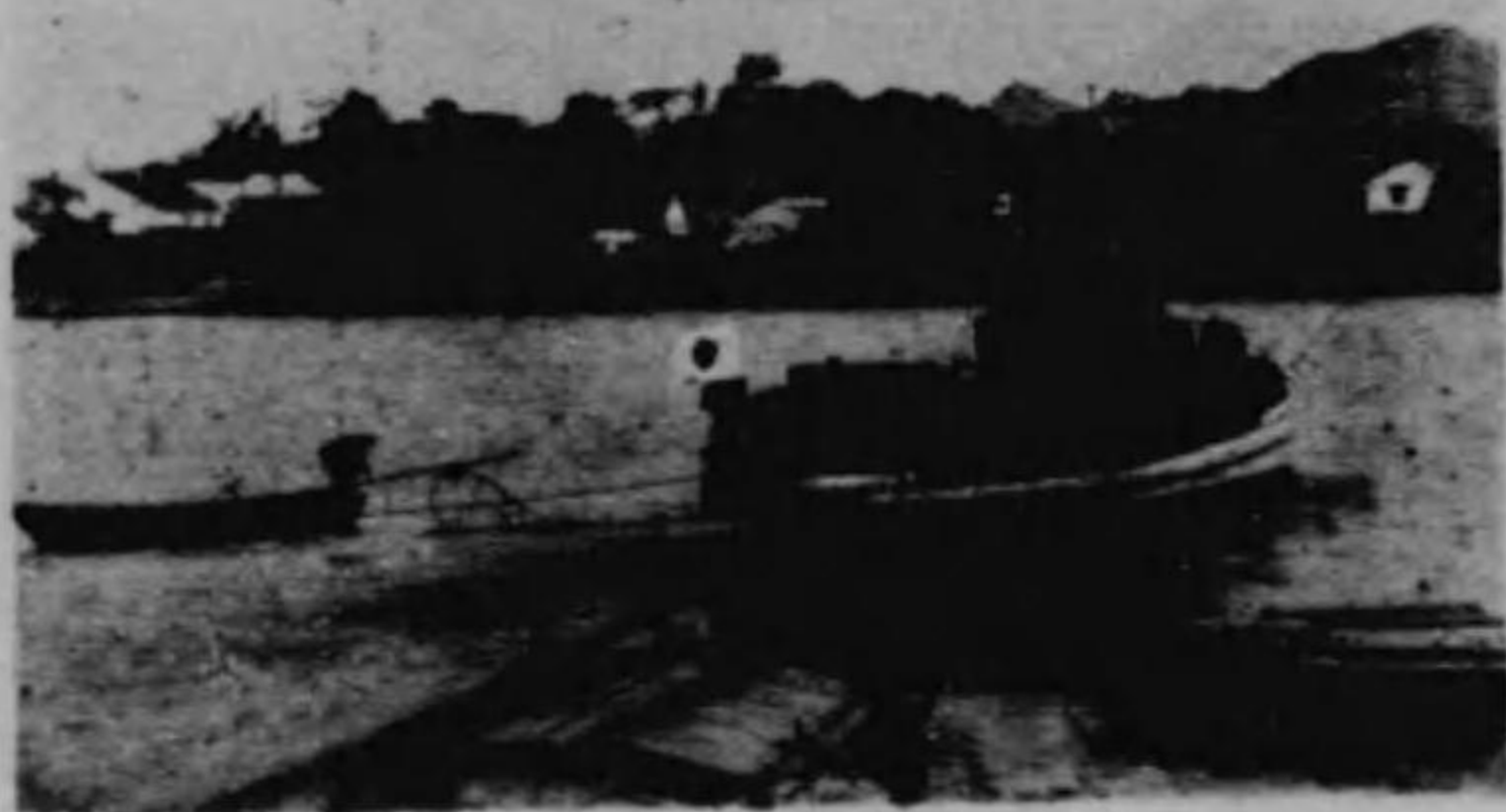
鳥取賀露港



大山
大嶽削成三萬丈
絶巖標渺有無中
東郷温泉



米子附近大山遼望
雪雹吹散來爲液
瀾聲動地北溪風
仁科白谷



安道部より舊城を望む

山 陰 本 線

鳥取を後にしてよりは、湖山池の風光あり、東郷湖の景致あり、優麗なる大山の山容また車窓の眺に入りて、風光更に壯美を加ふるのである。米子は境支線の北に岐る、處で、本線は更に西して中ノ海に沿うて松江に至り、更に茲に秀麗なる宍道湖の風光を見ることとなる、日本海の雄壯な風光を後にして、この温雅な光景に遇ふ、山陰の風光亦多趣なりといふべしである。松江よりは汽車宍道湖畔に沿うて走り、出雲今市に至り、茲に大社線を岐ち、本線は小田に至つて止まつて居る、小田より濱田に至る鐵道は今工事中にて中太田まで本年六月開通の豫定である、列車の運行は京都より大社へ一回、大阪より松江へ一回、大社へ一回の直通列車あり、大社へのは夜行である、京都大社間、大阪大社間共に約十三時間を要する

山陰本線 京都—小田

附倉吉輕便線、大社線



京都大社間には東海道本線京都の都多照臨同かめをかもと山と稱し松平氏の城邑であつた、龜山城址は町の北端に在り、明智光秀の築く所、本能寺變の計畫をした處だと云ふ、保津川下り乗船所、東北五町、人力車賃六錢、穴蓮寺、金剛寺共に西一里餘穴太に在り、法貴谷、西南一里、花崗石の奇巖起伏し、頗る奇觀を呈して居る、出雲神社、北一里半、丹波一ノ宮、今國幣中社に列す、米粉、夢天、しのゝめ、團部、そのべ、もと小田氏の城邑である、山柙四周、翠嵐白雲常に來りて瞻望に迷ふ、團部公園、西半里、珊瑚溪、西二里、殿田とのだ、曲淵の奇巖、東十二町、渡部あやべ、舞鶴線の分岐點、もと九鬼氏の城邑であつた、和知川、鮎川、東十四町、人力車賃十錢、都是製糸會社、東北九町、渡部製糸會社、東北八町、●生糸、繭、生皮、鮎、福知山、ふくちやま、福知山線の接續點、もと朽木氏の城邑で、福知川に臨み水陸運輸の便を占む、丹波第一の都會である、福知山城址、東十町、元伊勢宮、北五里、途中河守まで自動車賃四十六錢、伊勢内外の大神は古竝に鎮座せられたと傳ふ、社殿の構造、伊勢に同じく官川、五十餘川、宇治橋、天の岩戸等がある、大江山西北六里、途中河守まで自動車賃四十六錢、在時、瀧曲に名高き酒呑童子の窟んだ所で、洞穴も残つて居る、洞上よりは遠く若州の峯巒を望み、近く與謝の村落を指點せらる、鬼ヶ城、東北二里半、大江山の山城で、一族末木重子の住んだ所だと云ふ、下夜久野

山 陰 本 線

道をなして居る、社廟の一角より澎湃たる日本海を望めば、元弘帝の蒙塵の苦難を嘗めさせられた隠岐の孤島は、杳然として煙波の間に横はり、公が勤王の義旗を翻した船上山は儼然として雲表に聳えて居る。○元弘帝御著船處、西七町、一基の碑あり。○軍馬補充部大山支隊、南西三十三町。●米、嶺。〔江よどえ〕○海水浴場、驛前二帯の海濱。○古代の石馬、南十二町、天神垣神社内に在り。○末吉城址、東一里、山中鹿之助の據つた所、物は遂に拉で毛利氏に降つた。○高麗山、山麓まで南一里十六町、多く石器を出す。○稻吉横穴、南二十九町、附近古墳多し。●米、酒、傘。〔大山だいせん〕○大山、絶頂まで東南四里半、尾高村まで二十六町、馬車賃五錢、赤松村まで二里、人力車賃七十錢、山陰線旅行者の忘るべからざる風光の一である、山は一に大神山と稱し、伯耆富士又出雲富士と云つて居る、火山通有の圆锥形を呈し、巍然として海拔五六三尺山陰山陽第一の高峰である、山麓は曠野たる裾野で最牧畜に通じ、例年日を定めて牛馬の鬻市を開き、大山村には軍馬育成所の設あり、曠野垂きて大山寺の伽藍見ゆ、寺は天台宗に屬し、今の本堂及阿彌陀堂は建久天承年間の造営に成り、後稍縮少して再建したが、棟木柱礎皆創立當時のものを用いたから、依然として千年の古建築たるを失はない、寺域は大山の中間に位し麓麓の性華にも遊しがたい、本堂の東數町大神山神社あり、大己貴命を祀つて居る、神社の島居より右折し、行くこと半里、楲殿と云ふ所より急峻

圖 之 近 附 二 江 松



峻な登山道となる、登路極めて峻峻、大山寺より絶頂まで登り六七時間、下り五十分を要す、頂上の眺望は頗る雄大、北は船上山より隠岐の孤島、西は美保灣、中海、安道湖等より出雲石見の境上に聳ゆる三原山に及び、東は但馬丹波の峯嶽より遠く加賀の白山に及び、南は作州の諸峯を見下し、四國淡路島に及び、凡そ山陰山陽兩道に崛起せる名山大嶽、皆容を贅へて仕ふるが如く見ゆるのである。●牛馬、米、嶺。〔米子よなご〕城隍の分岐點、元加藤氏の城下で中海に面し夜見半島の頸部を占めて居る、城と共に山陰に於ける良港、人口二萬二千人あり、木綿の取引盛に、米、生糸、醬油、酒を産す。○米子城址、西十二町、人力車賃十一錢、港山の頂に在り、山海の眺望佳、大山の英姿、夜見半島の翠松、中海の葎波皆一眸の裡に入り、一大畫圖を展べたやうである。○米子公園、西十四町、中海の沿岸に在り。○環子内親王の墓、東一里、人力車賃十七錢、安養寺に在り、後醍醐天皇の皇女男裝して隠岐に渡らむとして果さず、留りてこの寺を開かれたといふ。○米子製糸會社、北十三町。○中村生糸會社、西十六町。○米子製鋼所、西十町。〔安來やすき〕○中津、周蘭十六里十一町、本邦第四の大湖、大根島其他の島があり風光がよい。○十神山、驛前安來港頭に登ゆ。○南山公園、町の南一帯の山丘。○清水寺、東前一里半、人力車賃二十四錢、推古朝創建の古刹、聖德太子の伽藍。○

山 陰 本 線

時、東... 人力車賃二十四錢、後醍醐天皇の御座す、其時傳來の古... を照する。○月山城址、西南三里、人力車賃四十七錢、廣瀬町に在り、戰國時代中に鎌を振うた尼子氏の根據地、尼子經久の墓、大夫神社、布部山等、富田川一帯の谷地、尼子氏墓の跡が多い。●米、木炭。●荒島あらしま

○電湯温泉、南一里二十五町、馬車賃二十錢。●櫻屋いや。○寶瀨山掘鑛山西南一里。馬湯まかた。○大隈島、中海に在り、汽船賃十八錢、牡丹の勝地。松江まつえ。安道湖と中海との間の狭長なる地帯に位置を占めて山光水色の美を領して居る、もと松平氏の城市、山陰の首府の稱あり、大瀧川市の中央を貫通して、市を末次、白瀧の二部に分ち、安道湖と中海との交通を連絡して居る、今人口三萬八千人を有し、生糸、八雲巻、陶器、人參、珊瑚細工等を産す、市街は直に安道湖に臨み、北に安道山脈の巔嶺たるあり、日光畫を見るやうである、試に長さ百間恰も虹の懸けたやうな大橋々上に立ちて、四邊の風光を眺むれば、西には安道湖の渺茫たるあり、東には伯耆富士の巒委あり湖に面した南岸の家屋樓臺は、皆影を倒にして憂氣樓を幻出して居る、其眺望の佳絶なること、遙西のジュネヴーなるモンブラン嶺と比する人もあるのである。○松江城址、北半里、人力車賃十四錢、五層の天守閣高く老松の間に聳え城壁には夏時蓮花の美あり、天守閣は今開きて人の上ることを許してある、閣上の眺望は山陰無比の絶景、松江市の瓦葺より安道湖畔の風景を一眸の中に



秋め、中海を隔ても船着の大山を望むべし。○安道湖、南一里、湖四十三里、湖内窪ヶ島の勝あり、渡船往復十錢。○油ヶ谷、西半里、賃金十七錢。○天神遊園、西八町。○八重垣神社、南一里十五町、人力車賃二十五錢、巖窟の神として名高い。○佐々木高綱の墓、西二十三町。○佐太神社、西北二里半、人力車賃四十五錢、社前櫻馬場あり。○月照寺、西二十七町。○島根縣廳、北十五町。○市役所、北十五町。○農工銀行、北十五町。○松江農業會社、西北二十五町。○山陰道農業會社、西九町。○松江水産會社、西北十六町。○野津鐵工所、西北七町。○物産陳列所、北十五町。○種馬所、西南三十一町。○榮徳座、松江座、西五町。●湯町ゆまろ。○玉造温泉、南十五町、人力車賃十五錢。○布志名陶器場、東二十五町、人力車賃二十錢。●瑛瑠細工、陶器、石材。●出雲今市いづもいまいち。大社線の分岐點、同線は朝山を経て大社に至つて止まつて居る。○神門寺、南二十町、人力車賃十七錢、一に伊呂波寺の名あり。○弘法寺、西南一里。○壽壽寺、北一里二十八町、内一里人力車賃三十錢、天台宗の古刹、境内幽邃閑寂、溪山幽澗の眺望、出雲第一である。○平田町、北三里半、輕便鐵道の便あり、賃金十九錢。○一畑藥師、北六里、輕便鐵道賃三十七錢、眼病に靈驗ありとて賣者絶えず。○農事試驗所、西十五町。○鹽谷の石積、南十五町。●米、生糸、羽二重。○出雲大社、大社線の北十七町、人力車賃十錢、宮は古日本の王者、大國主命を祀り、創建遠く神代にあ

城址で、古今傳授の松がある。○要領司令部、北十五町 ●舞、後鳥羽
 舞鶴 うちまひづる ○天の橋立、別頂参照 新舞鶴 しんまひづる ○海
 軍總府、西北一里 ○海軍工廠、西北一里 ○海兵團、西北三十町

天の橋立

萬松一路海に浮ぶこと凡二十八町、上下概れ枝梢を齎しうして、一字を碧水の上に描き、遠く之を望めば長州海波に映じて水中松あるが如く、碧水天と連りて天上亦橋あるに似たるもの、これ丹後の天の橋立の風光である。橋立は宮津の北一里餘、興謝の海の西側なる門洲状の沙嘴である、舞鶴より宮津へは院の連絡汽船便あり、一時四十分で到着するのである、汽船賃二等五十三錢、三等三十六錢。連絡船上舞鶴灣内の風光に浴しつゝ、左顧右盼日本海に出でむとして、又興謝海に入れば、忽ち前面に蒼松一帯蒼鬱畫の如く、細く長く海面に浮んで居るのが見える、これ松島、殿島と共に皇國の三勝と稱へらるゝ天ノ橋立で、晝夜陰晴、春霞冬雪、皆この景を粧ひ、二十四節悉く其美を異にして居るのである。

宮津は松平氏の舊城下で、宮津灣に臨み、三面皆山を以て擁せられ、其前面に天ノ橋立が見える、遊覽の客常に来て賑かである、特別輸出港の一で、丹波縮緬を特産とし生糸、繭、絹織物其他海産物が多い。宮津よりは宮津灣内文珠、岩瀧、須津への小汽船連絡便あり、各區間賃金九錢である。文珠は天の橋立南方の岸頭で、文珠間あり、遙に成相寺に對して畫中の景物を添へて居る、かの崇神の御代に天照皇大神の暫し鎮座せられた興謝の宮はこの境域であるとの説もある、附近には酒樓茶店が多い。文珠の渡を渡れば即ち天橋の沙洲で、樹は若きあり老いたるありて、梢の高さは均しからざれど、枝を垂るゝこと地を去る各數尺、宛然一字を畫いて居る、松林中に橋立神社があつて其傍に磯清水とて清冽な温泉がある、岩見重太郎が父の仇を討つたのは此邊だと云ふ、このあたりより天橋の幅次第に狭く、松も又疎となり、江尻に至りて全く盡きて居る

橋立の景は櫻峠と成相山に登りて俯瞰せれば其價値を

境

線

することは出来ぬ、櫻峠よりは横一文字に、成相山よりは斜に縦一文字に見える。江尻より府中なる國幣中社籠神社に詣で、成相山に登れば中腹に成相寺がある、與謝の江山全景を萃むる處である、人は云ふ松島の景は富山にあり橋立の景は成相山にありと、賽路の傍松の蔭より眺望するの第一である。其處には一の臺石を設けてある、試にこの臺石に乗つて橋立を後にし、立ちながら身を屈めて股間より窺うて見よ、一里の松翠波光に映じて、與謝の入江を劃する處、水中天あり、天上水あり、上なるが海か下なるか天か、天ノ橋立股眼鏡は、實に天下無雙の奇觀である宮津より但馬街道を辿りて口大野を過ぐれば峰山、元京極氏の城邑で、四面丘巒の間にある、之より久美濱を経て山陰本線の豊岡に出らるゝ、久美濱灣は灣口が狭く蘆を括つたやうで、宛然湖水の觀をなして居る、町の東方甲山に熊野神社がある、灣内の風光は更なり、東は丹後西は但馬の海岸を望み、青松白沙小橋立の觀がある、只地僻にして

訪ふ人のないのを惜むのである

境
線 米子—境

本線の沿線一帯の地は即ち夜見ヶ濱である、濱は美保灣と中海との間を隔離する一條の堆洲で長五里濶一里、沙濱は一大弓状をなして居るから、また弓ヶ濱とも云ふ。一帯の蒼松雲の如く連りて風光優美、詩人は之を大天橋と呼んで居る、天ノ橋立に比して、其景致更に雄大であるからである、この絶景を見るには、いはゆる伯耆富士の名ある大山の中腹か、島根半島の鷹尾山がよい、鷹尾山は境の對岸島根半島の背梁となれる連峯の高峯で、内外海洋の偉觀と伯州大山及び夜見ヶ濱大天橋の風光を双眸に收め、眺望の雄壯比すべきものがない

境 さかひ 夜見ヶ濱の尖端に在り、東は渺茫たる大海に臨み、西は中海を介して安芸郡に通じ、前島根半島臨海を寫して、自然に北海の風濤を防い

むとするかと思へば、突如として嵐濤の聲に感らむとするが如きものもある。蕪々たる松樹之に倚りて風り、蕪々たる瀑布之を衝て碎け、北風海面を掃て聲段々又蕪々、眞に塵外の壯觀である、七瀬は深く陸地に没入し、大島小島羅列し、岩上の松、岩に激する白浪、白帆の速く浮べるさま一幅の圖である

境

線

で居る、山陰に於ける有数の要津で山海の要衝を占めて居る、開港場の一で最近の貿易額三十三萬圓に上り、生糸、蠶、鮭、魚類、肥料、石炭等の産あり。豊岡の西端港、北四十里、毎日一回汽船便あり、賃金一圓十錢、境貿易會社、東十二町の美保灣、島根半島の東端端、境より汽船便一日六回あり、往復二十五錢、四十分を要す、其間伯耆富士は前面に聳立して、其秀麗を美保灣の碧波に映し、夜見ヶ濱の大天橋は右に長壁を曳きて、風光の美を盡して居る、舟が美保灣に近づくと五本松の峰が見ゆる、「開の五本松一本伐りや四本あとは伐られぬ夫婦松」と云ふのがそれである、港は濱に沿うて狭長な街衢を寫し三面三巒に環繞せられて居る、此地は山陰に於ける遊樂地であつて、暮露港口を臨め、新月松崗に上るの時、紅燈籠に映して絃歌樓上に湧くのである、町の西南海に面して老松背を捲くが中一つの島居がある、これが即ち美保神社で、大國主神の御子事代主神及其妃美保津姫命を祀る、毎年四月七日に美保神社の神事、十二月三日に、諸手船の神事を執行する、これ事代主神が大國主神の命に従ひ、國土を天神に譲り、葦原國を海中に作り、船の權を踏みて、自ら陸退し給うた故事によるので、社頭神代史の一頁を編くも、興多きことである、美保灣より北、日本海に面する處、雲津、七瀬、片江、千酌、野波、加賀の各浦あり、大島小島羅列する處、怒濤奔來奇觀をなす、中に雲津浦が最も高い、浦の岸濶十八町餘、諸島の岩層傾斜頗る急峻、高さ十丈、累々乎として巖に陸ち

いざやせん都のつとに丹波栗 ト 養
山櫻丹波の風はまだ寒し 雅 因
橋立や月の都を崖つくり 蓼 太
橋立や松に魚のせて月遊ぶ 三千風
出雲路や跡付の尻籠桑の弓 松 圃
和歌の跡とふや出雲の入重霞 芭 蕉
五月待つ雲州橋ゆかし袖師の浦 崎 管 子

讚岐線

高松—観音寺及多度津—琴平

四國に於ける鐵道は、現時既に開通せるもの、院に属する讚岐線、徳島線及私設伊豫鐵道のみである、近頃讚岐線も徳島線も稍延長したれど、尙何れも局部的で、未だ相連絡して四國の幹線を成すものはない

讚岐線は高松を起點として西し、丸龜多度津を経て観音寺に至る線と、多度津より琴平に至る線とを云ふので、高松観音寺間は三四哩九分、多度津琴平間は六哩九分である尙観音寺より川之江までは鐵道工事中にて、五年三月開通の豫定である

岡山より宇野に至れば連絡汽船ありて高松に導く、其間僅に一時二十分間、瀬戸内海の眺望、身を一大畫中に置くの感を起さしむる、船が高松に近づくと、五剣山の巖岫た

る山容、已に前に高く、右に接して源平の古戰場、屋島が見える、兜島、大島、女木島、男木島等の翠螺が畫の如く碧瑠璃盤に散在して居る間を過ぐれば、瓦葺粉壁美しう海波に映じて、高松は、や眼前にあるのである

高松 たかまつ 四國の大埠頭、松平氏の舊城市、玉藻城の白壁を遺して美しく立て居る、中國との最近距離の連絡路で、山陽線宇野との間に院所屬の連絡船あり、人口は四萬二千人を有し、漆器、保多織、襦袢、紗、竹細工等を産し、名物屋島焼、源平餅、カラスミあり、栗林公園、南半里、人力車賃十八錢、林泉の美風に世に聞えて居る、後に紫雲山を買ひ、六の池水と十三の山坂とを巧に布置し、薙林其四方を遶つて居る、屋島山、東一里三十四町、電車賃十錢、高松に遊ぶ人は、必ず此處に行かねばならぬ、其風光の四國に冠たるのみならず、源平二氏の決戦地たりし所で、風光歴史を得て更に佳なるを羨むるのである、山上屋島寺あり、殿宮社長松落々として之を護つて

讚岐線

居る、寺前に石合殿の古塔多し、寺の西獅子の靈岩あり、風光舊蹟の位置、雄麗を以て全島第一とする、巖頭に立て見渡せば、前には男木島、女木島を始め大小の島嶼の委布するあり、遠くは山陽の連山淡雲靄靄として雲の巖くが如く、右は瀬ノ浦一帯の風光眼下に展けて、仰げば五剣の峰頭天を突くあり、左は國見山の連峰東西に蜿蜒し、近くは高松市の瓦葺より海に泛べる玉藻城の一廓、宛然畫圖を見るやうである、附近には詠曲八島に因める那須與市の新石あり、佐藤信翁の碑あり、景清鑑引の址あり、親しく七百年前の歴史を讀む心地がある、五剣山、東二里二十五町、電車賃十三錢、屋島と瀬ノ浦の一曲浦を挟んで相對して居る、山の半腰千手院あり、曬日雄大である、香川縣廳、東三町、農事試験場、南二十四町、農工銀行、南十町、高松織物會社、南十町、下津製煉所、南十町、高松製糸場、南十町、圓通製煉所、東南十五町、堀の江冷泉、南六里半、馬車賃四十六錢、志度寺、東三里、電車賃十九錢、詠曲海人の古跡にて藝女の墓もある、津田松原、東五里、小豆島多度津、高松より坂手まで汽船賃四十五錢、坂手より二里、洞門、怪岩、瀨布、瀨流の勝に加へて瀬戸内海既習の美あり、或は九州の那馬溪に優ると稱せらる、鬼無きなし、香西の浦、北二十五町、風光明佛、植木、盆栽

岡はしをか、主基新田、南三里半、一ノ宮、東二里、生果、植木、國分こくふ、國分寺、東二町、國分八幡宮、東十四町、金比羅利生記

に名高い田宮坊太郎貞討の墓、石谷、北二十八町、石を出ず、石は金銀に優るの雅言を發し、其形亦天然の雅風を存して居る、白峰寺、北五十町、聖石、鴨川、かもがは、白峰寺、北二里、人力車賃山崎まで二十五錢、崇徳天皇の白峰降陵あり、内海の水一壺瀾の如く、體飽の諸島點々基石を散せるが如く眺望頗佳、木丸御所址、南十町、人力車賃十錢、崇徳上皇行在所、城山神社、南九町、桃梨、ネーブル、坂出さかいで、白峰寺、東二里、山崎まで馬車賃七錢、讚岐紡績會社、東二町、櫻、綿糸、金山、宇多津、うたづ、郷照寺、南六町、丸龜まるがめ、元京藤氏の城市、在時は琴平參詣の要津であつた、今人口二萬七千人を有し、花磁、團扇、竹細工等を産し、名物坊太郎餅あり、丸龜城址、南十町、中津公園、西半里、附近海水浴場あり、田宮坊太郎の墓、南四町、支那寺内に在り、井上通女の墓、南二町、大音寺内に在り、丸龜團扇會社、北一町、多度津たどつ、瀬戸内海に臨む、玉島尾道よりする琴平參詣の上陸地である、汽船三等玉島三十四錢、尾道七十錢、鹽田水給工場、西七町、水給、金藏寺、こんざうじ、金倉寺、東三町、智證大師の誕生所、善通寺ぜんつうじ、弘法大師誕生地として名高く、特に第十一師團設置以來繁華の地となつた、善通寺、西十町、馬車賃五錢、五岳山誕生寺と稱す、弘法大師の呱呱の聲を彫げた地で、今の寺域は父善通の邸宅であつたと云ふ、境内廣瀨寺宇各所に愛え、海

線 岐 讃

に讃州第一の巨刹である、○第十一師團司令部、西南十四町 琴平ことひら 金刀比羅宮があるが爲に繁華となり、市街は高低参差して象頭山腹に及んで居る。○金刀比羅、西十四町、象頭山の中腹に在り、大己貴命を祀り、崇徳天皇を配祀してある、近世海内無比の靈廟と稱し、群俗の崇敬極めて厚く、賽人の多いこと、伊勢大廟に亞ぐといふことである、靈より祠前に至る迄九町、藪表、燈籠臺、鼓樓等道を挟んで居る、賽路の入口に稲藪あり、鼓樓の傍には清少納言の墳がある、数千級の長礎上り蓋せば、神殿、拜殿、拾馬殿、參籠所、社務所等、壯麗麗を驚かすのである、拜殿珠垣の邊より北遊すれば、近く觀瀾宮、八栗、五剣の山を言、青螺懸崖遊十里の風光が見える。○琴平公園、南七町、山海の風光がよい、園と相對して金刀比羅宮神事場あり、一境別に開け、地清く砂白く、老松盤旋蒼翠静かである。○内田浴中工場、南東三町。○阿波池田町、南九里、人力車賃二圓七十錢。○浴中、酒、給、抽べし。○海岸寺 かいがんじ。○海岸寺、北一町、弘法大師の舊蹟、海岸海水浴に通ず。○彌谷寺、南二十二町。○詫間 たくま。○仁尾の平石、西南三里。○鹽、海産物。○觀音寺くわんおんじ。○琴彈八幡宮、北十五町、人力車賃十二錢。○觀音寺、北十七町、人力車賃十二錢、弘法大師の建立、琴彈山の麓に在り、山の西角に象鼻殿あり、瀬戸内海の眺望佳。○川の江町、西南四里半、汽船賃 十八錢、馬車賃七十二錢。○讃岐煉瓦會社、東二十五

町 ●砂磔、和紙、綿糸、煉瓦

おもひぞ出づる壇の浦の、其船軍今は早、圓浮にかへる生死の、海山一同に震動して、船よりは関の聲、陸には波の響、月に白むは劍の光、潮にうつるは兜の星の影、水や空、空ゆくもまた雲の波の、打ち合ひ刺し違ふる、船軍の掛引、浮き沈むとせし程に、春の夜の浪より明けて、敵と見えしは、群れある鷗、関の聲と聞えしは、浦風なりけり高松の、浦風なりけり高松の、朝嵐とぞなりにける (謡曲八島の一節)

屋島浦 渡々屋落日愁 高松港



屋島山より見たる瀬戸内海 征鞍品古下寒洲 沙場自傍青山遶 海水空濛孤島流

萬寧峰 觀音殿 長汀寂寥甲兵散 落然相憶舊時淚 栗林公園



金比羅神社寶物殿 況又不堪塵埃秋 江村宗康

德島線

德島線

德島線とは

一 德島本線 德島、阿波池田間四六哩
一 小松島輕便線 德島、小松島間六哩九分

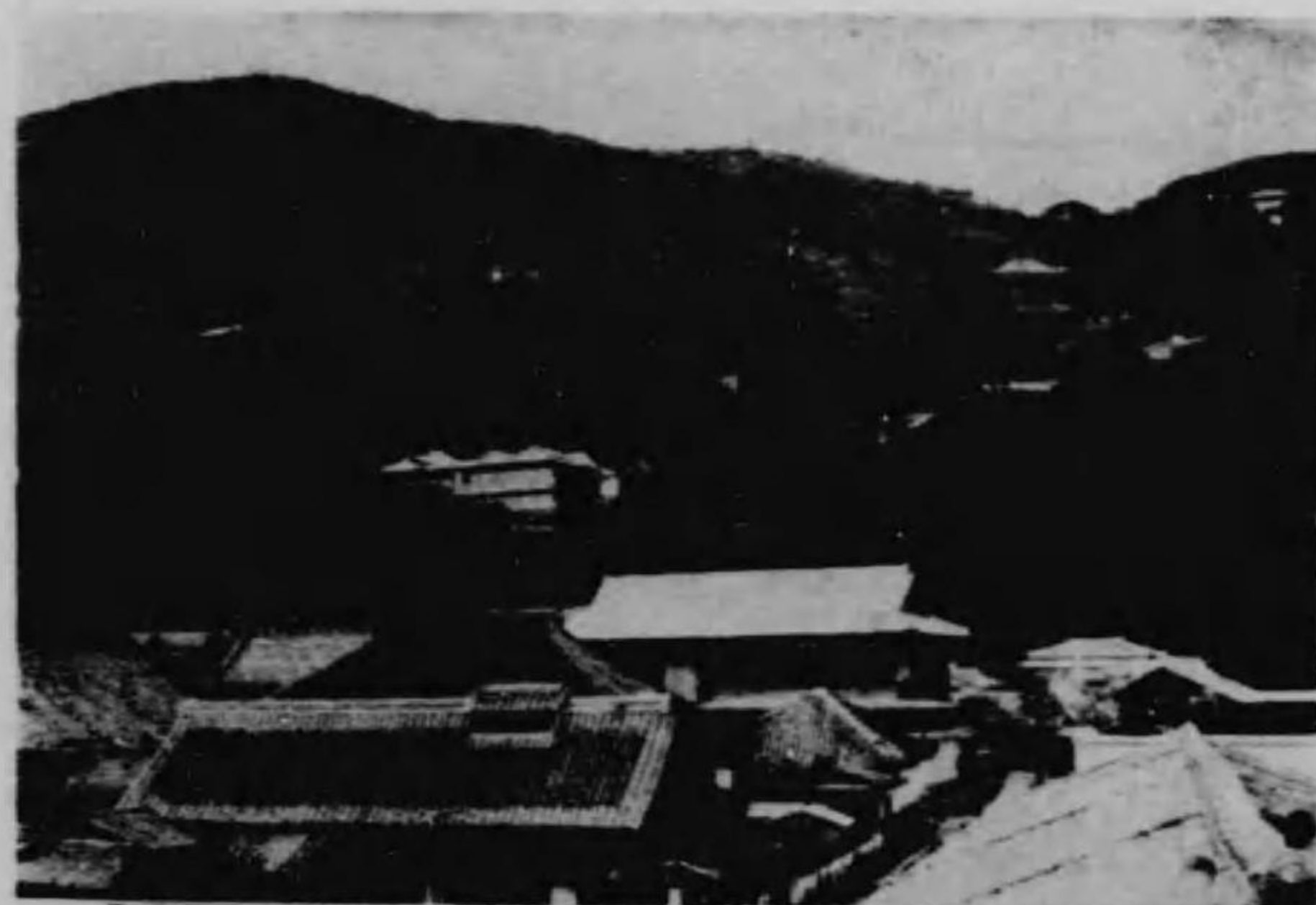
の總稱で、其本線は德島を起點として吉野川の南岸を走り、池田に至りて止まるのである、讃岐の琴平より來る街道、伊豫の川之江より來る街道、共に池田にて土佐街道に合し吉野川に沿うて南方に屈曲し、大歩危、小歩危の嶺を経て土佐に入る

德島本線 德島—阿波池田

附 小松島輕便線

小松島こまつしま 大阪又は兵庫より汽船便あり、資金大阪兵庫共に二等一

德島大瀧山全景



祖谷の蘆橋



大歩危の奇勝



四五十鐘、三等九十五鐘、汽車汽船連絡切符の發賣もある。○ 讃岐松原、東南二十五町、海水浴に悉す。○ 日峰神社、北一里。○ 立江寺、南一里三十町。○ 千代の松原、西二十五町。● 産産物、米。○ 地圖區ちぞうばし。○ 大六寺南二十五町、人力車賃十三鐘、曹洞宗の巨刹。○ 勝占神社、東南十町。○ 大谷梅林、西二十町。○ 大神子海水浴場、東一里。● 米産。○ 二軒屋にけんや。○ 忌部神社、西北六町。○ 吉森錫造場、西北五町。● 米、鹽、鰯物。○ 德島とくしま 蜂須賀氏の舊城市、吉野川の吐口なる三角洲上に位し、紀伊水道に臨んで居る、四國第一の都會で人口七萬人を有し、阿波羅、錦ネル、白木、紺、紺、織、大豆粕、酒、煙草、鳴門若布の産あり、藍、材木、伊豫の集散地である。○ 德島公園、東三町、酒山に在り、舊城址にて眺望の勝あり。○ 大瀧山公園、西南八町、人力車賃八鐘、勝堂市第一である。○ 勢見山南十二町。○ 津田浦海水浴場、南一里十町、人力車賃二十鐘。○ 鳴門、東北六里、人力車賃一圓、南海第一の壯觀、月輪の初滿潮の時に見るをよとす。

德島

○徳島縣、南三町○堺紡績會社工場、北五町○新宮座、南七町 **本**
 くらもと ○新居不動、北十五町 ○徳命臥龍梅、北一里五町 ○蜂の樂師、
 西南十町 ○小口製糸場、北七町 ○美馬豆粉工場、東七町 ○農事試験場、
 西十五町 ●大豆粉、大豆油、綿織、生糸 府中こぶの園分寺、西南二
 十町 ○妙照寺、北十町 ○常樂寺、西南二十五町 ●米、麥、藍玉 **石井**
 いしむ ○廣學寺、南二十町 ○徳藏寺の隣、南七町 ○東生社製糸場、南四
 町 ●天然藍 **鳴島** かもしま ○藤井寺、南二十七町 ○法輪寺、北一里
 半 ○熊谷寺、北一里半 ○佐渡製糸場、東七町 ○筒井製糸場、北三町
 ○松浦製糸場、南三町 ○廣石鑛山、南一里三十町 ●鑛石、藍生糸 **西麻植**
 にしをえの切幡寺、北一里十五町 ●藍、生糸 阿波川島あはかはしま
 ○古城山、北四町 ○東山鑛山、南一里十四町 ●鑛石、生糸、藍染山 瀨や
 ませ ○忌部神社、東南十六町 ●藍玉 湯立ゆだて ○製紙工場、南
 十二町 ○久宗鑛山、西南二十二町 ○佃友鑛山、南一里十五町 ●鑛石、
 紙 **川田** かはた ○岩津洞、西五町 ●水豆腐、鮎織 穴吹あなぶき
 ○八幡神社、北二十町 ●木炭、楮皮、藍 貞光さだみつ ○鳴洞、土釜
 の勝、南二里半 辻つじ ○多美山、南二里、多美四十八郷の勝あり
 ○金龜山、東南九町 ○三野田洞、東北十二町 ○常樂寺、西北一里十町、人
 力車賃三十錢 ○製紙會社、東九町、○製材工場、東二十町 ●木材、三椏

阿波連船門司出航の景



門司石炭堆積の景



八幡製鐵所全景

皮、綿織 **阿波池田** あはいけだ 山間の要害地、讃岐と交通の衝に當り、吉
 野川を上下する船舶も亦多く輻輳するので、一種河港の繁華を呈して居る。
 三好氏に在りて阿波を治し、長曾我部氏亦白地に居城して四國を兼併した、
 白地は池田の西、吉野川の左岸に在りて水を隔て、相懸んで居る、○公園、
 東北七町 ○雲邊寺、西北三里、白地北岸まで自動車賃二十錢、寺は雲邊寺
 山に在り、元親曾てこの山に登りて四州を窺み、呑壺の念候する能はず、遂
 に兵を起して讃岐を征し、覇をこの地に稱した○中西鑛山、西南一里○三
 幡製材會社、西南一里十六町 ○田系製材工場、東八町 ○大歩危、小歩
 危の勝、西南四里乃至五里半、自動車賃小歩危まで一圓、大歩危まで一圓五
 十錢、山崖高く壁立し、流水狹くして低く恰も井底を走るが如く、水鳴り石
 動き、宛然柳州八記の中に在るが如き思をなすのである。○祖谷懸橋、東
 八里十町、一字まで七里半、人力車賃二十五錢、松尾川の瀨瀨左右絶壁を
 なし、橋梁を架するを得ず、藎を編んで釣橋を設くるもの十三、中に善徳橋
 と云ふのが最も高い、祖谷村の住民は平民の遺俗なりと傳へ、赤旗二旗を懸
 し、正平中の輪貫義経を傳ふる善家あり、僻遠なる深山、外界の文化に感
 化の縁なく、言語風俗中世の遺風を留めて居る ●地草、木材、米、鮎、
 干柿、



箱崎八幡宮
箱崎や松がね
かすむうたまくら
三千風



咲かぬ間や心
つくしの博多百合
博多東公園
貞親



博多人形製作場
島津征伐の途次
博多町幾千代
までやつるらむ
秀吉



立ちならびたる
門のにぎはひ
体夢
芥屋の大門



拙者依今般政府へ尋問の應有
之明後十七日縣下發程陸軍少
將野利秋、藤原國幹及舊兵
久留米絹製織工場



菊地神社詣道の腰
際の者隨行致候間其臺下
通行の節は兵隊整列指揮
を可被受此段及御照會候



世
明治十年
二月十五日
陸軍大將 西郷從儀
熊本鎮臺司令長官
熊本城



熊本縣神社祭
典の武者行列
熊本に石ひきまはす茶臼山
敵にかとうの城の主かな



湖の所番川摩珠

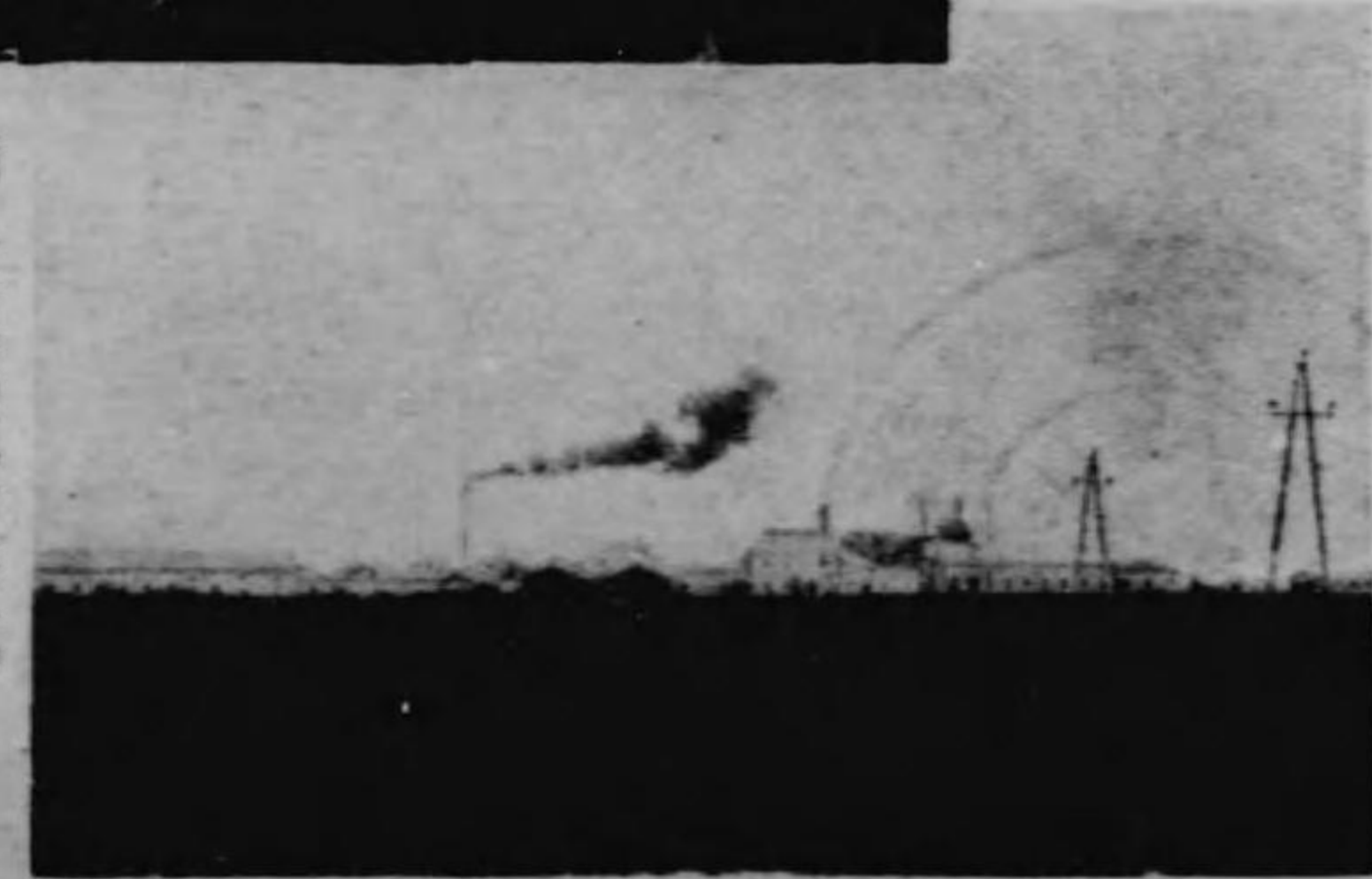


白川の上流

鏡の印輪明神の池は鏡池とて歌
名所なり津守の國夏家集に
薩摩がた鏡の池のひとつおし
おのが影をや妻と見るらむ
薩摩に鏡の池なし此地かの國に
近ければよめるなるべし



三角港遠望



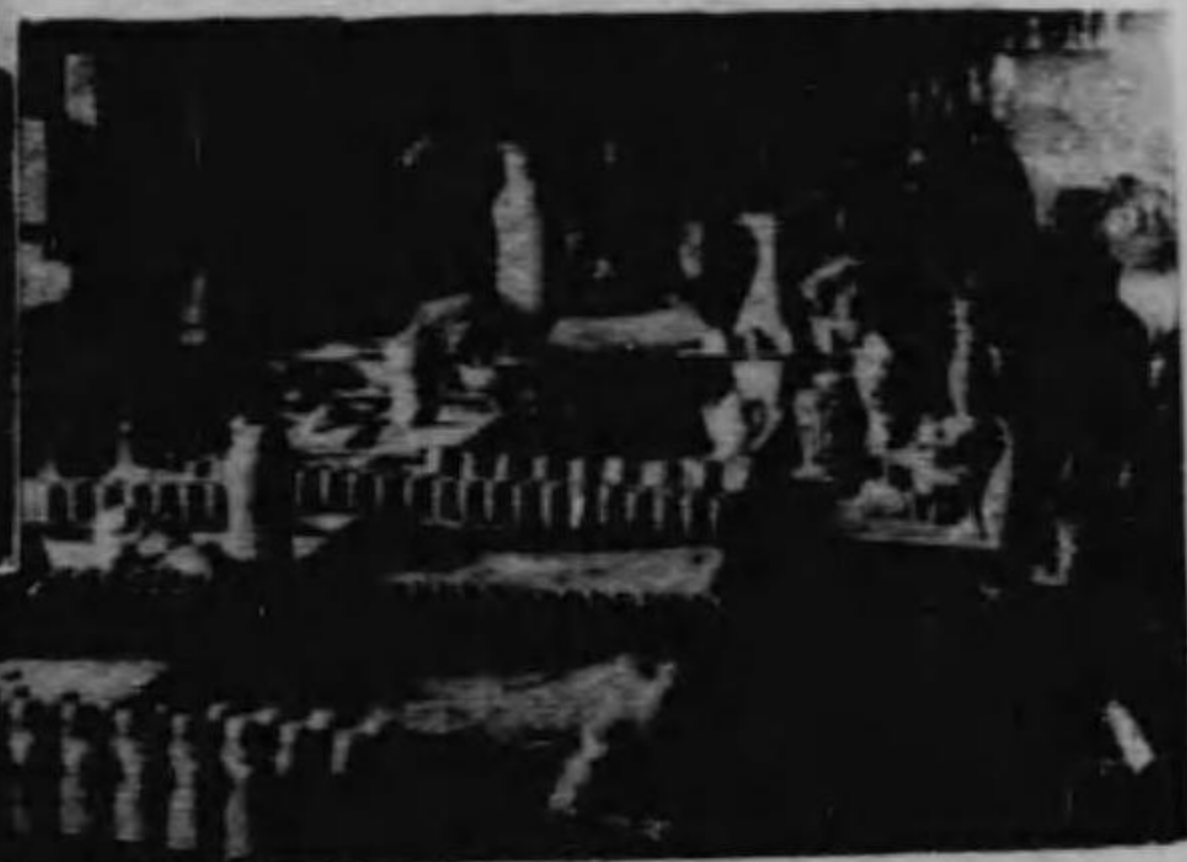
鏡日本窒素肥料会社工場



八代明治新田田植の景



武雄温泉樓門



有田焼工場



姫野温泉



長崎の

山からいつる

月はよか

こんげな月は

えつとたかばい

蜀山人



長崎神船の祭

三造船所
香取の逸水



山ヶ野金山
鑛石運搬の景



日奈久温泉

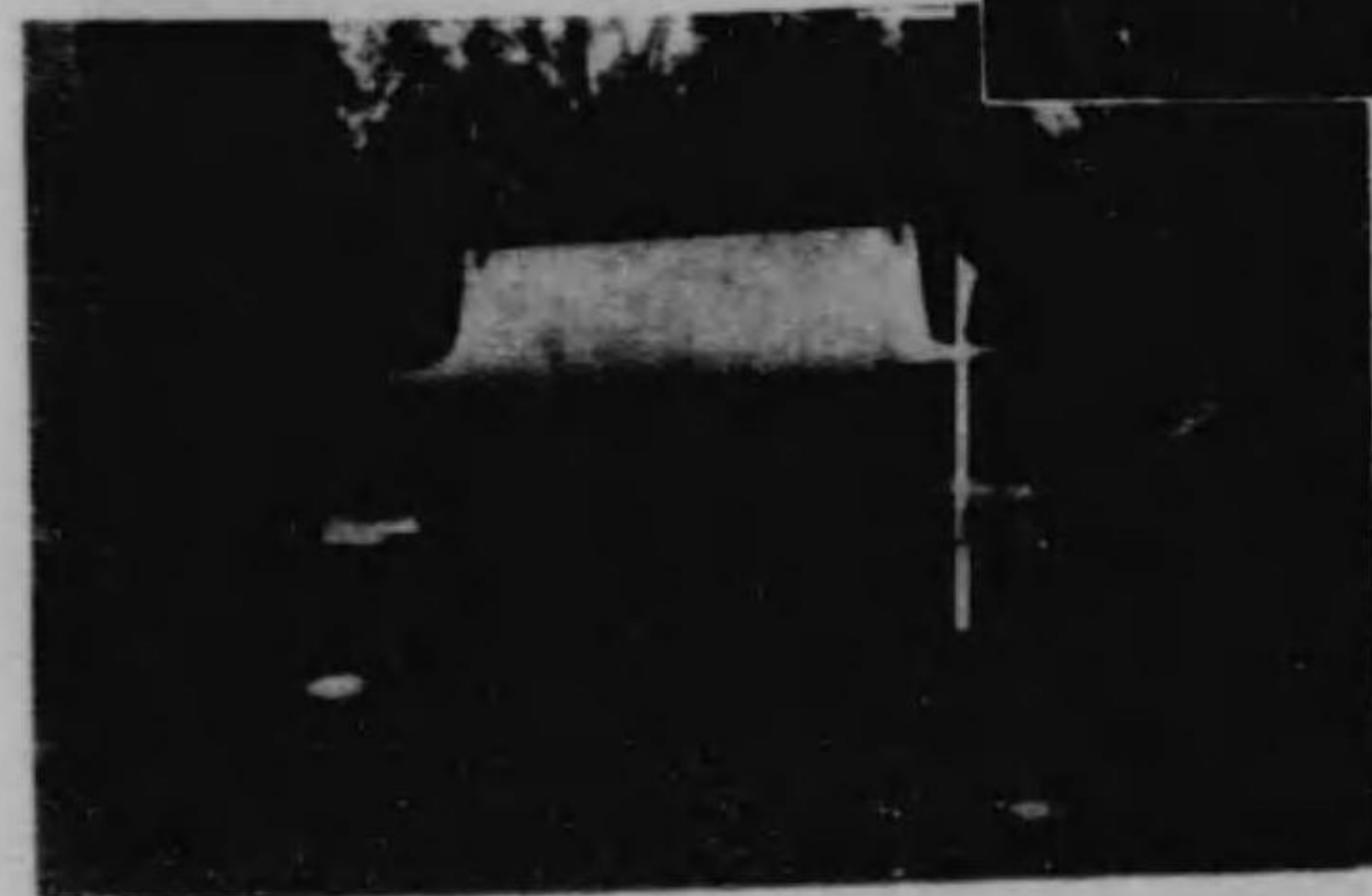


櫻島の噴火(大正三年)



神武天皇
御降誕地

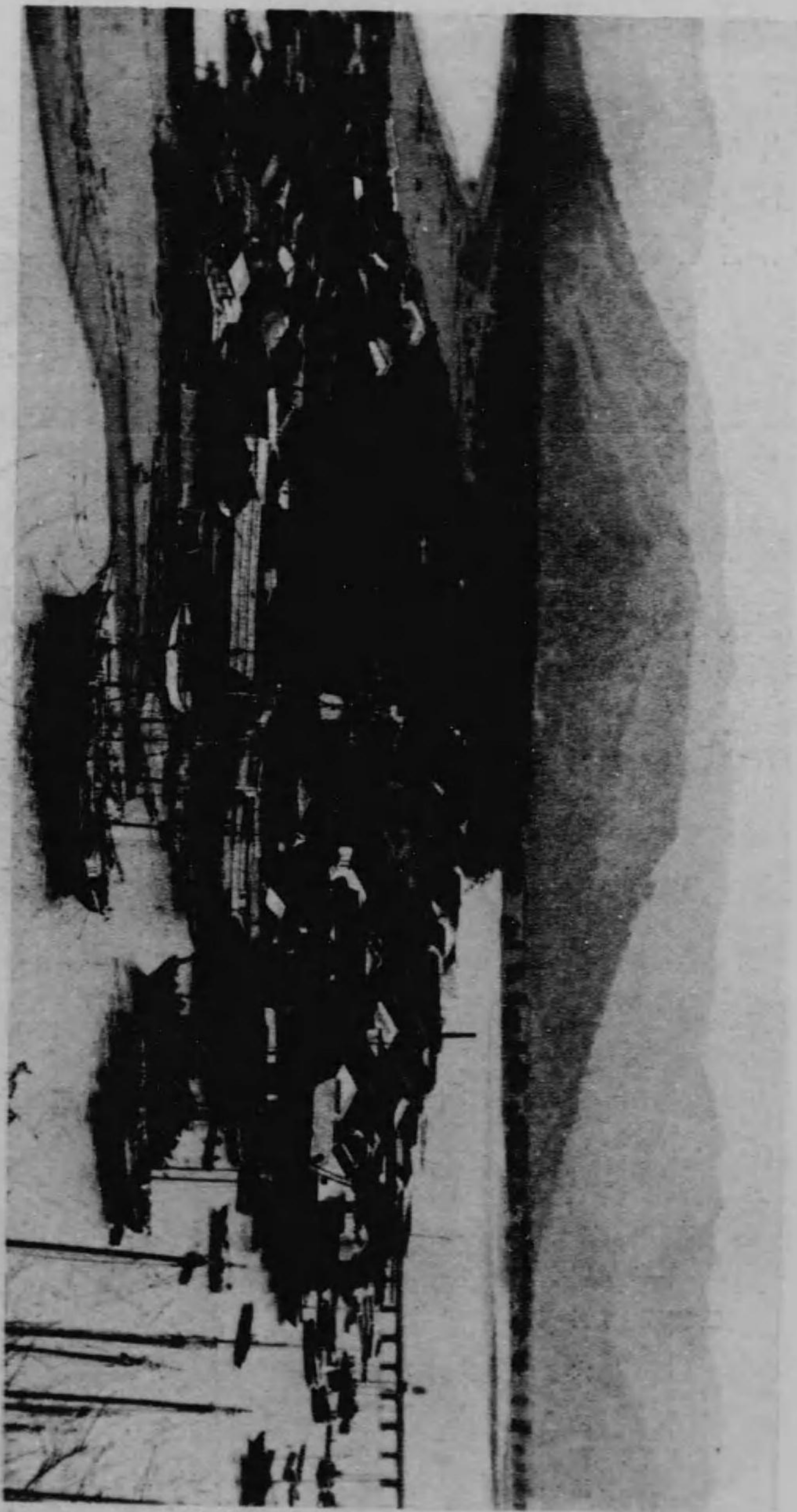
狭野神社



我胸のもゆるお
もひにくらぶれ
ほけふりはうす
し櫻島山

平野國臣

津 港 庫



高 島 炭 坑



うんせんや湖女
峰に立つ女郎花

三千風



泉 温 獄 泉 温

部内の島九十九港願島



水 樹 獄 泉 温

捕人を殺せて
海見る月夜かな

去 奈



佐世保相の浦蛭子島



鹿兒島線

鹿兒島線とは

一 鹿兒島本線 門司、鹿兒島二三七哩一分、及貨物支

線

一 室木線 遠賀川、室木間六哩九分

一 篠栗線 吉塚、篠栗間六哩四分

一 宮地輕便線 熊本、肥後大津間一四哩

一 三角線 宇土、三角間一五哩九分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部をなし、門司を起點とし、九州を縦貫して鹿兒島に達するのである、其間小倉よりは豐州線を南に分歧し、折尾にては筑豊線と交叉し、遠賀川よりは室木線を南に岐ち、吉塚にては東に篠栗線を岐ち、鳥栖よりは長崎線を西に分歧し、本線は更に南して

熊本にて宮地線を東に岐ち、宇土より三角線を西に岐ち、八代よりは球磨川に沿うて人吉に至り、矢嶽を越えて吉松より宮崎線を岐ち、大隅に下り、國分より鹿兒島灣に沿うて鹿兒島に至つて居る、列車は門司鹿兒島間三回の直通列車あり、中一回は急行にして約十時間半にて達し、別に長崎より鹿兒島への直通一回あり、約十七時間を要す
汽車門司を發して海岸に沿うて西に走れば車窓の右に筑豊諸地の煤炭の累々たるを見る、汽車運び來り汽船搬び去りて綿々盡きず、人をして直に九州の富を想はしむるのである。大里の海濱白沙青松長く連り、風光頗る佳、企救の高濱と云ふ。濱を後にすれば玄海灘の怒濤澎湃として六連、馬、藍、白洲の諸島眼界に入り來るのである。戸畑より汽

耶馬溪古羅漢

余足所獲半洞内、
弱冠東遊得妙義
山、以爲無雙、今馬
溪百里、如妙義者



不知幾十峰、謂
之海內第一、或
不謬也
山陽



耶馬溪洞
別府海岸



潮退風喧落日斜
海汀一帶也繁華
浴沙人臥半身出
恰似春泥著落花
梅外



別府溫泉海地

大分南青港



車は洞海の東南岸に沿うて走り、線路の右に入幡の製鐵所見えて、無數の煙突林立し、煤煙天を覆ひ、對岸の若松港亦近く指點せられる。香椎、箱崎の間、一水緩に流れて海に入るを見る、川は多々、長川、尊氏西奔の時、肥後の菊池氏が吉野朝の爲に、屢少貳大友と戦うた所、汽車は此間を走りて、海の中道を右に見つゝ進む、風光明媚である

箱崎より博多に至る間は即ち千代の松原、満目の赤松千態萬様、宮崎宮、龜山上皇、日蓮の銅像等皆車窓の眺に入りて、汽車亦畫中のもとなつた感じがする。博多よりは鐵路南し、菅公に因深い天拜山を右に、寶松山を左に見つゝ進んで行く、この間山野田蕪の間、多く楡樹を見る、晩秋の眺、紅楓より美を呈するのである。鳥栖よりは長崎線の西に岐るゝあり、本線は更に南して筑後川を渡る、川は九州第一の長流、賴山陽の詩に名高き所にして鐵橋を渡れば久留米である。大牟田を過ぎて長洲に至れば、有明海初めて見えて快云ふべからず、海の彼方に岬々として雙ゆる

の線路を下りて眞幸を經、益々南して錦江灣頭の國分に至り、灣に沿うて西南鹿兒島を指すので、其間櫻島徐に山容を變へて、絶えず車窓の眺に入り風光畫を見るやうである

鹿兒島本線 門司—鹿兒島

門司もじ九州の最北端、海峡を隔て、下關と相對し、瀬戸内海及九州の咽喉を握し、本邦重要な海門である、二十年前の一漁村今人口七萬二千人を有し、貿易港として其發達の速なる事全國稀有である、從て二十三年に於て三十四萬圓であつた貿易額は、大正二年には輸出二千九百萬圓、輸入三千九百五十三萬圓に上り、船舶の出入三千二百三十二萬噸に達した。甲寮八幡宮、北十二町、電車四錢、和布刈神社、北二十町、電車四錢、對岸壇ノ浦と相距る歌町、潮波瀲蕩、風光明媚である。清瀬遊園、南九町、畑田遊園、東北十四町、市役所、南十町、税關、北七町、陸軍兵器製造所、北十六町、日本銀行支店、東北六町、三井銀行支店、東北九町、日本郵船支店、北八町、大阪商船支店、北二町、淺野セメント工場、西南十七町、凱旋座、東八町、稻荷座、東北十二町、門司俱樂部、南九町

●生果 大里 だいり、楊の桐所、東南三町、安徳天皇の行在所、帝國

のは島原の鎮山温泉嶽、これより八代に至る間、幾度か車窓の人を楽しましむるのである。高瀬より南木葉、植木の邊は、明治十年西南役の古戦場、彼山此水悉く血戰奮闘の跡である、此間汽車は右に三ノ嶽、左に田原坂の丘陵を見つゝ進むのである

熊本城は加藤肥州の築く所にして、明治十年の役にも高き所、汽車は上熊本より熊本驛に至る迄、左に其外廓を見えて走るのである。熊本驛を出て、より左窓東北を望めば、群峯天を指す中に、中央の一山、巖に煙を噴くを見る、これが阿蘇の靈峯である。八代よりは、鐵線球磨川の峡谷に沿うて走り、絶勝目を新にするものあり、人吉の靈頭、三度球磨川を渡りて矢掛に至る間は、球磨川畔と共に九州に於ける難工事で、急傾斜の山嶽に登るに際し、軌道を螺旋狀に敷設し、其中間に水平面を設けて大畑驛を設けてある。矢掛驛道を出れば、霧島の峯巒波濤の如く連り、眞幸平の平野遠く見えて景致雄大である。汽車はこれより急勾配

廣西會社、西五町、大里菓子製造場、西南五町、大里菓子製造工場、東南七町、九州電線製造會社、東八町、大里製粉所、東南九町、錦木商店大里製糖工場、東南十町、同大里酒造製造所、東南十町、●養酒、電線、鉛管、砂糖、麥粉、麵類、鹽、酒精、小倉こくら、豊州線の分岐點、馬關海峡西口の南端に在り、小笠原氏の舊城市で今第十二師團司令部あり、人口三萬六千人を有し、古來小倉驛を産し、洋紙、ワイヤロープを出す、幕府時代には九州藩藩主東上の船場であつたが、門司港の開けてより、漸次其繁榮を衰はるゝことゝなつた。勝山城址、南五町、今第十二師團の營所の永照寺、東七町、眞宗、九州の本山と稱す。延命寺、東二十七町、電車四錢、海岸の丘上に在り、眺麗甚佳、城内宮本武藏の碑あり、對岸島嶼の東に在る岩柳島は、當年武藏が仇敵岸柳を仆した處である。藤崎八幡宮、西南十五町、福聚禪寺、南二十八町、妙見神社、南三十二町、東京製糖工場、東半里、小倉製紙所、東南十四町、常盤座、東五町、戸畑とは元豐炭の輸出港と成つてから、若松と共に急激な發達をした。名護屋陣、東北十二町、風光佳、明治專門學校、東半里、戸畑製糖會社、南四町、明治紡績會社、西南十町、東洋製糖場、東北十町、●綿糸、コークス、磚物、煉瓦、●煉光、えだみつ、安田製釘所工場、東半町、旭硝子會社、北七町、●板硝子、洋釘、八幡やはた、地に製鐵所あり、爲に異

の線路を下りて眞幸を經、益々南して錦江灣頭の國分に至り、灣に沿うて西南鹿兒島を指すので、其間櫻島徐に山容を變へて、絶えず車窓の眺に入り風光畫を見るやうである

鹿兒島本線 門司—鹿兒島

門司もじ九州の最北端、海峡を隔て、下關と相對し、瀬戸内海及九州の咽喉を握し、本邦重要な海門である、二十年前の一漁村今人口七萬二千人を有し、貿易港として其發達の速なる事全國稀有である、從て二十三年に於て三十四萬圓であつた貿易額は、大正二年には輸出二千九百萬圓、輸入三千九百五十三萬圓に上り、船舶の出入三千二百三十二萬噸に達した。甲寮八幡宮、北十二町、電車四錢、和布刈神社、北二十町、電車四錢、對岸壇ノ浦と相距る歌町、潮波瀲蕩、風光明媚である。清瀬遊園、南九町、畑田遊園、東北十四町、市役所、南十町、税關、北七町、陸軍兵器製造所、北十六町、日本銀行支店、東北六町、三井銀行支店、東北九町、日本郵船支店、北八町、大阪商船支店、北二町、淺野セメント工場、西南十七町、凱旋座、東八町、稻荷座、東北十二町、門司俱樂部、南九町

●生果 大里 だいり、楊の桐所、東南三町、安徳天皇の行在所、帝國

線本島兒鹿

常なる發達を爲し、今人口四萬六千人を有す、製鐵所は橋内三十萬坪、製品及材料運搬の爲めに敷設したる軌條の長さ五十哩を超え、一年製作高十五萬噸に達して居る。○石川島造船場、西半里 ○栃木造船場、西半里 ○黒崎くろさき ○彌壽寺、東南十二町 ○折尾をりを、筑豊本線の交叉點 ○則松瀧泉、南十五町、人力車賃十五町 ○陳の原、東半里、光蓮寺内に在り ○三好炭坑、西十五町 ○吉田炭坑、南十四町 ○高松炭坑、南二十三町 ○芝賀川を人ががは、室木線の分岐點 ○蘆屋の濱、北一里半、神武天皇東征の途次、暫く駐り給うた所、神武天皇社あり、玄海灘の風光雄大 ○八御神社、東六町、日本武尊龍驤を征せられた時の遺蹟だと云ふ ○赤間あかま ○宗像神社、西二里、馬車賃十二錢、官幣大社 ○藤間ふくま ○宮地嶽神社、北十六町、馬車賃道賃六錢、開運の神として參詣の人が多い ○津屋崎海水浴場、西一里、馬車賃道賃十一錢 ○福岡海水浴場、西南十町 ○魚類、調味香 香椎かしひ ○香椎宮、東南八町、人力車賃往復二十錢、官幣大社、神功皇后を祀る、境内は仲夏天皇の皇后と共に、熊鷹を征討あらせられた時、行在所を置かれた遺蹟で、皇后御手袋と傳へられた綾彩がある ○名島、西三十町、人力車賃往復六十錢、水邊神社と名づくる奇石がある、附近一帯の海岸は多々良濱で、元寇十萬の兵船が被を流れて押寄せた所 ○高の中島、古賀、香屋の岡より白砂三里海中に斗出して、博多港の北原を

爲して居る、風光天ノ橋立に似て景致更に大、山陽も曾て「此景何に勝てか西餅に在る」と惜んだ、博多港編道の便がある ○松茸 箱崎はござき ○箱崎八幡宮、西二町、官幣大社、應神天皇の袍衣を埋めた所で、應神の箱松は即其著蹟である、廟の四邊大樹森然として苔滑かに應神ばす、海に向へる一層額に「藤原伏」の文字、實に醍醐天皇の御靈と傳へて居る ○水族館、西七町 ○九州大學工科大学、北九町 ○折箱 吉塚よしづか 經栗線の分岐點、千代の松原中に在り ○東公園、西一町、所謂千代の松原たり、鬱鬱空に絶えず、松樹地に敷く、園内元弘紀念館あり、龜山上屋及日蓮上人の銅像あり、九州大學醫科大學あり、崇徳寺あり、寺は臨濟宗の巨刹、黒田氏累世の墳墓がある ○波邊工場、西南三町 ○博多はかた

博多は今福岡市の一部で那珂川を隔て、相對して居る。即ち川の西部は福岡で黒田氏の舊城市、東部は博多である、地は古の那大津で、薩摩の坊の津、伊勢の安濃の津と共に本邦三津の一に數へられ、支那貿易の市場として、其名風に海外に聞え、殊に太宰府に近く、最要衝に當つて居たので、守護職を置いて外敵防禦の要地として居た。文永、弘安の役に此地が重要な防禦點で

線本島兒鹿

あつたことは昔人の知る所で、徳川氏領國の世にも尙九州商業の首腦であつた、今人口九萬五千人を有し、本邦第十二倍の都會、最近輸出六萬二千圓、輸入七十七萬圓あり、博多織、博多人形、博多焼、筑前琵琶、農具、平助筆等を産す、市の内外には電車の便あり、壹岐の勝本、對馬の殿原へは汽船便あり

○東公園、北十二町、電車賃五錢 ○萬行寺、西四町 ○櫛田神社、西四町 ○西公園、西一里、電車賃九錢、博多港の景勝悉く眸中に入り、筑紫富士の眺書の様である ○貝原益軒の墓、西一里五町 ○芥屋の大門、西七里、今川橋まで電車賃十一錢、今川橋より前原まで輕鐵賃金三十一錢、前原より芥屋まで馬車賃三十五錢、芥屋浦の地北に延んで盡くる所、豁然として高く巨巖の洋中に突出して居るもの、皆玄武岩より成つて居る、驚き此岩の北東を嚙んで洞を穿つ、洞口より凡五十間の間、洞腹稍廣く小舟を入る、ことが出来る、洞頂洞底六角或は五角石を以て編み、到る處龜甲紋を織つて居る ○今津防壁、西四里、電車輕鐵の便あり ○唐津、西十四里、電車、輕鐵、自動車の便あり ○福岡縣廳、西十一町 ○物産陳列場、西十二町 ○農事試驗場、南十五町 ○市役所、西十一町 ○鐘淵紡績支店、南西七町 ○博多

製紙會社、東南十二町 ○東洋製糖出張所、北西十七町 ○博多洋行會社、北西十六町 ○博多製糖會社、西北二町 ○森野織工場、西北十三町 ○松居織工場、西北九町 ○深見織工場、西北四町 ○吉田染糸織物工場、西南六町 ○九州劇場、西九町 ○明治座、西七町 ○壽座、西北十町 ○博多座、北半里 ○雜雨隈ざつしよのくま ○宇美八幡宮、東北一里半、應神天皇御降誕の舊蹟 ○水城みづき ○水城の址、東北一町、天智の朝外邊に備へる爲に築造せられたもの、今僅に礎礎を存す ○都府樓の址、東十六町 ○戒壇院、東半里 ○觀世音寺、東半里 ○圓分寺、東北十町 ○二日市ふつかいち ○太宰府神社、北東二十五町、軌道賃金八錢、自動車二十錢、社殿壯麗雄偉、梅樹あり梅を纏らす、「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなし」とて春な忘れ所、所謂飛梅と云ふのは即これである、近年社背に遊園を拓いて、一段の雅致を添へて居る ○都府樓の址、戒壇院、觀音寺、北東三十町、自動車賃二十錢 ○武藏温泉、西南三町 ○天拜山、西南二十町 ○梅ヶ枝橋、こぼれ梅 田代たしろ ○太田山觀音、北十三町 ○鹽の實、米 鳥 栖とす 長崎本線の分岐點 ○片倉組製糸所、西北三町 ○尾瀬組製糸所、西二町 ○久留米くるめ 筑後川の下流、筑後平野の要地を占む、有馬氏の舊城市で、今第十八師團所在地である、人口三萬九千人を有し、久留米絨、足袋、漆器、生體等を産し、名物糸狀鶏島鴨、千歲蛤あり ○鹽

線本島兒鹿

山神社、東七町、舊城址に在り、筑後川に臨んで居る、境内櫻樹が多い、
 梅林寺、西三町、水天宮、西七町、人力車賃十三錢、筑後川に臨んで風
 光佳、東京に在るはこれの分祠である、高山彦九郎の墓、東十五町、遍照
 寺内に在り、廣樂園、東十六町、名産傘狀鳥籠圖を培養して居る、高
 良山、東南一里半、軌道賃十二錢、高良玉垂神社あり、神社の後阜に周回十
 餘町の石疊を廻らすは神龜石、古史に磯城の瑞龜と云ふのがこれである、
 善導寺、東三里、軌道賃八錢、淨土宗九州本山である、専念寺、東三
 里、軌道賃二十四錢、第十八師團司令部、東南二十九町、市役所、東北
 五町、鐘淵紡績支工場、東北六町、製粉會社工場、南三町、つちや足
 袋工場、東南六町、島屋足袋工場、東南六町、惠比壽座、東南七町
 荒木あらし、大善寺、西半里、煉瓦、綿布、羽大塚はいぬづか
 船小屋温泉、南二十六町、人力車賃二十錢、矢部川に臨んで風光清麗、
 日向神岩、東九里、大淵、矢部兩村の間に在り、山内まで三里、軌道賃金
 十九錢、山内より人力車賃一圓二十錢、矢部川の貫流する所、兩岸奇岩羅列
 して各名あり、神巧鬼鑿、奇勝那馬溪に譲らなると云ふ、良成親王御墓、
 矢部村の奥側名に在り、山内より人力車賃一圓六十錢、親王は後征西將
 軍で五條氏奉じて矢部に據つた、附近山隈の地史蹟多く、九州に於ける吉野朝
 の末路を知ることが出来る、花庭、紙、矢部川、やべかは、清水寺、東

一里、柳河町、西一里半、軌道賃十三錢、柳河城址、高畑公園あり、味
 噌を産す、瀨高町、西十町、清酒釀造場多し、矢部川結漁、北半里
 瀨瀬わたせ、石神山、東半里、有明糖結會社、西北三十町、貝の鹽
 結、大牟田、おほむた、有明海濱に在り、附近に三池炭田があるから、異常の
 發達を來し、人口四萬七千人を有して居る、近年三池港の築港あり、將來繁
 華の地となるであらう、港は近時開港場となり、最近貿易船輸出六百九十五
 萬圓、輸入百十四萬圓に上つて居る、驛より港まで馬車賃十二錢、三池炭
 田、東南半里乃至一里、人力車賃二十一錢以内、我邦第一の大炭田で三井家
 の經營に係り、一年の產額、百六十萬噸、礦夫數一萬人超え、炭田面積約四
 千萬坪、含有炭層一億五千萬噸を越する見積で、宮ノ浦、宮ノ原、七浦、勝
 立、萬田、大浦の六區中萬田炭坑が最盛である、三池炭礦事務所、三井物
 產出張所、北東四町、鐘淵紡績支店、北九町、三池土木會社、東北六町
 三井製作所、東十三町、三井造船工場、東半里、三井工業學校、東二
 十四町、石炭、コークス、亞鉛、綿糸、萬田、萬田炭坑、東十
 九町、人力車賃八錢、四ツ山築港、西北三十町、島原へ汽船賃四十五錢、
 口の津へ六十五錢、長洲ながす、島原へ汽船賃四十一錢、口の津へ五十六
 錢、高瀬たかせ、菊池川の右岸、明治十年の役、總督有栖川宮殿下の本營
 を置かれた處、立願寺温泉、東北二十五町、小天温泉、東南一里半、

線本島兒鹿

海邊に在り、鹿島の名所、馬車賃二十五錢、一本、栗こは、田原坂、東二
 十町、崇徳碑あり、石炭、植木うき、山鹿温泉、北四里半、自動車
 四十錢、菊池川畔に在り、地に山鹿神社あり、燈籠祭が名高い、菊池神社、
 東北五里、馬車賃四十錢、隱府に在り、隱府は吉野朝史に隠れのない菊池氏
 の根據地で、社境は即ち其舊城址、菊池武時以下五代の靈を祀り、別格官幣
 社に列して居る、境内櫻樹多く、勤王の赤心萬葉の花と咲くかとなつかしい、
 町の正觀寺内に武光、武政、武國の墓がある、菱形八幡宮、北二十六
 町、又穴八幡、堂後の岩窟中に菱形の池あり、神皇正統記に「欽明天皇の
 御宇肥後の國菱形の地に、始て神と現はれ、我は人皇十六代聖田八幡麻呂なり
 と宣ふ」とあるものこれ、平島温泉、東北三里、馬車賃二十二錢、米、
 滋養、山鹿燈籠、熊本かみくまもと、熊本くまもと

驛の設あり、宮地輕便線は熊本驛より分歧し、市の東邊を
 走りに大津に至つて居る
 熊本城址、上熊本驛より南十二町、軌道賃四錢、市の中央に在り、今第六
 師團司令部此に鎮す、丘に倚り、川に沿ひ、櫻橋櫻臺布置整正、久しく天下
 の名城と稱せられた、惜らくは丁丑の役、其く舊觀を損じたれど、孤軍固く
 堅守して五旬、潮の如く寄せ來つた薩軍の攻圍に耐へて、遂に擲折せしめたこ
 とを思へば、城の面目更に新なるを覺ゆるのである、本妙寺、同西南十一
 町、軌道賃三錢、異城の兒啼を止めた加藤鬼將軍の靈を安んずる處、結構壯
 麗雄偉、加藤神社、同南十町、軌道賃四錢、藤崎神社、同南二十一町、
 白河々畔に在り、軌道賃五錢、其祭禮に於ける甲冑武士の行列壯麗である、
 花岡山、熊本驛より北町、明治十年の役薩軍の砲臺を設けて熊本城を攻撃
 した處、泰勝寺、上熊本の東北三十町、軌道賃十一錢、細川氏の祖廟あり
 蓮臺寺、熊本驛より半里、有名な繪垣女の石塔があるので繪垣寺とも
 云ふ、境内に在る繪垣の水は急曲にも溢はれて居る、水龍寺、同東南一里
 半、官地輕便線水前寺驛より東六町、林泉の美風致の妙、岡山の後懸園と對
 び稱せらる、庭園は散寄を極め、東方に富士の芝山があり、其麓を廻れる一泓
 の清泉は石壁より直に吹き出で、清冽砂子の數も溢まれるのである、園の北
 陰には細川氏祖先の祠廟を齎んで、出水神社といひ、南陽には杉樹並び連つて

熊本及附近

熊本は白川の畔、肥後平野の間に在り、西北には
 金峯火山の諸峯が屹立して居る、加藤清正此に封
 ぜられて城を茶白山に築いてより繁華を來し、細
 川氏入國して益盛となつた。今人口六萬三千人を有し、米
 穀の集散甚盛に醬油、木材の産あり、朝鮮蛤は此地の名物
 である。鐵道は市の西を走り、北端に上熊本、南端に熊本

線本島兒鹿

客を待つて居る。池水は南流して雲霧湖に入る、湖中には一小島あり、竹圍密々景趣を添へて居る。○菊地神社、上熊本より東北五里、軌道賃三十九錢、○熊本縣廳、同南二十一町。○市役所、同南二十一町。○物産館、同南二十一町。○第五高等學校、熊本高等工業學校、同里。○熊本醫學專門學校、熊本より東二十五町。○東雲庵、同五町。川尻かはしり。○大慈護寺、東南半里、人力車賃十二錢、龜山法皇の勅額西福有の名刹であつたが、回録の災に會ひ、今古の跡はない。○七龍、東七里、人力車賃一圓十錢、桐船川の源にあり、一流七級壯觀を呈して居る。宇土うと 三角支線の分岐點、○木原山、又雁回山と云ふ、東十五町、山腹源爲朝の城址がある。○安徳天皇御陵墓參考地、東南二十六町。○小西行長城址、西二十町。○西、西南一里、清水湧出、納涼の地。○粟島大明神、西一里半。○米、藁、小油餅。○松 橋まつばせ。○飯神社、西二里、不知火海に斗出した水尾山に在り、風光美、山麓湖湯あり。○小川をがは。○竹崎季長の墓、東一里十町、元寇歸來の時の勇將。○米、茶、藁。有佐ありさ。○鏡町、驛西十町、始めて米麥倉庫を設けた地として知られて居る、近時窒素肥料會社の工場も茲に設けられた。○五箇庄、東十里、明治の橋源境、球磨川の一支流なる川邊川の山谷を占め、方四五里に歩つて、推原、久速木、松木、養木、仁田尾の五村となつて居る、山脈重疊の中間に在つて、九州第一の絶地である、平家

没落の際、惟盛清經等の逃匿した山であると云つて其傳説がいろ／＼ある、行路險に交通稀であるから言語風俗を異にし、一見太古の民かと思はるゝ、○印輪明神、西八町、神池は鏡ヶ池として歌枕に名高い。○白嶽、東二十五町、水川の上流、寺神の懸崖を云ふ、白石崖、直下深淵あり、無雙の絶景である。○壽徳院、東北四里、金海山大恩寺と云ひ、深山の靈境。○米、鹽。八代やつしろ。球磨川の吐口に在り、熊本縣第一の都會である、セント、球磨川、高田嶽の麓あり、朱嶽は此地の名産である、汽車はこれより球磨川の峡谷を縫うて人吉を指すのである。○八代宮、西十六町、人力車賃十五錢、松江城内に在り、征西將軍德川家康を祀る、桐蔭は藤の東南十五町、悟眞寺傍に、高田の御所は南半里、高田村に在り、金枝玉葉の體裁かゝる邊版に埋れ給うたかと思へば、露ならぬ袂の潤ふを覺ゆる。○松井神社、城内北の丸に在り、臥龍臺があるので名高い。○妙見宮、東十五町。○萩原堤、南五町、球磨川の堰で老松一路、交ふるに古樹あり、對岸の櫓臺と球磨の雲流と相映帶して、景勝極するに足る、附近船漁に遊す。○日奈久温泉、南二里、自動車賃三十錢、馬車賃二十錢、天草島の靈威を蒙りて風光佳、海に對して屏風瀾を透して居る。○不知火、八代附近の奇觀、小動物あり秋夜燐光を發す、松橋八代附近の山岡より見らるゝ。○日本セメント會社工場、西一里。○明治新田、西北一里半。坂本さかもと。○不動ノ瀧、南十五町

線本島兒鹿

○九州製紙會社、東北五町。○日原野原の墓、西二里、百濟來村に在り、百濟に居ること三十年、敏達天皇の時歸朝、新羅征伐の策を獻じた。○洋紙、鮎。白石しろいし。白石一野。地間は球磨川沿岸中最風光の勝れた所で、山溪殊に色を生じ、急瀬奔瀾眞に人をして天下この奇景ありやと嘆稱せしむるのである。○鍾乳洞、東二町、球磨河畔に在り、神瀨の岩戸と云ふ、高さ八間、幅二十間、奥行四十間あり。○高岩の瀨、東三町、球磨川三十三洞中最峽峻の處。○吉尾温泉、北三十町。○杭木、木炭、柿皮。一勝地。いつしうち。○勇落岩及清正公岩、鐘嶺岩、西北一里、左右の峽壁巖然として球磨川を脱する所、勇落清正公岩相對して峙つて居る、清正嘗て球磨を征せむとて此處に來り、天險の攻むべからざるを知り、遂に謀を絶つて馬首を旋らした所だと傳へ、岩頂に清正公を祀つてある、清正公岩下の奔流は一瞬して直に鐘嶺岩に向ふ、岩石高く川に向つて聳え、急瀾雷の如く走り、舟筏風の如く過ぐ、相良侯江戸參觀の時、舟の此處を通過するに際し、行列の鎗を倒さなければ通過することが出来なかつたと云ふことである。○木炭、杭木、鮎。那良口ならぐち。○一勝地製材所、南二十五町。○木材、柿。人吉

米、木材、糖、糖、杭木、藤等を生ず、球磨神、鮎のみのか、球磨の雪は此地の名物である。○人吉城址、東五町、人力車賃十二錢、日本三名城の一に數へらる、城内人吉神社あり。○青井神社、南二町、境内幽靜古木神宮に居る。○林温泉、西南三十四町、人力車賃十七錢。○顯成寺、東半里、風幸まさき。○眞幸鐵山、鐵附近。○吉松よしまつ。宮崎縣の分岐點。○和氣公洞窟、東一里、清瀨大瀨に配流せられて此地に到つた時、常に起臥した所と傳ふ。○栗野くりの。○栗野嶽温泉、東一里半、馬車賃一圓十錢。○永野金山、西四里、馬車賃三十三錢。○砂瀨。○牧園まさき。○安樂温泉、東南二里、馬車賃二十五錢。○鶴島温泉、東三里、三十町、馬車賃五十七錢、鶴島山の中腹に在り、榮之尾、硫黃谷、明礬、鐵瀧、新瀧、湯之子湯等各所に散在して居る、土地高峻避暑に適し、これより鶴島神宮へ二里である。○鹿兒島種馬所、東三里。○木材、竹材。○島川かれいは。○高屋山上院、西三十町、彌勒尊五十錢、炎火々出見尊の御陵である、附近の高屋神社は尊を祀つてある、驛の東北一里の間、鹽瀨、鶴ノ湯、山ノ湯、日ノ出、新瀧の各温泉がある、彌勒尊五十錢以内。○分こくぶ。鹿兒島兒島瀨の北岸近くに在り、古茶煙草の産地として名高く又房を生ず。○鹿兒島

神社、西北八町、所謂園分八幡宮である、彦火々出見尊を祀つた官幣大社で、社傳によれば高千穂宮の址であると云ふ。○準人塚、南三町。○日富山温泉、北十五町。○霧島山、隅日二州に跨り、東西の二峰あり、其間三里に亘つて、東峰は高千穂、東峰は鶴岡嶽といつて居る、驛より北五里で山麓霧島神社に至り、祠より登ること三里で、絶頂に還せらる、頂上は展望開豁、薩隅日の三州は盡ふも更なり、肥豊の高山も唯眼下にあり、近山遠峰皆此山に臣従し、錦江の裏海は庭池の如く、櫻島は假山かと思はれる。加治木 かしき 鹿兒島 渡頭在り、大隅第一の都會で、織物及絹を産す。重富 しげとみ ○平松 神社、南三十町。○米山法師、北一里。○寺師の海、西北二里。鹿兒島 かしき

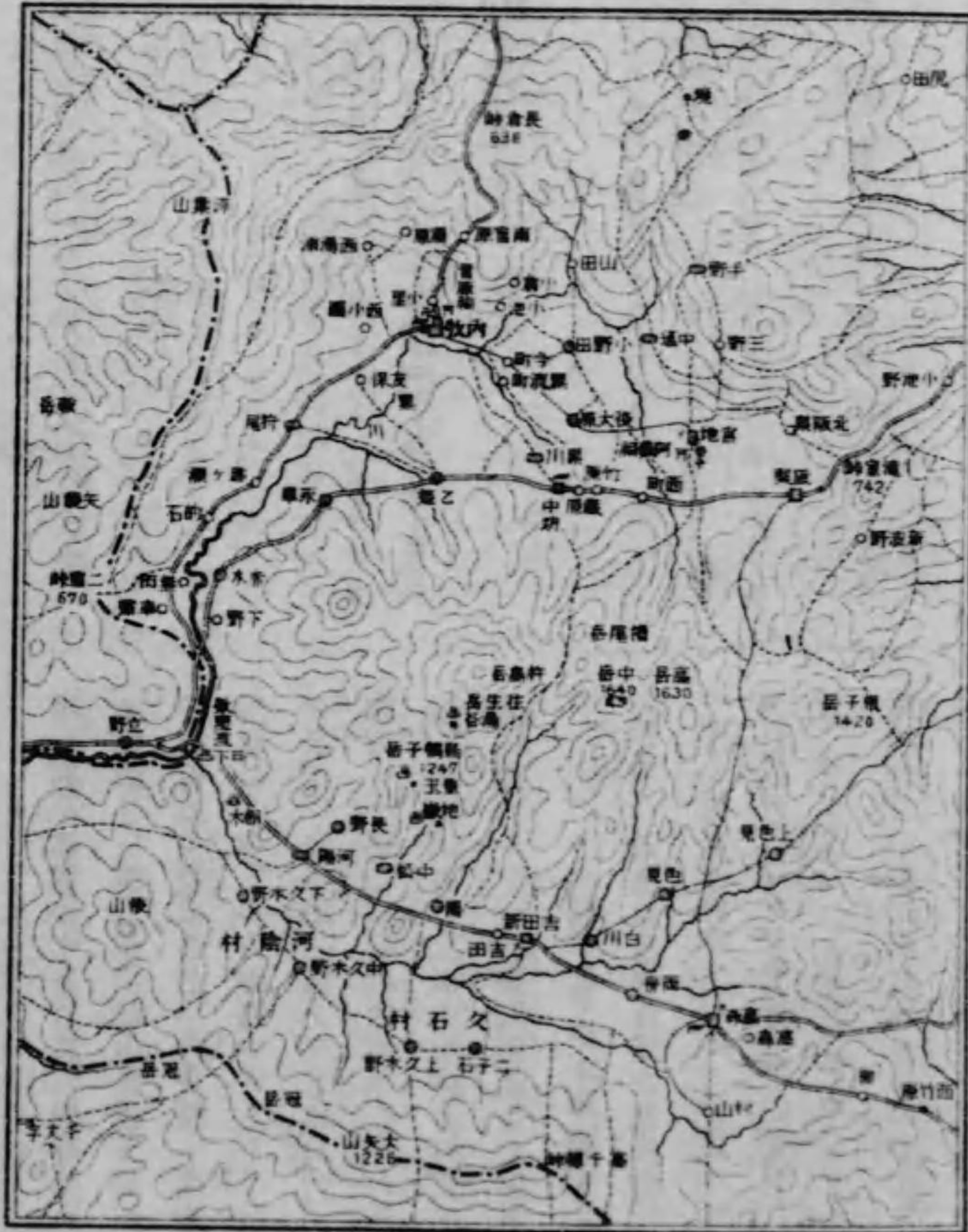
鹿兒島及附近

市は鹿兒島灣に臨み、西北城山を負ひ、前に櫻島を控へ、水深く波穏に、地勢甚佳良である、元島津氏歴代の城市として、熊本藩と共に九州に於ける二大雄藩であつた、文久年間英艦の砲撃を被り、又明治十年の役あり、街衢兵燹に罹り、形勢慘憺たりしが、爾後漸次恢復した、今人口七萬六千人を有し、薩摩焼、薩摩餅、櫻草、薩摩芋、錫、錫器等を産す、輕美、櫻島大根は此地

の名物である

○城山公園、西南十二町、人力車賃十錢、市の萬變を隔て、櫻島の蒼波に浮ぶを望み、風光の美人をして去るに忍びざらしむ。○南洲翁終焉の地、西十町、城山の背後、岩崎谷と呼ぶ。○南洲翁以下の墓、西北七町、人力車賃六錢、淨光明寺に在り、大墳小墳相連り、香煙靡々として絶えず。○照國神社、西南十二町、城山の南邊に在り、齋形公を祀る。○紙船の洲、東北五町、文元二年生靈事件に惹つて嚮來した英艦を撃退した砲臺のあつた處、老松鬱嵬たり。○磯の濱、東北十二町、人力車賃十五錢、島津公の磯別邸あり、江山の勝を占め、林泉の美に富んで居る。○榎月照の墓、南二十三町。○慈眼寺址、南二里、電車の便あり、紅葉の名所。○櫻島、舟航一時間渡船あり、昨年一月大噴火以來新山容の美を損じたれど、絶頂常に白雲を蒸發して、青嶽の盤上に香煙を散るが如く、朝霞夕霧の蒸す處、千態萬狀の奇を呈して居る、しかも海水澄碧かに宛然大湖の如く、浮ぶかともがふ二三の島其間に散在して、景いよ／＼新である、山は御嶽と云ひ、海拔三三〇〇尺、秀麗平滑なる山脚は次第に四方に傾斜し、圓形を成せる其巔野には幾多の村落散在し、有村、古里、黒神には温泉もある、鹿兒島の風光はこの島ありて始て全く、地また多岐夏涼なる處海山の勝景に富んで居る、薩摩景物の産出多く、中にも鹿島大根最著はれ、島周三四尺に及ぶものもある。鹿兒島製菓、河南

阿蘇火山之圖



十四町、市役所、西南十四町、第七高等學校造士館、西南十町、鹿兒島座、中座、西南二十町

室木線 遠賀川—室木

新延 近延 附近新目尾、新延、泉水の諸炭坑あり 八尋やひる 附近旭、三笠炭坑あり 長谷觀音、十七町 室木むろき 附近室木、三笠、滿之浦炭坑あり 六ヶ岳神社、驛前六ヶ岳頂上に在り

篠栗線 吉塚—篠栗

原町はらまち 附近龜山、植木炭坑あり 宇美八幡宮、南一里、應神天皇御誕生の地蹟である 加刺丁池、六町 篠栗ささぐり 附近高田、久原炭坑あり 大祖神社、南二十町

宮地輕便線 熊本—肥後大津

この線は熊本より東阿蘇山麓を経て豊後に入り、大分に



達せむとするいはゆる豊肥横断線で、今大津まで開通して居る、本線熊本に記述せる水前寺、畫圖湖の清遊、阿蘇登山等皆この線に頼るべきものである

春竹はるたけ 農事試験場、東八町 水前寺すゐぜんじ 水前寺、東六町 畫圖湖、東南一里 ●水前寺海苔、晒蓐 龍田口 たつたぐち 官本武蔵の墓、東北二十八町 肥後大津 ひごほつ

阿蘇火山

阿蘇は世界有数の活火山、近年大に噴火の勢を増した、驛より東七里、案するに九州の地盤に二帯の龜裂線あり、一は琉球諸島より來り、開門嶽、櫻島、霧島山、阿蘇山等、九州の中央を縦貫して日本海に出で、一は四國の北邊より瀬戸内海の方面に延び、由布岳、久住山、命峯山、温泉嶽を経て天草洋に没して居る、而して阿蘇山は實にこの二帯火山脈の交叉する所に位するのである。今の火口は中岳に在り、杵島岳、烏帽子岳、高岳、根子岳之を圍繞し、總じて阿蘇の五岳と云つて居る、高岳は阿蘇の第一高峯海拔五千五百尺、根子岳は峯頭鋸齒狀にして頗る

偉觀を呈して居る。五嶽の南北に平原あり、北を阿蘇谷、南を南郷谷と云ひ、今三町、十一村、無慮五萬の生靈を栖息せしめて居る。此五嶽の平原を取巻く連山は即ち外輪山で、北は長倉峠一帯の山嶽を以て、南は大矢山、冠嶽を以て、西は倭山、二重峠を以て、東は豊後境上の連山を以て之を限り、南北七里、東西四里に亘る一大舊火口で、五岳四周の窪地は火口原である、此窪地兩谷に流る、黒川、白川は即ち火口瀬であつて、西方の一壁を破り合流して西に流れて居る、形勢の雄大かくの如きもの、世界に多く其匹儔を見ないと云ふことである。大津より二里白河に沿つて立野に至れば路は二つに岐れて居る、これ黒川白川の合流する所、左は豊後街道で黒川に沿つて阿蘇谷に入り、右は日向街道で白川に沿つて南郷谷に入つて居る、日向街道よりするものは月下温泉又は栃木温泉に一宿し、翌日登山するがよい。大津より月下まで三里半、馬車賃三十一錢、栃木まで四里、三十六錢、栃木は白河に沿へる溪谷の猫額地、

空狭うして夏日短く、温雲低迷して時に室中に去來す、浴間の散策には鮎歸瀧がある。こゝより噴火口まで登り三里道が峻しい。登路、地獄瀧、及湯の谷の噴湯が見られる、半途より上は全く草木を見ず、鞋底踏む處、焦石と爛沙ばかりである。噴火口は名附けてミカドといひ、之を譬ふれば礪の口の如く、煙霧旋上して森然たる柱を行て、萬雷地下に鳴りて、吾も山も坤軸と共に、微塵に粉碎し去られむとするのである。沙石靈あり、奔騰しては又墜落し、落つるもの騰るもの相闘うて火を發す、凄にして壯、怪にして幻、魂飛び神驚くを禁することが出来ない。豊後街道よりするものは、宮地に至りて其處より登る、立野より五里、路稍遠けれど登山は容易である。大津より宮地まで馬車賃七十錢、立野より左すれば直に數鹿流瀧、老樹鬱蒼として阿蘇熔岩の削立する處に、一幅の水晶簾を掛け、萬雷一時に吼ゆるやうである。かくて緩やかな峠を登り、其最高點たる二重峠に達すれば、圓らざりき人は眼前に峭絶なる懸

崖を見、自ら其地上に立つて居る、これ阿蘇火山の外輪に達したのである、此懸崖を下りて阿蘇谷に入り、宮地に行けば阿蘇神社がある、二千年來の古社で、樓門宏壯、桓武時代の皇宮の制に模して築造し、頗る古色に富んで居る、祠官は所謂阿蘇の大官司で古來歴史に著名なる家である、賽者は請うて寶物を拜觀するのが例である。宮地より登山するものは栃木に下り、栃木よりするものは宮地に下るがよい

三角線 宇土—三角

住吉すみよし 住吉神社、西北三町の海岸に在り、歌枕に名高い宇土小島、風流島、笠岩崎等、前面に橋はり、風光佳、附近沙干狩に適す ●始

赤瀬あかせ 水邊妙明の地、赤瀬温泉あり、海水浴場あり 三角みす

み 三角港、西北二十町、人力車賃十五錢、宇土半島の尖端、北有明海を隔てて島原の温泉嶽を望み、南不知火海を測りて天草諸島の翠色を指點し、紅光の美、肥後第一と稱せられて居る、開港場の一で最近の貿易額四十八萬

圓あり、近時海水浴の遊地として盛衰と留聲せらる、舟を備うて島巡をたさは、清興盡きないであらう、島原、本渡、宮岡、牛深への汽船便あり、船賃三等島原三十六錢、本渡六十錢、宮岡九十錢、牛深一圓二十二錢、船に預つてこの間を周遊せば較上欄目する所は天草洋「雲那山那吳那越」水天舞臺奇一變正に山陽詩中の人となるのである ●金術温泉、東三十町、馬車賃十錢 ●海産物、鯛煎餅

我戀は博多を出づるから舟の
 ゆたにたゆたに追風ぞまつ 夫木
 年ふればわが黒髪もしら川の
 みづはくむまで老いにけるかな 檜垣女
 ながむれば思ひ残せることぞなき
 宇土の小島の秋の夜の月 藤原草

宮崎線

吉松—山之口

宮崎線は鹿兒島本線吉松より東に岐れ、肥日國境山脈と霧島山脈との間なる眞幸平の沃野を横断し、小林町より南に轉じ、霧島諸山の東麓を繞りて都城に至り、これより東に轉じて宮崎に至らむとする鐵道で、今既に山之口まで四五哩の間開通し、山の口より青井嶽まで六哩餘、田野より清武まで六哩餘、共に明年三月開通の豫定である。

京町きやうまち ○吉田温泉、北二十五町、馬車賃十二錢、矢野の山麓に在り
加久藤かくとう ○白鳥温泉、南二里、霧島國境の別嶺白鳥山中に在り、避暑に適す、山上に白鳥池あり、山腹に白鳥神社あり、日本武尊を祀る
飯野いひの ○飯野城址、一里、島津義弘之に治し、伊東、相良兩藩に備へ、加久藤、木崎原の奇捷を得た、木崎原の古戰場は即ち加久藤より飯野に至る間である ○御留孫神社、東北三里 ○大河平製材所、東北二里半 ○小林町こはやしまる 霧島山脈の群峰正面に聳立す ○霧島神社

社、西南一里 ○陰陽石、北一里十二町 ○種馬所、南一里十四町
たかはる 高原性平原の中央に在り、この方向より霧島に登山する人は麓に下山するがよい ○霧島東神社、西一里二十三町、馬車賃十八錢、神社より高千穂峰まで一里半 ○霧島神社、西南五里半、馬車賃六十五錢 ○藤太郎冷泉、東北一里 ○狹野神社、西三十四町、馬車賃十二錢、近年推論して此附近を神武天皇降誕の地なりとし、官幣小社に列して居る ○軍馬補充部派出所、西八町 ●米 材木 谷 頭 たにがしら ○平田三五郎墓、西南二里 ○霧島神社、西六里半、馬車賃七十錢 ●木材、竹材、甘藷 郡 城 みやこのじやう もと島津氏の支封北郷氏の領地で、今人口二萬二千人、官幣第一の都會である、○神社、南七町 ○城山公園、西南一里 ○安久嶺泉、南二里半、馬車賃二十四錢 ●米、茶、牛馬皮、生糸 三 股 み また ○宮崎林業會社工場、東三里十四町 山之口やまのくち 宮崎町まで 東北十里半、馬車賃一圓二十錢 ●木材、木炭、生糸

川内線

鹿兒島—川内町

この線は鹿兒島を起點として伊集院、串木野を経て川内に至る線で、今延長三〇哩七分、將來肥薩の海岸を北して八代に至り、鹿兒島本線に接せむとするのである。

武 たけ ○高等農林學校、南二十町 ○農事試験場、南二十二町
伊集院 いじふらん 南薩鐵道の分岐點、同線は加世田まで十八哩、貫金五十錢 ○徳重神社、北一町、島津義弘を祀る、陰曆九月十五日の祭禮は妙國寺詣りとて、鹿兒島の健兒月明に乘じ甲冑に身を固めて參詣す 湯之元 湯のもと ○湯之元温泉、南三町 西市米にしちき ○吹上の濱、西七町、觀光佳 串木野 くしきの ○金山峠、一里六町 ○三井金山、西北五町 ○芹ヶ野金山、西北二十町 川内町 せんだいまち 川内川に臨める河港である ○新田神社、西二十町、國幣神社、社背可愛山あり、天津彦彦々杵尊の山陵と傳へて居る ○泰平寺址、西北二十町、秀吉島津征伐の折、和を講じた處 ○米の津、北十三里、馬車賃九十六錢、肥後の三月へ汽船便あり ●生

糸、茶、ポタン漬 ○薩肥海岸、川内より西二里網津は川内川の海に入る所である、これより北西方に至る間は、奇岩亂立して青松之を繞り、觀光甚佳、中に平瀬最勝峯と稱せられて居る。阿久根は西方の北三里、往古よりの宿驛として名高く、海岸又奇勝に富んで居る。米の津は阿久根の北三里、廣瀬川の河口港で三角への汽船便がある。在時薩藩が嚴に行人を檢した出水圍址は北一里半、道は之れより肥後に入るのである。水俣は水俣川口に在る一大邑、津奈木太郎峠を越れば佐敷である。佐敷城址は建武以來の古城址で戰國時代島津相良兩氏互に相攻略してこの城を有した、茲より東して球磨川沿岸の白石峠に出づるの道がある。佐敷より尙北すれば佐敷太郎峠、赤松太郎峠を越えて、日奈久温泉場を経て八代に出づ、これはゆる三太郎越の險と稱せられたものであるが、今は道路改修せられて交通甚便に、到る鹿兒島の美に富んで居るのである。

長崎線

長崎線とは

- 一 長崎本線 鳥栖、長崎間、九八哩六分
- 一 唐津線 久保田、西唐津間、二六哩八分、山本、岸獄間二哩六分、及貨物支線
- 一 伊万里線 有田、伊万里間、八哩一分
- 一 佐世保線 早岐、佐世保間、五哩五分

の總稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、鹿兒島本線の鳥栖より分岐し、筑後川下流の沃野を西南に走り、佐賀を経て久保田より西北に唐津線を岐ち、有田よりは伊万里線を北に、早岐よりは佐世保線を西に岐ち、本線は南折して大村灣の風光に接す、川棚より大草に至る間、汽車は風曲せる海岸に沿うて走り、灣又灣、山又山、車窓の眺望

飽くことを知らず、中に大草驛附近最景勝に富んで居る。長興より灣に離れて南すればやがて長崎に達するのである。列車の運行は本線内の外門司長崎間三回、鹿兒島、長崎間に一回の直通列車あり、門司よりの急行列車は約六時間半、鹿兒島よりは約十七時間半を要する

長崎本線 長崎—鳥栖

中原なかばるの血山土器製造場、東南一里 ●土器、陶器 神崎かんざき 船田神社、南五町 ●蓮池公園、南二里 ●仁比山山王社、北一里 ●奉送 佐賀さが 筑紫平野の西方に在り、南方有明海に近し、鍋島氏の舊城市で今人口三萬六千人を有し、米、小麦、糖類、鹽類等を産し、名物博羊羹、丸房露あり ●松原神社、南十三町、馬車賃六錢、鍋島直茂を

祀る、林泉の美あり、今公園となつて居る ●神野の茶屋、西十三町、人力車賃十五錢、田布施川の清流を引いて泉池とし、林丘の趣致甚佳 ●佐賀城址、南十四町、江藤新平の亂、兵燹に罹り、今僅かに本丸の一部と城門を殘して居る、林影寂たる邊、嗚呼諸君子之碑あり、新平以下の義を記念するもの、命題奇麗哀悼の意深し ●實相院、北二里半、軌道賃金十二錢 ●熊ノ川温泉、北五里、内二里軌道賃金十二錢 ●古湯温泉、北六里 ●蓮池公園、東南二里 ●佐賀驛、南十三町 ●市役所、南十二町 ●物産陳列場、南十二町 ●農工銀行、南九町 ●佐賀セメント會社、南十三町 ●谷口鐵工場、西南二十五町 ●眞崎鐵工場、東南二里 ●農事試驗場、北十町 ●新榮座、南十三町 ●久保田くぼた 唐津線の分岐點 ●梧竹堂、北二町 ●牛津うしづ ●住の江港 南二里、人力車賃二十五錢、六角川河口に在り、特別輸出港で石炭の輸出が盛である、最近の貿易額四十五萬圓に上つて居る ●鯛、生果 ●北方きたがた ●杵島炭坑、西十五町 ●武雄雄たけを ●武雄温泉、西六町、蓬萊山下に在り、人力車賃十錢、山には櫻樹が多い ●松蔭神社、東南四里軌道賃二十八錢、櫻樹多し ●徳院院稻荷神社、南五里半、軌道賃金三十二錢、幽邃の境、●櫻野温泉、南三里、自動車賃七十錢、●肥前陶業會社、南二里二十五町 ●志田陶磁器會社、南一里半 ●米、陶磁器 上有田かみありた 有田ありた 有田燒の産地、有名なる香蘭社を

始め、深川製鐵會社、有田製粉所、辻鐵器工場、磁器製造所、青木製鐵工場等あり、物産陳列館、工業學校の設けあり、有田驛は伊万里線の分岐點である ●早岐はいき 佐世保線の分岐點、早岐の兩戸に臨み、右すれば佐世保灣に出づべく、左すれば大村灣に入る、五島、平戸に至る汽船便あり ●魚類、肥料 南風崎はえのさき ●伊ノ浦瀬戸、西南二里、船賃往復十六錢 ●生果、海鼠 波村そのぎ ●櫻野温泉、東三里、馬車賃三十錢 ●茶、源六燒 松原まつばら ●海水浴場、西北三町 ●大村おほむら 大村氏の舊城下大村藩に臨んで居る、櫻はまた鯛ノ浦ともいひ群山環繞して湖池の數がある、西北方は水道を通じて居るが、針尾島之を擁護し、二條の鉄橋を以て佐世保灣に通じて居る、大村の前面、白島等散在して、風光が好い、灣内眞珠貝を養殖して居る ●玖島城址、西南六町、大村藩の風光佳、大村神社あり、境内には櫻樹が多い ●眞珠貝養殖場、西南十町 ●吉野粉製鐵工場、西北八町 ●貝卸工場、西南五十町 ●甘露、眞珠、貝卸、製糖工 ●藤 早いさはや 龍造寺氏の舊城下、肥前の南部なる數多の半島は、此地に於て卍字形を爲し、此地其中心にあたり、重要な地點である、島原へは輕便鐵道あり、賃金五十三錢である、小濱温泉、温泉嶽温泉に行くには坂處よりするがよい、愛野まで輕便鐵道賃十六錢、愛野より小濱まで自動車賃七十錢である ●島原港、温泉嶽の東麓、直に海に臨んで風光佳、口ノ津、三角に至る汽

船便あり。口ノ津港、島原及茂木より汽船便あり、開港場にて最近の貿易額輸出十八萬七千圓、輸入六萬三千圓あり。○慶興寺、東南七町。○天祐寺、南八町。○甘藷、壘。喜々津ききつ。○蕪の製番、南一里二十町、龜瀨開鑿の境。○松茸。大草おほぐさ。○海水浴場、隣附近一帯、海上近く三五の青洲を並べ、佳景愛すべきものがある。○伊木刀密柑。道尾みちのを長崎人士の別墅。○道尾温泉、東五町、其後に道尾公園がある。○岩屋山、西十五町。長崎ながさき

長崎及附近

長崎は風光の美、氣候の温、物價の廉を以て、外人に「世界の樂土」と激賞せられて居る、天正の昔、西班牙、葡萄牙の商船初めて來つて貿易を開いてから、此地は久しく外國交通の唯一門戸となり、西方の文物消息皆此地を經由して運入つた、故に外人の筆のこの地に及ぶもの多く、日本を知れる外人にしてこの港の名を知らないものはないのである。今人口十六萬人を有し、九州第一、本邦第七位の都會である。貿易は近年門司の發展につれて、稍衰運に向つたやうであるが、尙輸出四百七十四萬圓、輸入千六百十三萬圓に上つて居る、物産には藍

甲細工あり、其他珊瑚、眞珠、金銀等の細工、漆器、洋傘、縫針、石炭、海産物等を産す、長崎カステラ亦世に聞えて居る。灣頭の風光は實に愛すべく、風に瓊浦の美稱を唱へて居る、丘山海を抱いて三面を繞り、波濤に盆水の如く、曾て海若の怒るを見ず、多少の島影また此間を點綴して、一帶の風色給けるが如く、三十六灣二十四橋勝景盡くる、とはないのである。

○諏訪神社、東十一町、人力車賃十一錢、長崎の産土神、殿宇宏壯、林泉の美あり、祠隣の山、存樹泉石の布殿を加へ、開いて公園とす、展覧市中第一である。○崇福寺、南二十一町、人力車賃二十錢、所謂南京寺なり、伽藍宏壯である。○大徳寺、南十九町。○大波止、南六町。○居留地、南二十三町。○西山水源池、東三十一町。○本河内水源池、東三十四町。○觀鳥海水浴場、西海上五里、大波止より汽船在復十錢。○長崎縣廳、南八町。○市役所、東南十町。○控訴院、南十一町。○税關、南半里。○長崎要港司令部、西十七町。○農事試驗場、東三十町。○商品陳列場、東十一町。○警學專門學校、北二十三町。○高等商業學校、東二十三町。○農工銀行、東南九町。○三井銀行支店、東南十六町。○正金銀行支店、東南二十一町。○三菱造船所、西

方第一の港、大波止より汽船あり。○高島炭坑、長崎縣外高島に在り。○松尾鐵工場、西十五町。○日本製船支店、南半里。○大阪商船支店、南六町。○三菱合資支店、南二十八町。○三井物産支店、南二十一町。○舞鶴座、東十九町。○壘ノ喜座、南十七町。○茂木港、二里、風光佳、對岸小濱温泉に至る汽船便あり。○温泉、小濱より三里、早より十里、途中愛野まで島原鐵道、愛野より小濱まで自動車の便あり、山は又雲仙嶽とも稱し、九州三山の一、頂上漏斗状をなせる噴火口を存して居る、海拔四千八百尺、肥山筑峰、有明、千々石の活潑千里、關目雄大、九州半面の景象瞭如として眉端に集まるのである、温泉は山麓二千二百尺の所にあり、夏期浴遊の客遠く上海、香港より來る

唐津線 久保田—西唐津及山本—岸嶽

小城をぞ 鍋島氏の支封地。○小城公園、北二町、舊城址で櫻樹が多い、南麓に阿山神社あり、支藩祖を祀る。○清水觀音、北一里、見福寺と云ふ、直下二十五丈の瀧がある。○光勝寺、北十五町。○紙園温泉、北八町。○藤川温泉、北一里半。○古湯温泉、北五里。○小城芋菜、和紙、麵類。東多久ひがしたく。○東多久炭坑、東南八町。○蒔原あざみばら。○多

唐津及附近

久保田、東南一里十五町。○木さうらぎ。○東木炭坑、東十二町。○第二抽の木炭炭坑、東一里。○浪高炭坑、南十二町。○浪高石山、北二十五町。○松浦川結漁、北二町。○石岩、砥石、鮎。○岩屋いはや。○岩屋炭坑。○西一町。○石炭。○相知あふち。○見返瀧、東北一里。○相知炭坑、西半里。○石炭。○山本やまと。此より本田部を経て岸嶽に至る線あり、本田部より半里に芳谷炭坑、岸嶽の西三町、岸嶽炭坑あり。○石炭。○唐津からつ。○西唐津にしからつ

唐津は小笠原氏の舊城市、松浦河口に誇りて唐津灣に臨んで居る。港泊は近時其北一里弱の大島の陸に築造せられ、西唐津と稱して大船巨舶は茲に泊せしむる、即ち石炭の輸出貿易港で、最近の貿易額輸出三百一萬圓、輸入四萬二千圓に上つて居る、地はまた近時海水浴場として甚有名となつた。古雅なる唐津焼及半紙、魚類、肥料を産し、名物松浦漬あり。○舞鶴公園、東十町、舊城址にて直に海に臨んで風光佳。○近松寺、北六町、近松門左衛門齋に居たりと云ふ。○虹の松原、東一里、輕鐵貫金十錢、自動車六十錢、松浦長江二里餘の間、萬松一路白波の上に翠を連ねて、

支那の清波に浮び、傾巾振山の崎嶇に映じて居る、清麗の景、優麗の状三保の松屋、舞子の濱も或は及ばないであらう、夕陽燃ゆるが如く海に映じて、波島に紅なるの時、海濱二里の沙濱白く、並松萬株翠蒼りて、紅白青の色を重ね、宛然たる二里の大虹をなす、唐津の虹の松原か、虹の松原の唐津か、海にこれ天下無に見るの絶勝である。○海水浴場、東九町 ○七ツ釜、西唐津より北海上五里、十人乗一艘船便五圓、全脚文武岩より成り、斗艇船立、先端分岐して稍三又状を成し、其東なる又の基脚に、七箇の横洞並列して瀕を設けたるやうであるから七釜と云つて居る、波浪靜穏なるの日、皆舟を容るゝことが出来る、これより北呼子港に至る間一里ばかり斷崖絶壁絶然として連續し、崖や壁や皆文武岩、遊子をして思はず、「日本にもフキンガル崖あり、巨瀨の石道あり」と絶叫せしむるのである、此地筑前志摩半島の芥屋の大門の文武巖洞と、東西相距る十里、遙に相對して自然の大觀をなして居る。○呼子港、同西北三里十五町、汽船賃四十錢、自動車六人乗賃切四圓 ○田島神社、呼子港の前面加部島に在り、呼子より、渡船賃八錢、境内佐用姫神社あり、磐夫石を存す。○名護屋城址、呼子より渡船賃十二錢、豊太郎が征明討韓の行營を置いた處、侯伯陣營の址二里餘の間に散在し、規模の大今尙推知せらる、其本丸の址は丘陵の上に位し、遙に蒼波を隔て、壹岐島を望み、風光の秀絶なるのみならず、人をして英雄の偉業を追慕せしむるに足る。

伊萬里線 有田—伊萬里

○ 宿 宿さうしゆく、此地韓人初めて陶器を焼いた所と云ふ 伊萬里 いまり 伊萬里港頭に在り、有田橋は在時此地より輸出したから、却て伊萬里橋の名で知られて居る。○伊萬里公園、東北十町、港頭の風光佳。○七ツ釜、西北海上三里和船船賃一艘二圓、○柳ヶ瀬陶器場、東南七町 ○大川内山製陶所、東南一里半 ●陶器、海産物

佐世保線 早岐—佐世保

○ 佐世保 させほ 峰崎三面を圍み、南に良好なる港あり、島嶼西邊に横はり、形勢無雙の地である、海軍鎮守府を置かれてから在時の藩村一變して、今人口九萬人、九州第三の都會となつた、明治二十七八年、同三十七八年の兩度の戦役に、我艦隊が先づ據を此港に解き、光榮ある征途に上つたのは皆人の知る所である。○眼鏡岩、北一里八町、馬車賃二十錢 ○山の田水源池、北一里 ○福石製糖、東南八町 ○九十九島、軍港の外西九十九島橋に在り、無數の小樹翠松を挿して波鏡に影を映じて居る。○海軍鎮守府、西北二十町 ○海兵團、西半里 ○海軍工廠西三十町 ○市役所、北二十町 ○要港司令 部北十五町 ○佐世保港、西十二町 ○衛生所、西北十五町

豊州線

豊州線とは

- 一 豊州本線 小倉、幸崎、九三哩九分
- 一 田川線 行橋、添田間、二三哩一分、及貨物支線
- 一 宮床線 後藤寺、宮床間、一哩八分、及貨物支線
- 一 犬飼輕便線 大分、中判田間、七哩三分

の總稱で、其本線は鹿兒島本線の小倉驛より南に岐れて、九州の東海岸に出で、行橋より西に田川線を岐ち、本線は中津、宇佐を経て國東半島を横斷して大分灣岸に出で、温泉地として名高き別府を過ぎて大分に至り、そより犬飼輕便線を西に岐ち、本線は尙南して幸崎に至つて止まつて居る、幸崎より白杵に至る一一哩餘は本年九月、犬飼輕便線中判田より竹中に至る三哩餘は五年一月開通の豫定であ

る、列車の運行は門司よりし、門司より大分まで直通六回あり、約四時間半を要す

豊州本線 小倉—幸崎

附 犬飼輕便線

○ 城野 じやうの、○ 妙見山、東半里、山麓御祖神社あり、和氣清麻呂を祀る、境内には櫻桃が多い。○ 福壽寺、東二十五町 ○ 小嵐山、西南一里 登の石所 ○ 菅生の洞、西南三里 ○ 曾根、そね ○ 帶踏石、東三十四町 ○ 垣見石灰石採取所、北一里二十八町 ○ 荻田、かんだ ○ 神ノ島、東二十町 ○ 海水浴の適地 ○ 内野洞窟、南八町 ○ 行橋、ゆくはし ○ 田川線の分岐點、○ 須佐神社、東一里 ○ 青龍窟、西一里半、山麓まで人力車賃二十三錢、○ 尊覺寺山の中腹に在り、鐘乳岩洞である ○ 椎田、しひだ ○ 彌敷、天満

宮、東北八町 ●海草 宇島うのしま 此處より耶馬溪橋田の對岸まで
 宇島輕鐵の便がある貨金二十二錢 中津なかつ 山國川やまくにの河口に在り、
 奥平氏の舊城下、米穀、生糸、醬油、酒、木材等を産し、名物には柿羊羹、耶
 馬溪焼あり 〇福城址、北八町、今公園とす、福澤氏の獨立自尊の碑あり
 〇關無瀬神社、北十町 〇大雅堂、西八町、自性寺じしやうじの書院を云ふ、橋、板
 戸皆大雅堂の権意に成る、人力車賃十錢 〇鐘淵紡績中津工場、西南三町
 〇豊中製糸會社、西南十町

耶馬溪

耶馬溪は本邦に於ける溪山の勝の最有名なるもの
 で、山國川やまくにの上流一帯の溪谷十數里に亘つて居る、
 巖峨たる英彦山の奇峯天際に聳えて、常に白雲を醸し、雲
 汁流れて山國の溪流となる所、鐘山かねやまの山脈と縈回鼓馳して
 自然の奇觀を呈し、峯頭突兀、山、水を繋め、水、石に迫り
 奇巖峭壁、迅流激湍、縦横に紆曲し、山形岩容變幻奇異名
 狀すべからざる風光を呈するのである。頼山陽が一度此の
 地の奇勝を説き、耶馬溪やまけいの名を命じ、「之を海内第一といふ
 も或は誣ひざるなり。」と云つてから、足九州に入つてこの地
 を訪はぬものはなく、日本の山水美を説くもの、また此

地に指を屈しないものはない。宇島うのしまよりは橋田はつたの對岸ま
 で、中津よりは橋田、羅漢寺を経て柿坂かきざかまで輕便鐵道の便
 あり、橋田に近き鮎返あゆかへりより漸く風光の美を現はし、佛坂ほとけざか
 あり、寶生の洞門に至れば、路は笥の如き攢峯の山腹を穿ち、
 川に沿つて通じて居る、洞傍舟津わたしあり、備うて對岸より望
 めば、苔蒸したる絶壁の下亂松倒に垂れ、危巖突兀たる間、
 人馬洞門を出入する光景、宛として畫のやうである。進ん
 で耶馬橋畔に至り、左すれば二十町にして羅漢寺、溪勝指
 呼の間にあつまり、心神恍として仙ならむとするのであ
 る、中津より羅漢寺驛まで貨金廿六錢、驛より寺門まで人
 力車賃二十錢。耶馬橋より尙進めば、溪山の美愈加はり、
 口ノ林くちのち、柿坂かきざか、中磨の勝を経て、旭橋より彦山路に入り、
 山麓猿飛さるとびに至る間、山陽のいはゆる造物の奇怪畫手また寫
 寸能はざるもの、一步に觀を異にし、二歩に趣を別にし、
 淺より深に入り、平より奇に移り、一曲は一曲より奇にし
 て窮まるを知らず、誠に天然の一大傑作である。旭橋より



耶馬溪附近之圖

余足跡幾半海
內猶冠東遊得
妙義山以爲無
雙今馬溪百里
如妙義者不知
幾十峰謂之海
內第一或不誣
也 (賴山陽)



西三里、日田に至れば筑後軌道に頼り久留米へ出づべし、
 柿坂より南すれば新耶馬溪、近時其奇勝却て本溪に勝るを
 説く人が多い、中津より柿坂驛まで賃金四十銭、柿坂より
 新耶馬溪終點まで五里、馬車六人乗参圓、人力車一圓

猿飛より北三里、蟬巖として天空に聳えて居るは英彦山、
 山は海拔三千九百五十九尺、峯勢八方に分れて數里に延く、
 山上英彦山神社あり、官幣中社に列して居る、これが所謂
 彦山権現で天津日子忍骨尊の靈蹤と傳へて居る、山中名勝
 甚多く、近時避暑探勝の杖を曳くものが多い

大貞おほさだの大貞八幡宮、南二十五町、生果、食鹽、四日市よつ
 かうち、芝風善光寺、西南半里、柳ヶ浦やなぎがうら、宇佐神宮、
 東一里二十五町、馬車賃十五錢、豊中製糸分工場、南二十町、米、魚介

宇佐うさの宇佐神宮、西一里七町、馬車賃九錢、官は古より朝廷の崇敬
 厚く、廟宇壯麗である、神護景雲の危機に於ける和氣清麻呂託宣の一言、
 として秋霜烈日の概あり、俯仰時に心を清めて思を千年の古に馳すれば、神威
 殿として在ますかと思はる、●米、食鹽、生糸、宇佐館、立石、たていし
 馬上山、東南半里、中山香、なかやまが、鶴成金山、西北十町、神

鹽藏泉、東三町、富貴寺、北二里半、杵築きつき、杵築城址、東一里
 十町、自動車賃二十錢、守江港、東二里半、自動車賃三十五錢、奈多八
 幡宮、東四里、自動車賃六十五錢、附近海濱風光甚佳、●鹽表、日出ひ
 方、木下氏の舊城邑豊後灘に臨んで居る、青柳城址、西南八町、松原
 寺、西十二町、●川、川かめがは、別府べつぷ、濱臨はまわ

別府温泉 別府は別府灣頭に在る著名な温泉場で人口二萬二
 千人あり、鶴見山脈東に傾いて別府灣に盡くる所、
 廣さ數平方里の間、海岸に、沙汀に、丘上に、谿間に、行
 くとして温泉ならざるはなく、湯の池、湯の川、湯の瀧、
 見るとして温泉ならざるはない。酸性泉あり、鹽類泉あり、
 炭酸泉あり、硫黄泉あり、殊に海濱汀濱に湧出する砂湯の
 如きに、他に見るべからざるもので、別府の温泉が、温泉
 の別府が、浴者必ず其多様なるに驚くであらう、全區を分
 けて龜川、柴石、鐵輪、明攀、別府町、濱臨、觀海寺、堀
 田の八湯として居る

龜川は龜川温泉所在地で別府の北門、旅館民家一千戸皆

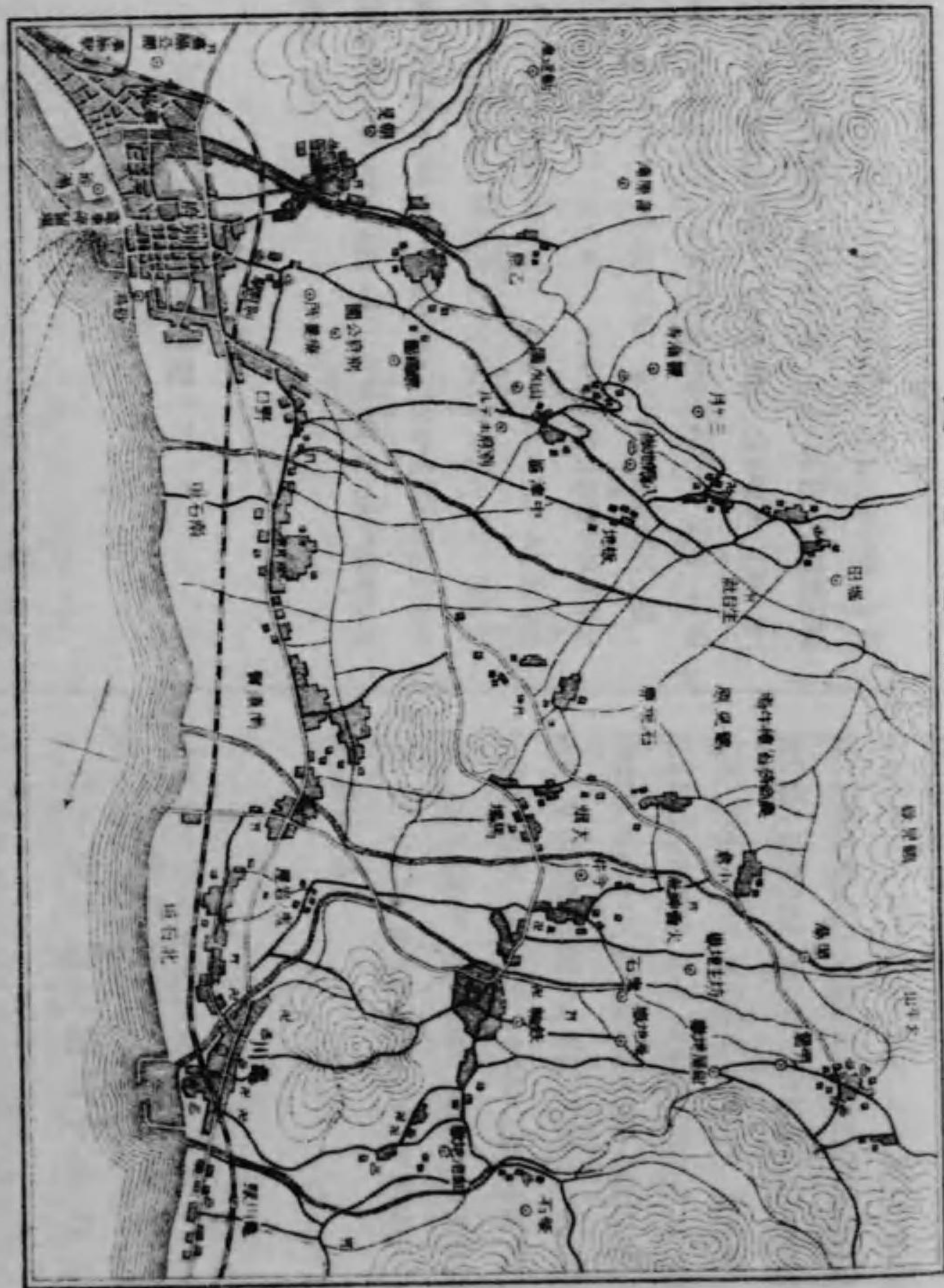
浴槽を有し、最温泉の豊富なる所である。血の池地獄は龜川の四十町、赤褐色の熱湯沸々として湧き、時々轟然として噴騰する、柴石温泉はこれより西七町、四面翠巒に覆はれて居る、柴石より七町にして鐵輪温泉がある、此地は到る處天然蒸氣を噴出するので、檐前竈下小孔を穿つて導き、釜飯を懸けて蔬菜を煮て居る、名づけて地獄の火と云ふ。鐵輪より北、海地獄、坊主地獄、紺屋地獄等の硫氣芬々たる間を過れば明礬温泉、龜川より西南二里、馬車四十錢、人力車六十錢、地は別府諸温中最高の地置を占め、豊後海の風光雙眸の中に在り、展望の勝地である。

別府町温泉は七湯の中心に當り、宏壯なる浴場が多い、海濱の沙汀は名高い砂湯浴場で、干潮の際砂中に全身を埋むれば、適度の温湯が自然に體を潤して、洵に愉快である。觀海寺温泉は町の西三十町、人力車賃二十五錢、八湯中最展望の勝に富んで居る、これより西北二十町、堀田温泉あり、更に登ること二里にして鶴見嶽の山頂に達する、由布

嶽は鶴見の西に聳立し、豊後富士の名あり、別府附近に温泉の湧出するもの極めて多きは、此兩山の火山作用より地殼の壁裂縦横に存して、地熱に熱せらるゝに因るのである。兩山共に前に齒齧灣の海光を望み、別府市街より右は大分市、左は國東半島を眺め、雙子熄火山の半島に秀絶して居るを見ること出来る、風光の快潤なる九州東岸第一である。濱脇温泉は別府の南、朝見川の小流を以て境として居る、浴客の多いことは或は別府區より勝つて居るやうである。

○別府公園、別府驛より西七町 ○農商務管理牛場、同西三十町 ○劇場新館、同東南五町 ○竹細工、湯の花、地獄染、湯の花菓子 ○西大分にしおほいた ○齒齧灣、北四町 ○春日神社、東北十二町、電車賃三錢、境内今公園とす、天文年間大友氏の外國と貿易を行つたと云ふ神宮寺浦は此附近だと云ふ ○大分紡績會社、西二町 ○物産陳列場、東十三町 ○青磁、綿糸、利吉美、堀川國頭 ○大分おほいた 大分輕便鐵道の分岐點、大分川の吐口、大分平野の北方に在り、中世大友氏に居り、武成九州北部に及べり、維新前大給氏の城市であつた、今人口三萬六千人を有し、米、青磁、繭、油物細工の産あり、海産羊羹、子持鰻魚を名産とす ○萬壽寺、東十町 ○岩

別府附近地圖



田川線

日神社、西北二十町、電車三線、湯平温泉、南西九里、小野屋まで六里自
 動車賃六十錢、○蓋山寺、南二里半、○大分縣廳、東北十町、○市役所、東
 北五町、○物産陳列場、西北十七町、○大分紡績會社、西北三十三町、○大
 分製糸會社、西南二十町、○共樂館、西北十二町、○中判田、大飼線の終
 點、附近鶴ヶ城址、妙見寺、森神社等あり、生糸、密柑、鮎を産す、
 つるさき、もと肥後細川氏の領地で、海路往來の埠頭であつた、○北村の
 濱、東北三十町、**幸崎** かうさき、○佐賀の關、東二里半、馬車賃二十錢、
 海部半島の地類で、其南北兩傍に小港あり、半島の高峰は牧山で其東端は
 開脚である、開脚の絶端には牛島高島相連り、東北八海里を隔て、伊豫の佐
 戸岬と相對して居る、これ即ち古の速吸名門で今佐賀阿蘇海峡と云ひ、瀬戸内
 海より南方に通ずる水道の要害である、神武天皇東征の時此地に推根津彦あ
 り、従つて東征船隊の前軍となり偉功を奏した、今早吹神社あり其靈を祀
 つて居る、●瓦、魚類、鰯

田川線 行橋—添田
 附宮床線

豊津とよつ、○園分寺、東半里、九州屈指の名刹である、●砂利



田川さいがは、○生立八幡宮、西三町、○鶴所谷、北一里、發行所西
 征の遺跡地、油須原ゆすばる、○英彦山、南四里、内二里半人力車賃八十五
 錢、英彦神社に詣でて南嶺に下れば、那馬溪の絶壁を過ぎて中津に出づ、
 粟の瀧、東南一里、●砥石、鮎、熊餅、**香春**、かはら、○香春嶽、北三
 十町、危巖亂立す、東限高座石寺あり、●石炭、石粉、**伊田**いた、**筑豊**
 線伊田線の接續點、○白鳥神社、南五町、○三井炭坑、西南二町、●石炭
 後藤寺ごとうじ、豊州産炭地方の中心點、こゝより西に較る、官床製支線
 あり、○三井田川炭坑、東三町、○官床、官床線の終點、附近豊國、横島、
 大新炭坑あり、**池尻**いけじり、附近中島、脚田、佐々木、門松炭坑あり
川崎かはさき、附近大峰、島廻、川崎炭坑あり、○鮎返、南二十町
添田そへだ、附近峰地炭坑あり、○英彦山、南三里半、山麓まで人力車
 賃一圓五十錢

いざ子供大供も見む豊後海 宗因
 彦山の鼻はひこく小春かな 惟然
 ゆく春や歌も聞えず宇佐の宮 蕪村

筑豊線

筑豊線とは

一 筑豊本線 若松、上山田間、三三哩三分、及貨物支

線

一 香月線 中間、香月間、二哩二分

一 伊田線 直方、伊田間、九哩九分、及貨物支線

一 桐野線 勝野、桐野間、三哩三分、及貨物支線

一 幸袋線 小竹、二瀬間、四哩七分、及貨物支線

一 長尾線 飯塚、長尾間、三哩六分、及貨物支線

の總稱で、其本線は若松を起點として、折尾にて鹿兒島本線と交叉して南し、上山田に至りて止まるのである、其間香月、伊田、桐野、幸袋、長尾の短支線あり、伊田線は伊田に至りて豊州線田川支線と接続して居る、列車は若松より

上山田まで約三時間にして達せらるのである。本線及支線沿道一帯の地域と、鹿兒島本線大牟田、萬田驛附近の地は、本邦に於ける石炭の最主要産地で其採掘高は兩地方を通じて一ヶ年一千一百五十萬噸を超え、價格三千七百萬圓を産し、全國産額の三分の二に當つて居る。其他長崎本線には杵島炭の炭坑あり、唐津線には唐津炭の炭坑あり、一ヶ年の採掘高百二十萬噸に近く、價格三百拾萬圓に上つて居る。門司港を始として若松、博多、三池、唐津、住ノ江、口の津皆石炭の輸出港である、九州が漸次工業地として重要な地位を占めつゝあるのは、工業の生命たる石炭の産額の多いのが最大原因である。伊田線以外の各支線は本線中に附記する

筑豊本線 若松—上山田

若松 わかまつ 洞の門口の西岸に在り、筑豊炭の輸出港にして門司、戸畑と共に、遂然として舊觀を一新した、今人口三萬五千人を有し、最近貿易額輸出五百七十七萬圓、輸入三百三十七萬圓に上つて居る、驛の構内は直に海に接して、廣さ二十萬坪に餘り、船舶の數かるゝもの十三哩、刻々運び來れる炭車の數幾百千なるを知らず、其壯觀に想像の外に在るのである、
○八幡製鐵所、海上三十町、渡船八錢 ○鯉子神社、東北八町 ○金比羅山、西二町、眺望佳 ○市役所、北七町 ○三菱合資支店、東北八町 ○三井物産支店、東北七町 ○住友炭業所、東五町 ○古河鐵業出張所、東北七町 ○旭産、北四町 中間 なかま 香月線の分岐點、附近中鶴、高松、新井、岩崎、大隈、大辻、高江の諸炭坑あり、香月線香月附近には大辻炭坑、杉森大明神あり 筑前植木 ちくぜんうゑき 附近新入炭坑あり 直方 たうがた 伊田線の分岐點、筑豊二州産炭地の追分に當る、多賀神社、南三町 ○福知山、東一里島野神社あり ○三菱新入炭坑、北十町 ○三井本洞炭坑、南二十一町 ○貝島鐵業會社、東南七町 ○堀鐵業會社、南九町 ○直方鐵工所、東南五町 ○沼田鐵工所、藤前 ○福島鐵工所、東南八町

伊田線 直方—伊田

中泉 なかいづみ 附近明治、本洞炭坑あり ○明治鐵業會社、南西三十町 金田 かなた 附近赤池、金田、方城炭坑あり 編 ぼしひ 伊田 いた 豊州線田川支線接続點 附近豊國炭坑あり

東北線

東北線とは

- 一 東北本線 上野、青森間、四五六哩九分、及貨物支線
- 一 山手線 赤羽、品川間、一三哩、池袋、田端間、三哩三分、及大崎、大井間
- 一 常磐線 日暮里、岩沼間、二二三哩二分、田端、三河島間、一哩、及貨物支線
- 一 高崎線 大宮、高崎間、四六哩四分
- 一 兩毛線 小山、高崎間、五七哩一分
- 一 足尾線 桐生、間諺間、二七哩四分、及貨物支線
- 一 水戸線 小山、友部間、三一哩三分
- 一 真岡輕便線 下館、七井間、一七哩七分

- 一 日光線 宇都宮、日光間、二五哩一分
- 一 平郡西線 郡山、小野新町間、二八哩三分
- 一 鹽竈線 岩切、鹽竈間、四哩三分
- 一 八ノ戸線 尻内、湊間、五哩一分

の線稱で、其本線は帝國鐵道幹線の一部を爲し、東京市内上野驛を起點として宇都宮、福島、仙臺、盛岡等を経て、北海の渡津、青森に至つて止まるのである。その間青森灣頭に於て海光に接するの外は、東北の平野を走るのみで、風光の變化に乏しいやうであるけれども、峰巒の起伏、平野曠の茫また見るべきものがないではない。特に白河以北は古の陸奥の地、曠野百里に渉つて天遠く山長く、山河草木皆島國の形態を脱して、大陸的風物の面影がある、一帶



燧なくや那須の
 山家もなし
 子規
 鹽原等川の清流



那須温泉
 石の香や夏草
 あかく露あつし
 芭蕉



ク立や殺生石の
 あたりより
 子規
 猪苗代疎水



三春の馬市
 露夜毎
 殺生石を洗ひけり
 子規

鎌先温泉



仙臺芭蕉の辻

鹽釜明神法樂
忝けないつくはあれと沖繪
涼しさや島から島へ橋つたひ
官境野の萩更科の蕎麥にいづれ
子 規 壺
蕪 河

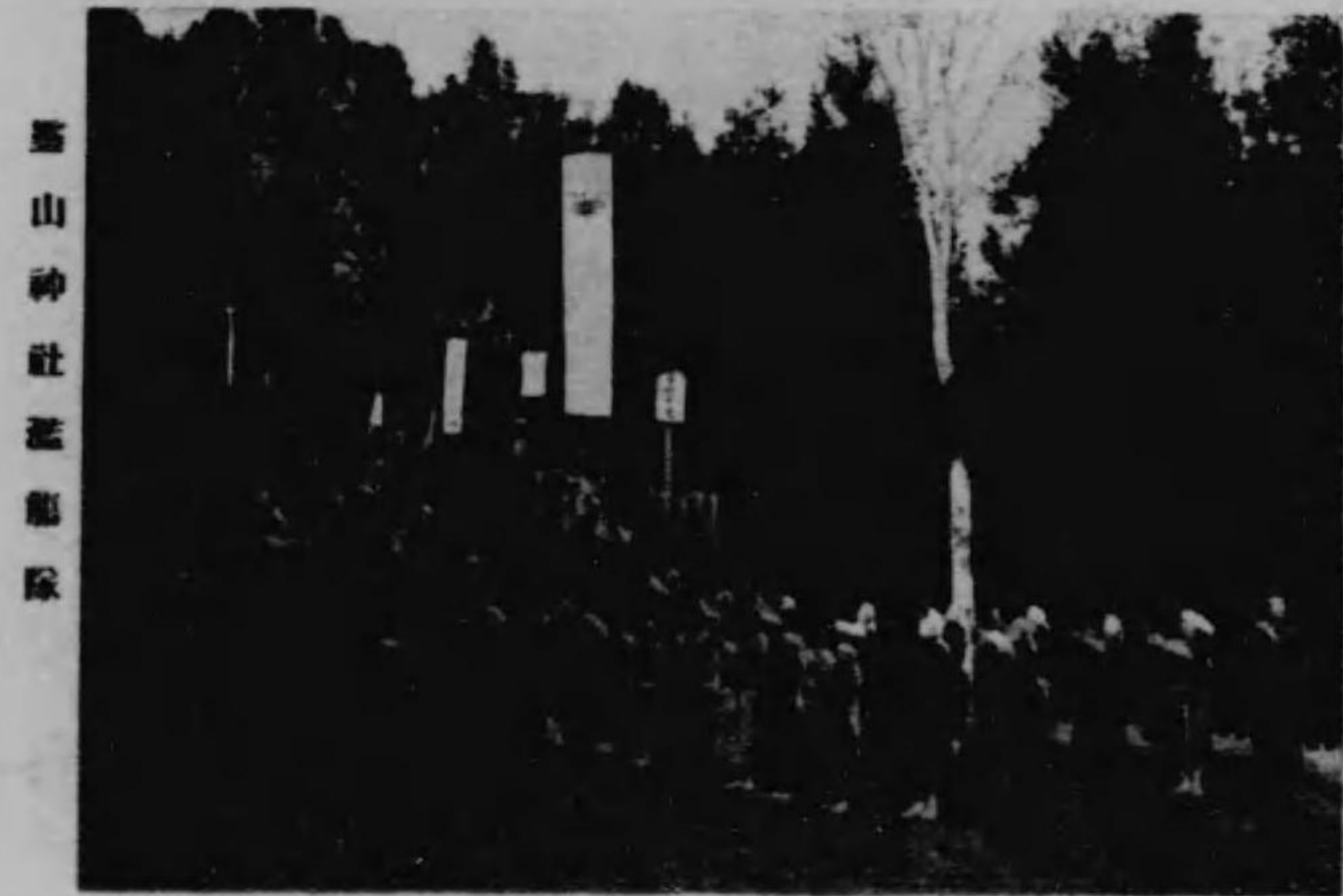
鹽釜より千賀の浦を望む



川俣絹布整練作業



飯坂温泉



鹽山神社遊龍隊



夏草やつはもの
どもが夢のあと
芭蕉
酢川温泉の湯池



中尊寺より北上川を望む



中尊寺金色堂内

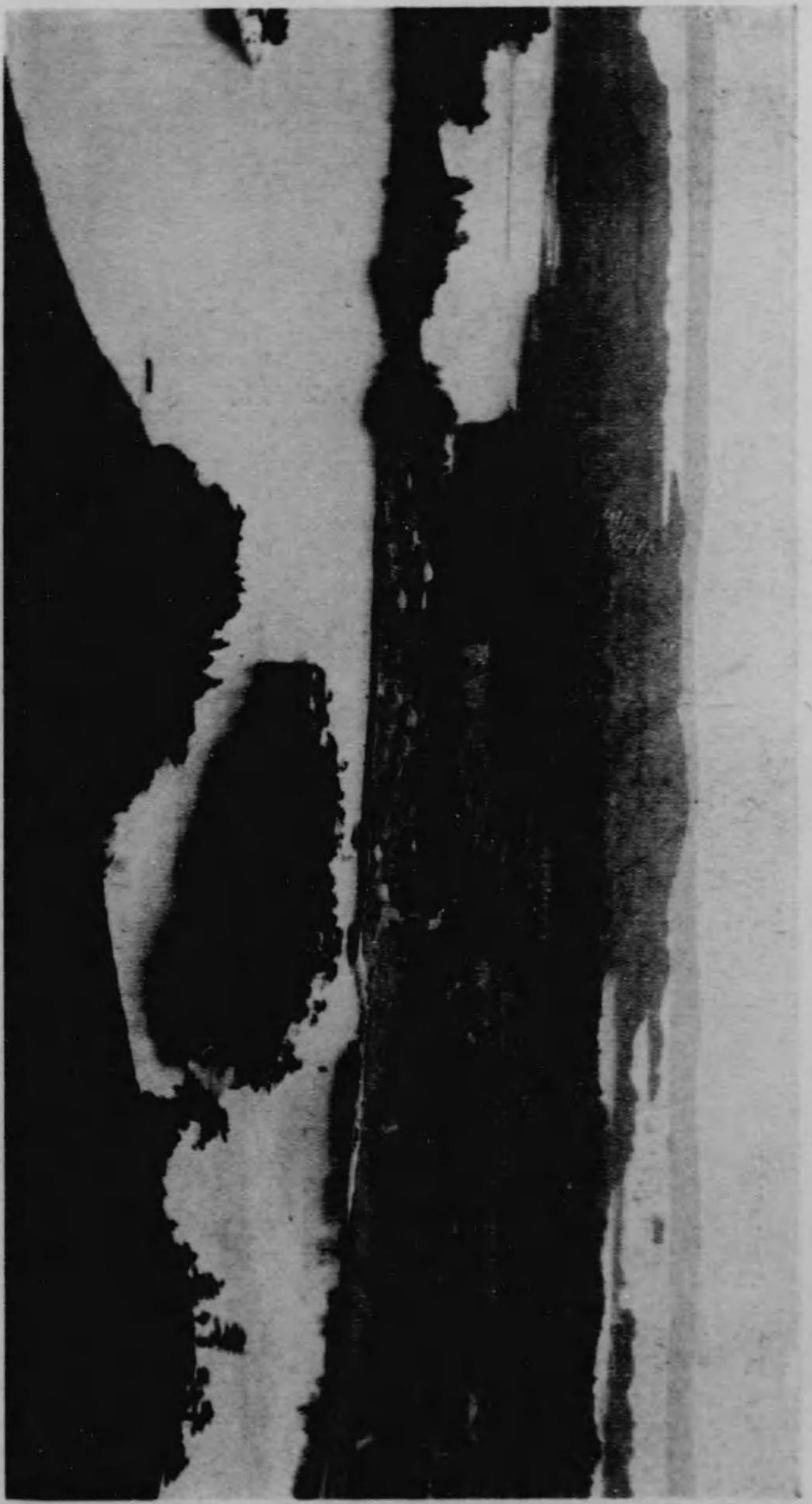
釜石中田製鐵所

五月雨や
系のみだ
れの衣川
藝太
水邊時緯度觀淵所



高館毛越寺懷古
礎をかぞへ
あまして秋の暮
藝太

大正四年五月





八の戸 鮫港



野邊地附近
雪除驛道及防雪林

陸奥へ涼みに
行くや下駄はいて
子 現
みちくの旅籠や
さびてこたつかた
子 現



三月は日暮くの
吹雪かな 素文
浅虫海岸



青森港青函連絡船出航



盛岡石割櫻
陸奥の馬の
多さよ萩のはな
子 現



富代や南部
津輕に駒むかひ
任 口
小岩井農場の一部



岩手山邊界
旅十日果てなき
奥の田植かな
茶 籠



萩枯れて奥の
細道どこへやら
惟 然
末の松山浪打峰



常磐公園好文亭

秋はれて青く
小さき玩波かな
子規



大洗海岸



日立鑛山製煉所



湯本温泉



原釜海水浴場

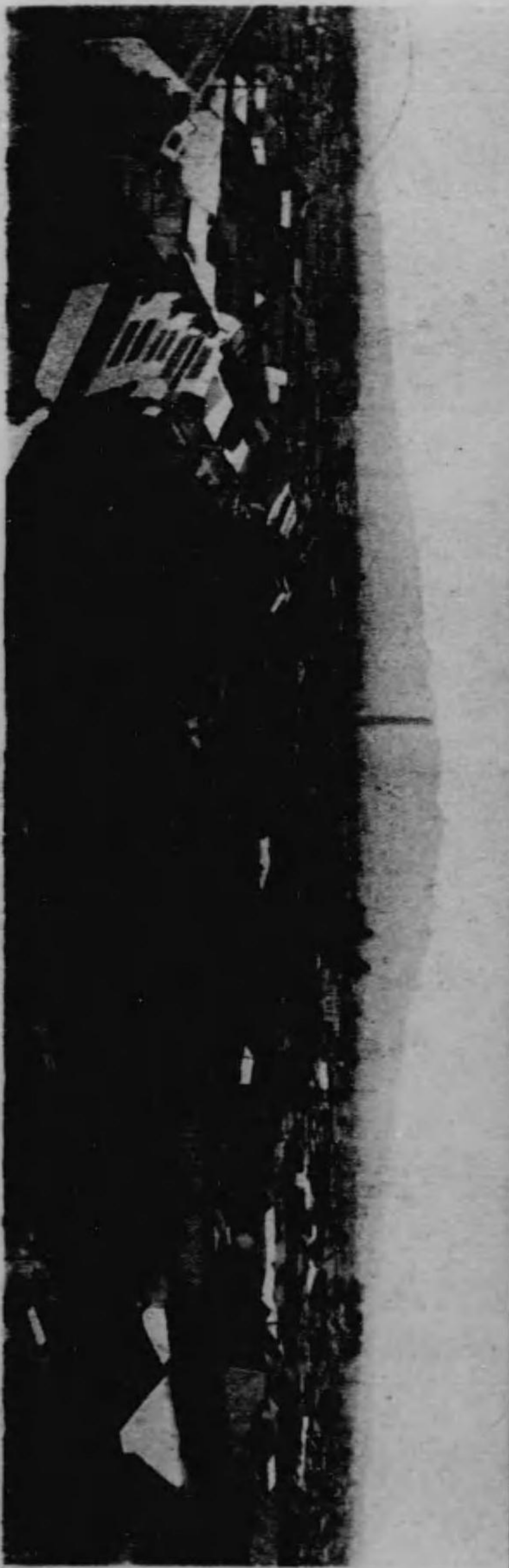
青根水清晴菫



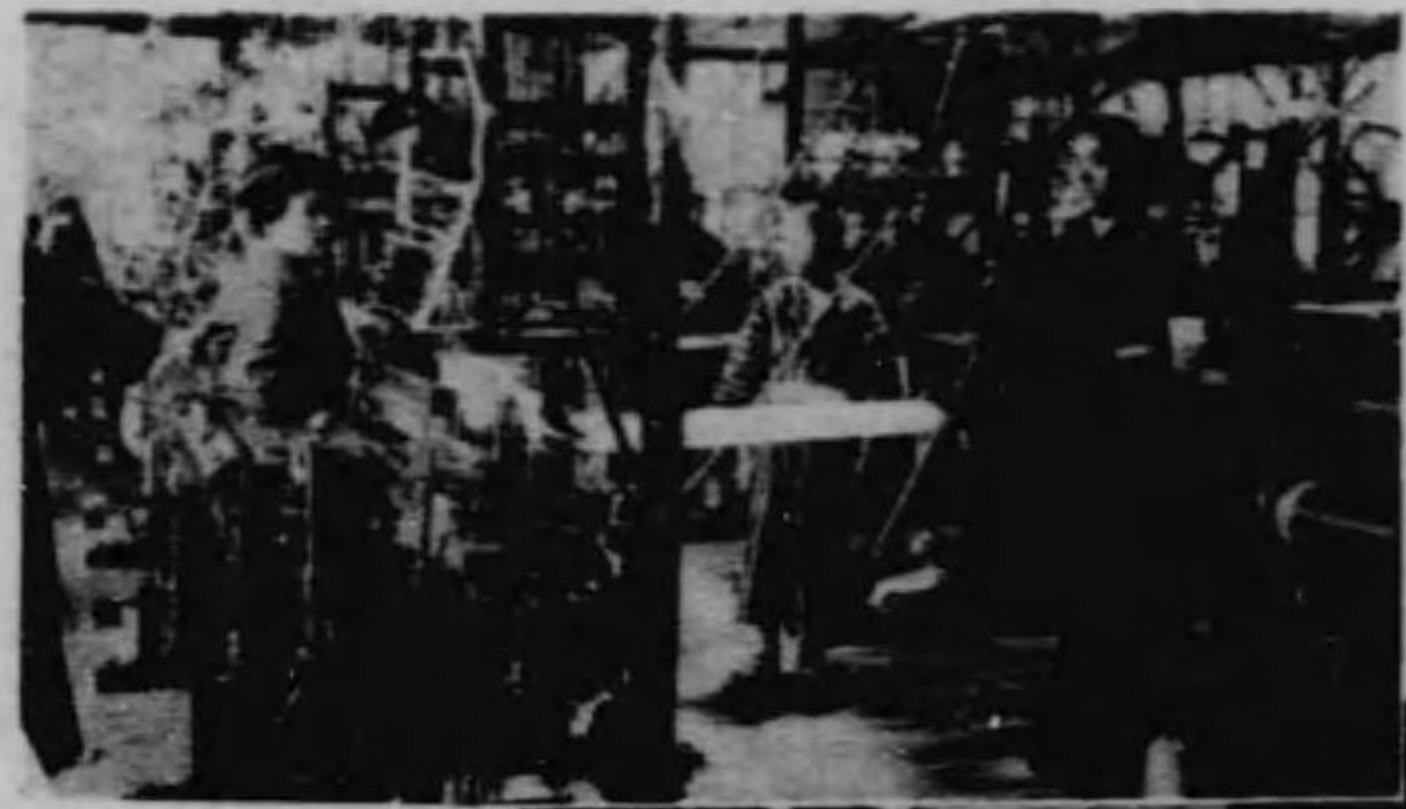
(即赤文映) 靜 長



六百の足吉



む野を山城赤うま備前



伊勢下城力織工場



足利木村縮物工場



足利學校遺跡



荷稻下桃湖の間立



庫藏及野山木山測尾足



藤名まで忘れ
には来ぬ扇かな
宇橋

山廻や藤名
上れば草の花
子規

泉温万四

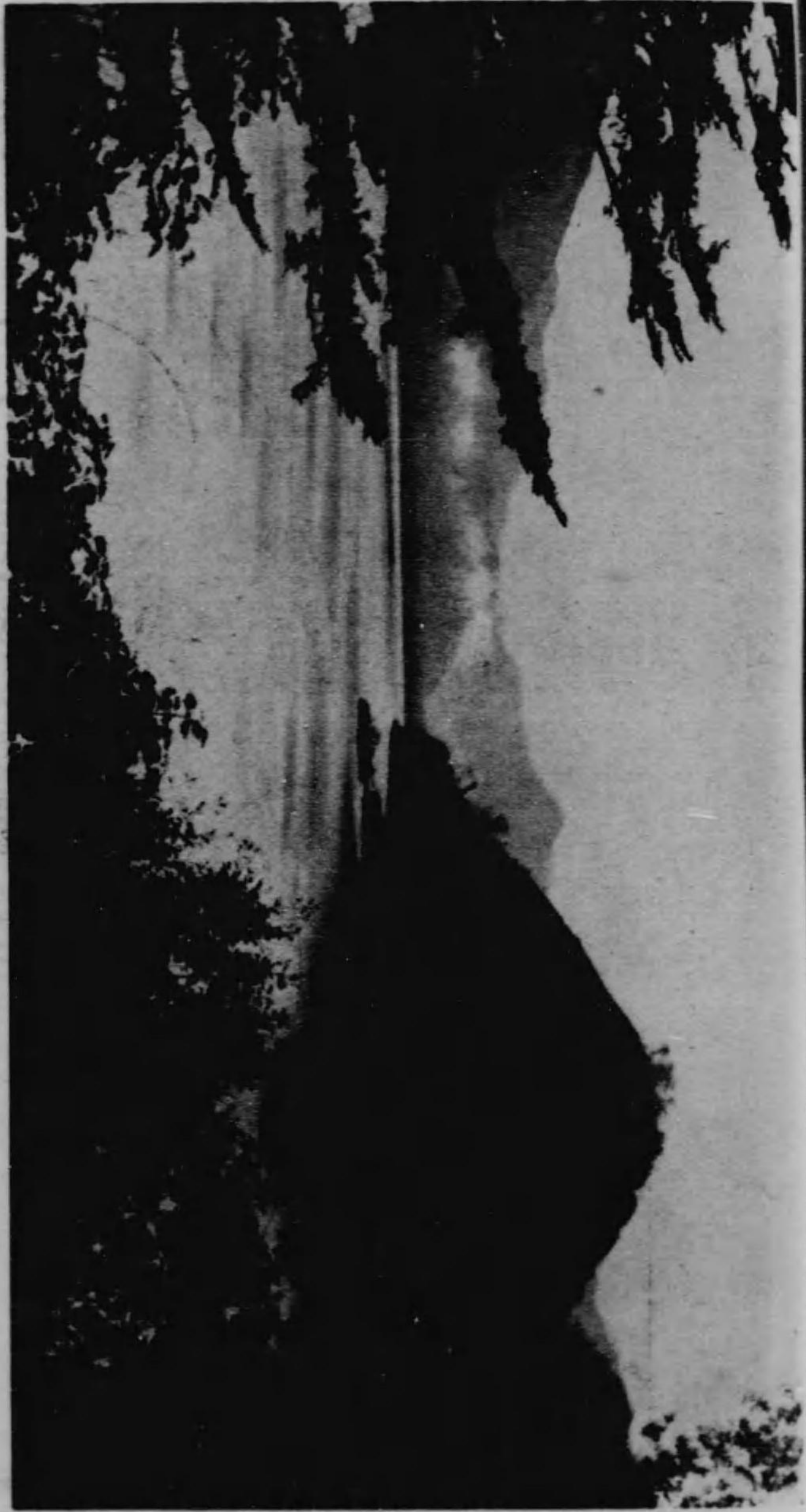


泉温保香伊

よろづ代に
あかぎの山の
白椿
さかゆく君が
卵杖にぞきる
夫木抄

場牧及沼大の城赤





中 藏 寺 菫 浦 々 流



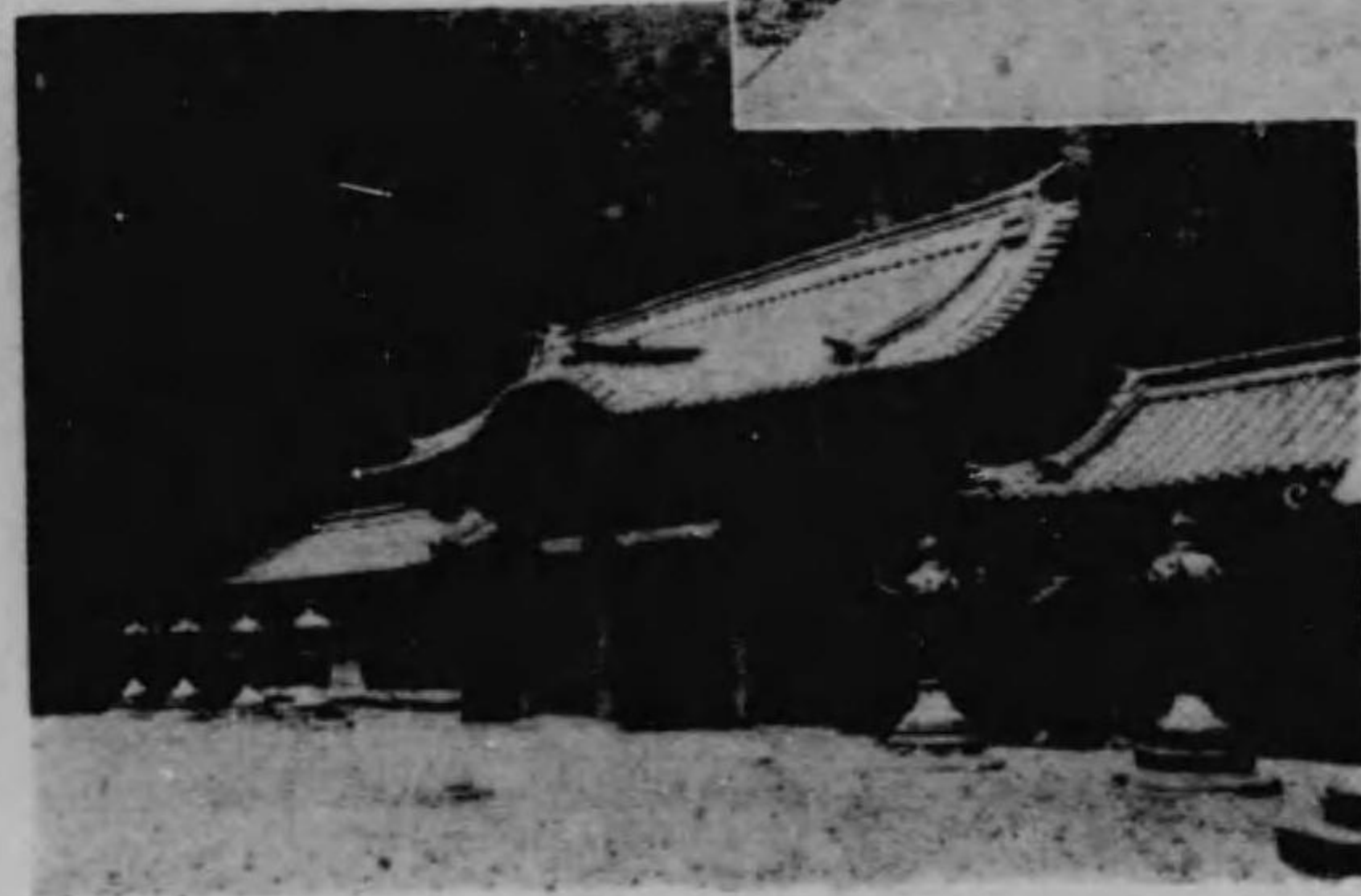
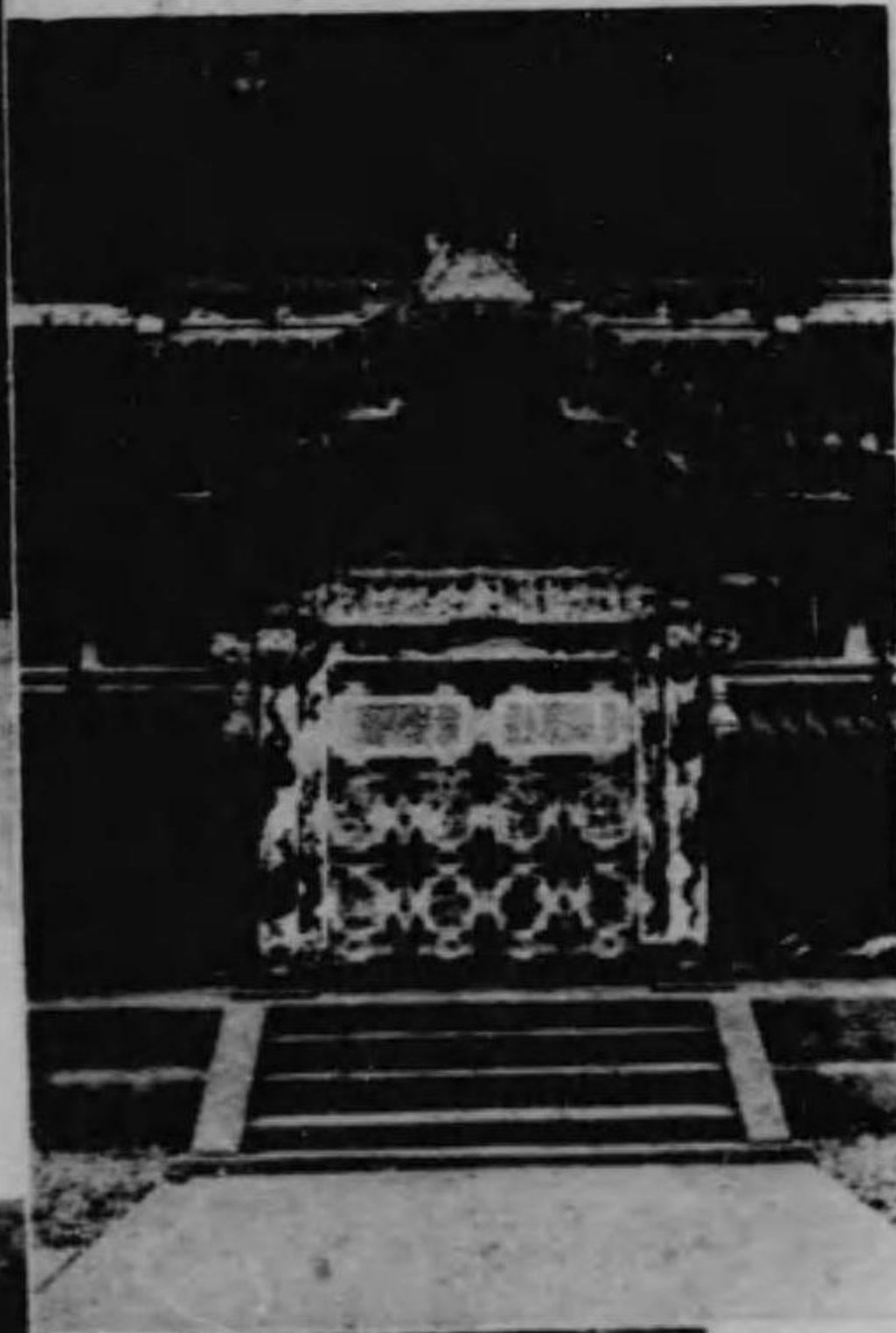
あらたふと青葉
若葉の日の光
芭蕉

川 治 温 泉

東 照 宮 唐 門



大 谷 川 含 滿 ヶ 淵



大 藏 南 夜 双 門

線 本 北 東

の地は蝦夷人種の跋扈した古より殆ど別世界の觀を爲し、安倍氏、清原氏より藤原氏に至つて愈盛に、平泉の古址今尙當時を想見するに足るものあり、近く徳川氏の時に至つても、時に泰西に使用して私に交を修むる等、殆ど小國王を爲せるが如く、満目の風物自ら趣を異にして居る。列車の運行は上野青森間相互二回の直通列車の外、常磐線廻り一回、奥羽線廻り二回の直通列車あり、本線は約十七時間半、常磐線廻り約十七時間半、奥羽線廻り約二十二時間を要す、別に信越線北陸線を経て神戸に至るもの一回、信越線新潟に至るもの一回、岩越線を経て新潟に至るもの一回あり、上野、神戸間約二十八時間、上野、新潟間、高崎線經由約十四時間、岩越線經由約十三時間半を要す

本線は支線が多い、山手線は田端及赤羽にて分岐し、東海道本線及中央線との連絡を保ち、常磐線は日暮里より岐れて太平洋岸を経て岩沼に至つて更に本線に合して居る、大宮より岐る高崎線は高崎に至つて信越線、兩毛線に接

中禰寺馬返し
卯の花や日光
までは垣根き
百里



日光湯元温泉及湯の湖



日光裏見の巖
時鳥うらみの瓶のうら表
芭蕉

(總羽陵) 泉 温 上 吹

し、小山より左に岐れて高崎に至る兩毛線は、桐生より足尾線を岐ち、右に岐る、水戸線は下館にて真岡輕便線を岐ち、友部に至りて常磐線に接続する、宇都宮よりは日光線の岐る、あり、郡山よりは平野線の岐る、あり、鹽竈線は岩切より、八ノ戸線は尻内より分岐して居る。其他郡山よりは岩越線、福島よりは奥羽線の岐るあり、一は新潟を指し、一は兩羽地方を経て青森に至つて居る。記事中途電線は東北本線に、真岡輕便線は水戸線に併記した

東北本線 上野—青森

附 鹽 竈 線

日暮里につぼり 常磐線の分岐點 田端 光ばた 山手 電車線の分岐點
 道の開山、南一町、駒込、龍虫の石所 王子 わろじ 瀧野川の流に
 沿ひ、飛鳥山の眺望を控へ、権現あり、稻荷あり、香は濃、夏は涼、秋は
 紅葉、多は雪見、市北郊の勝地である。荒川堤の邊、東北二十九町、砲
 兵工廠支隊、西南十町、西ヶ原温泉講習所、農事試験所、南十五町、鹽

東 北 本 線

造試験場、西南二町 ○ 関東肥料会社、東北二十二町 ○ 東京製紙会社、東北五町 ○ 王子製紙会社、驛前 ● 肥料、毛織、洋紙、藥品 赤羽あかばね
 山手線の分岐點 ○ 荒川堤の櫻、東南半里、人力車賃二十錢 ○ 浮間の櫻草、西北半里 ○ 陸軍被服支廠、驛附近 ○ 陸軍兵器支廠、西二十四町 ○ 日本製紙会社、驛附近 ○ 小口組製糸場、西南五町 川口町 かはぐちまち 町
 に織造工場多く、各種織器の産出多し 藤 わらび ○ 八幡山公園、東北十五町、匝の一嶋長徳寺あり ○ 妙顯寺、西二十五町 ● 綿布、苗木 浦和らわ ○ 調神社、東南六町 ○ 安行村、東北三里、苗木の産地
 ○ 埼玉縣廳、南六町 ○ 農事試験場、北三町 ○ 農工銀行、南四町 ● 甘藷、苗木、綿布 與野よの ○ 與野公園、西十町、櫻の名所 ○ 見沼川、東八町、櫻の名所 ● 甘藷 大官 おほみや 高崎線の分岐點 ○ 大官公園、東十一町、馬車賃五錢、官幣大社、氷川神社境内である、松杉蒼鬱、天空を蔽ひ、櫻柳相交りて池沼を繞つて居る ○ 種牛牧場、東南十三町 ○ 片倉製糸工場東南三町 ○ 大官製糸工場 西北五町 ○ 山九製糸工場、東南五町
 ○ 川越町、西三里半、電車賃十八錢、● 甘藷、繭物、種油、野菜 白岡 しらをか ○ 八幡宮、西四町 久喜くき 東武線の交叉點 ○ 甘藷院、西八町 ● 白木綿 栗 盛くりはし 驛前停留所の墓あり、北三十町の光了寺には其遺物を存すと云ふ ○ 東洋紡績工場、東七町 ● 綿糸 古河

原 地 原 産



こが 土井氏の舊城邑、室町時代足利成氏に在り開東に號令し、古河公方と唱へた ○ 古河桃林、南半里、人力車賃十四錢、土井利勝の栽培したもの、香堂一里に瓦り美觀云ふばかりなし ○ 熊澤善山の墓、南三十町、鮎延寺内に在り ● 野菜、御家寶 小山 をやま 扇毛織、水戸線の分岐點、關ヶ原の役、家康、上杉景勝を征せむとして東下し、石田三成の事を擧げたるを聞いて、旗を旋したるの地である ○ 小山城址、北六町、愚川の西岸に在り ○ 愚川、北七町、鮎漁に通ずる ○ 須賀神社、西八町 ○ 小山製糸場、北五町 ○ 下野酒造會社、西南九町 ● 干鰯、梨、酒、生糸 小金井 こがねみ
 ○ 榮師寺、東北一里、古海内屈指の靈場であつたが、後世廢絶して今僅に靈輿あるのみ、遺蹟の故に販せられたことは史に明かなる所、墓は竹林の中にあり ○ 國分寺址、西一里 ○ 所木驛馬所、北三十二町 ● 米、麥 石 橋 いしばし ○ 閉雲寺、驛前、將軍家光宇都宮鈞天井の危難を運れた時、一時本陣とした所 ● 米、干鰯 宇都宮 うつのみや 戸田氏の舊城市、古來奥羽に通ずる要路であつた、日光線の分岐點である、今人口五萬三千人を有し、石材、麥、製麵、干鰯、木片紙を産し、木綿、繭、生糸の取引が盛である ○ 二荒山神社、西十町、今公園となり、櫻樹が多い、境内に菡生君平の墓がある ○ 宇都宮城址、西十五町、鈞天井の陰謀に因つて名高い、今公園として公認と云ふ ○ 大谷製粉、西北二十町、人車賃賃金十二

東 北 本 線

里十町 ○ 栃木縣廳、西十七町 ○ 市役所、西南十五町 ○ 下野製糸會社工場、西南十町 ○ 日清製粉會社工場、北西四町 **岡本** をかもと ○ 羽黒山神社、西北三里 ○ 下野綿布會社、西方一里 ○ 栃木縣模範耕地、北二十四町 ● 白木綿 **寶積寺** はうしやくじ ○ 鬼怒川、西六町、鮎漁に通ず
 ○ 宇津救命丸製造場、東南一里 ○ 崇眞寺、東南三里 ● 米、鮎、救命丸、**片岡** かたをか ○ 勝壽神社、西一里 ○ 十二社権現、南西二里 ● 米、木材 **矢板** やいた ○ 寺山觀世音、西二里、人力車賃四十錢 ○ 赤福温泉、西三里 ○ 日光禪山、西南四里 ● 新炭、木材、銅鑛 **西那須野** にしすなの ○ 烏ヶ森、西北十町、櫻の名所 ○ 雲照律寺、西北一里 ○ 鹽原温泉、西北四里乃至八里、常川の清流に沿うて十餘の温泉場あり、温泉の豊富と溪流の奇に加ふるに瀑布の壯あり、巖石の怪あり、春は八汐の花紅葉と燃え、秋は紅葉の美錦繡を織る、四時人を遊ましむるの山水地である、驛前より開谷まで三里、輕便鐵道の便あり、賃金特等四十五錢、並等二十九錢、開谷より鹽原の門戸大網温泉へ人力車賃三十三錢、馬車賃二十二錢、彌波戸へ人力車四十八錢、馬車三十二錢、鹽釜、畑下戸、門前、古町へ人力車五十七錢、馬車三十六錢、鹽の湯へ人力車五十九錢、馬車四十三錢である、其他畑下戸の西七町、須卷温泉あり、古町より常川の上流二里元湯あり、新

湯は古町より山谷を縫うて二里、人頼院經、諸温泉中最尚處にあるのである。鹽原名物には翁飴、栗羊羹、高尾下駄、湯搦染、挽物細工、五名石等あり、**那須國造碑**、東四里、馬車賃三十七錢、本邦現存有文碑第一の舊物、碑に近く車塚あり **黒瀧** くりいそ ○ 那須温泉、所謂那須七湯の總稱、湯本は西北四里、自動車一圓、馬車六十錢、板室は西五里、馬車八十五錢、湯本より高尾股へ十六町、辨天へ三十町、大丸へ一里、北湯へ一里六町、三斗小屋へ三里である、湯本は那須野の一角に在りて東北に那須嶽を仰ぎ、西南遠く開けて眺察開豁である、附近に古の殺生石あり、玉藏前の物語と、源翁和尚の得度とを以て普く世に知られて居る、石は今地中に埋没し、高橋を請して人の近づくことを禁じてあるけれども、附近一種の臭氣溢りて呼吸を難くが如きを覺ゆる、石址に近く温泉神社がある、温泉名物、湯の花、湯搦、木地物、竹細工、アケビ細工 ● 木材、新炭、硫黃、鮎 **黒田原** くらだはら ○ 旭温泉、西北四里 ● 木炭、石材 **白河** しらかは 奥羽の咽喉を扼し、阿武隈河に臨む、馬市場として古來名高く、寛政の頃松平總督の藩主となられた地である、白河城址は町の北端に在り戊辰の役、純義隊の會津兵と共に堅守して、官軍に抗した所、汽車は其外圍に沿うて走つて居る ○ 白河開址、南二里半、人力車賃五十錢、奥羽三圓の一である、能因に「都をば霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河の關」の歌あり、往古鹽原は實に蘆邊

一位、東京以北に於て第一の都會である、市中央の十字街道を芭蕉の辻と云ひ、繁華な通りである、物産には仙臺平、八つ橋織、埋木細工、漆器、仙臺味噌、陶器等あり

○松島、公園、東十二町、人力車賃十二錢、廣瀬川畔の高丘、對岸は即ち青葉城址、今第二師團司令部あり ○福屋殿、西南二十五町、人力車賃二十錢、伊達家三代の廟宇のある所、殿内衣冠燦然たる政宗の像あり ○青葉神社、北一里、人力車賃十七錢、政宗を祀る、附近の光明寺内、羅馬に使した支倉六右衛門の墓あり、林子平の墓も亦近き龍雲院に在る ○櫛ヶ岡公園、東十二町、人力車賃十二錢、櫻樹多し、岡の北には彌迦堂あり、岡の下は古の宮城野で今練兵場である ○政岡の墓、東十五町、人力車賃十二錢、孝勝寺内に在り ○宮城縣廳、西北十三町 ○控訴院、西十四町 ○市役所、西北十三町 ○東北帝國大學理科大學、工科専門部、醫學専門部 ○第二高等學校、西十四町 ○農工銀行、西十一町 ○山三カーバイド會社、西一里 ○宮城殖林會社、北十町 ○東華スレート會社、西十四町 ○東北染織會社、西半里 ○仙臺製紙會社、東十町 ○奥田鐵工所、南十一町 ○小松機業場、西十三町 ○仙臺製糸場、東十町 ○仙臺座、西五町 ○森德座西十町 ○岩切いはきり、鹽釜線の分岐點 ○蒙古の碑、南二十八町 ○多賀城跡、東三十町、多賀城址に在り、人力車賃三十錢 ○鹽釜しほがま



松島地圖

松島まつしま

松島

「天下有山水、各擅一方美、衆美歸松州、天下無山水。」これ曾南山の詠する所で、一詩能く勝景海内に冠絶せるを言ひあらはして居る、其五山、七浦、八崎、八百八島の晴好雨奇、雪且月夕の勝概は、よしや一斗の墨を灑ぎ盡すとも、尙よく寫し得ざるを憂ふのである。凡我邦の東海岸太平洋に面する一帯の海濱は怒濤岸を拍つて晝夜を分たす、天清く風靜な日も、波濤耳に喧しいのに、會此灣内のみ波穩に鏡の如く、八百青螺の松翠影瀧かに、白帆點々鳧鷗低く飛ぶ處、宛然一箇の好盆栽で、造化の技を弄ぶ極まれりと云ふべしである。旅行者は先づ松島に下りたらむには、鹽竈に出づべく、鹽竈よりせむには、松島に渡るがよい。近時宮城縣に於て巨資を投じて松島公園の經營に腐心し、海岸景勝の地としてパークホテルの設あり、園の面目更に一新したのである、鹽釜より代ヶ崎の海水浴場へ汽船賃十錢、桂島海水浴場へ十五錢、松島海岸へ十五

錢、和船乗合賃金も同様である、金華山は鹽釜より八裡、汽船賃七十五錢、松島驛より松島海岸まで人力車賃廿錢、富山を経て松島海岸まで六十錢、松島海岸より夏期遊覽汽船桂島を経て鹽釜へ金廿錢、和船一艘定員四人、往復扇溪へ五十錢、大鷹森へ一圓八錢、多間山へ八十錢、不老山へ一圓八錢、桂島へ六十錢。鹽釜は松島灣に臨んだ仙臺市の門港で、近年築港に着手した、鹽釜神社は驛西八町、人力車賃十錢、廟宇華麗、奥州一の宮の名に負かない、今國幣中社に列して居る。社前の古櫻樹は名高い鹽釜櫻で、境の東隅の神苑よりは千賀ノ浦の激波を見るべく、頗る形勝に富んで居る。社より二町神寶社あり、所謂神釜を祈つて居る、釜は古鹽土の翁の始て此地に下り、製鹽の法を教へた時用ひた形だと傳へ、今四口を存して居る。鹽釜より南蒲生、隔上の地を経て、阿武隈河口に至る溝渠は貞山堀で、政宗の開鑿したもの、舟楫の便、今尙餘惠に浴することが多い。堀に沿うて菖蒲田海水浴場がある、人力車賃四十錢

松島は灣の中央沿岸の小村落で、松島驛より一里を隔てゝ居る、瑞巖寺、觀瀾亭、五大堂、雄島の名蹟皆この地に在る。五大堂は水濱の一離島にあり、堂は坂上田村麿が建てたもので、五大明尊像を安んじ、其周圍には老松蟠屈して碧潭に臨んで居る、觀瀾亭は觀瀾崎にあり、政宗が太閤より桃山殿の一部を賜はたのを、移して燕遊つところとなしたもので、貝玉垣を匝らしてある、雨奇晴好眺望甚佳、パークホテル此傍に在り。雄島は亭の南數町、渡月の長橋相通じて松逕幽邃、周圍碧淵に臨んで断崖削つたやうである。村の西端、蔚然として萬松の中に、大伽藍の見ゆるは瑞巖寺、慈覺大師の創建で中興の祖は法身上人眞壁平四郎である、寺に政宗甲冑の木像あり、短面にして獨眼、半月を飾つた兜を頂き、手に軍配を携へて居る、著する所の鐵冑は、生前常用のもの、英風颯爽正に其人に接するやうな心地がする、堂内の彫刻繪畫、皆政宗當時の巨匠大家の手になり、桃山時代の精華として、斯道の人の推重する所で

ある

若しそれ松島全島の雄大な風光を、パノラマ的に眺望しやうと思へば、更に高きに登らねばならぬ、こゝに於てか松島の四大観と云ふのがある、曰く多門山の美観、曰く大高森の壯観、曰く扇谷の幽観、曰く富山の麗観、中に富山が最高い、山は松島灣の北頭に屹立し、四近に高嶺がないから眼界頗る廣く、海天一色遙に外洋に及んで居る、遠きは相馬の諸峰眉黛の如く、左眇すれば金華の山亦遙に望むべく、俯瞰すれば青螺錯落點々拾ふべく十里の碧灣亦一泉池かと思はるゝ、嶺上の大悲閣は坂上田村麿の建立、奥州三観音の一である。扇谷は松島と鹽釜との中間にあり、景は富山の宏きには及ばないけれども、雅趣は寧ろ優つて居る。多門山は代ヶ崎にあり、内外の怒浪靜波あはせ見るこゝとが出来る。大鷹森は宮戸島太平山上のこゝで、山高く水面を抜きて、四顧悉く佳、蓋四大観中の随一である。近頃松島村後の丘陵に新富山の稱を附して、五大観の名を唱ふ

ることゝなつた、觀月樓後の大觀山も亦眺望の勝を以て聞えて居る

商島嶽 かしまだい 驛附近嶋、雉の狩獵に憑す 小牛田 こまた 陸羽縣、仙北鐵道の分岐點、黄金山神社、十二里、聖武帝の時此山に金を得て獻つたこと史上に明かな事である、石巻港、仙北鐵道の終點、小牛田より十八哩、北上川の河口に在り、金華山、圓嶽及石巻より汽船便あり、圓嶽よりは汽船七十五錢、小牛田よりは船車連絡券等一回二十錢、並等八十錢、山は牡鹿半島の東側舊海に屹立する島山で、山海の眺望雄大である

新田 につた 驛の近くにある伊豆沼、長沼は好遊の水滑場である

石越 いしこし 磐岡八幡宮、西五里、源頼義父子、清原光頼兄弟と會して軍事を議した處、押久毛橋、西二里半、島瀨山、西北六里、高田山、西七里半、木、木材、亞鉛礦、硫黃、一の岡 いちのせき 古の磐井、歴史上著名の地で陸中の咽喉に當る、雄新前田村氏の城邑であつた、祝儀渡、東四里半、馬車賃四十七錢、五申の溪流、西二里、人力車賃五十錢、磐井川の流、竝に至つて忽ち一峽の變むる所となり、怒つては瀬となり、淀みて潭となる、溪皆緑、赤松二三其上を蔭うて居る、天工橋あり、眺望最佳、木曾の櫻堂の床と并稱せらるゝ、醉川温泉、西八里、木炭

平泉 ひらいづみ

平泉の古址

一ノ関を後にすれば、東稻の大嶽車窓に遙り來りて北上の大河を帯にし、江山の景勝漸く凡ならざるを覺え、「三代の榮耀一睡の中にして」と芭蕉の筆を遺し、東北第一の古墟なる平泉の近づいたことが知らるゝ

上國の戰塵飛んで到らず、東風占斷す九十年。白河の關以北縱横一百餘里、陸奥の黄金花咲く大野に盤踞して、其宮王室に超ゆと稱せられた、藤原秀衡父祖四代の治府であつた、平泉の榮華の春も夢のまた夢。今は唯一箇荒寥たる寒村となり、奥御館、伽羅御所、柳の館などいづれに尋ねべきか、七百年の廢墟寂寥として金風とこしへに榮華の跡を吹いて居る。中尊寺は驛の北西半里、馬車賃八錢、往復十五錢、途に義經の高館址あり、金鷄山の東北に連れる丘陵を占め判官堂あり、九郎の木像を安置してある。遙に北上の大河を隔て、東稻山を望むの風光、平泉中第一の勝景である、平泉の村家盡くる所より、老杉暗き丘陵を辿りて、蕭々

たる寺門を入れれば中尊寺で、五月雨の降り残してや光堂がある、堂は上下四壁内殿、皆金色燦爛として、三土螺細を點じ、阿彌陀三尊、二天、六地藏、悉く定朝の作だと傳へて居る、寺はもと慈覺大師の開基で、清衡移て平泉に住するに及び、大に淨財を喜捨して、壯麗な堂塔を建立したが、今は唯金色堂と經藏とに、昔の面影を残すばかり、光堂三尊の床下には、金箔塗の棺を藏して、三代の見果てぬ夢の名残を存し、經藏には三代の寄附になれる一切經を納めてある

丘を下りて北すれば、一條の溪流關山の麓を繞つて北上川に注いで居る、これが即ち衣川で、上流五町餘、安倍頼時父子の據つた衣川の橋址がある、源氏累代の勇を以てして、尙其討滅に前後十二年を費したかと思へば、當年の勢威の盛なりしことも想像せらるゝではないか、清衡が平泉に移つたのも畢竟此故址に據つたので、塵土空しく残りて秋草鎖すこと數十町、礎石いづくにある舊苔埋るゝこと並

東 北 本 線

に八百年
道を返して更に驛南十五町なる毛越寺の遺蹟に至れば、
蘆荻徒に大泉池畔に茂り、南大門の斷礎離々として叢裡に
埋もれて居る、馬車賃五錢、門址の東端に芭蕉白筆の「夏
草やつはものどもが夢の跡」と刻した碑がある、寺は基衛
の建立に成り、堂塔並び連つて梵唄の聲の盛なりしと絶
えて、今僅に常行法華の二堂をとゞむるに過ぎない、秀衛
父祖六十年の餘威を繼ぎてます、盛に、春は東稻山の櫻、
秋は北上川の月、舞人を集め樂士を招きて、榮華父祖の上
に出でたのであるが、豚兒泰術統を繼ぐや、鎌倉の大旗早
く白河の關に翻り、秋風に草木の露を拂はせて、伊達の大
木戸先づ破れ、多賀の國府に關守なく、津久毛橋も扼しあ
へず、平泉を過ぎて入らず、北方深く遁逃し、伽藍殿上兵
變盛に、三代の華麗一朝にし、焦土と變じたのである、落
葉疎々たるの秋、來つて此地を訪はゞ、愁人ならずともま
た斷腸の思をなすであらう

達谷窟は毛越寺より一里、驛より馬車賃往復六十錢、岩
窟の高き三丈長さ九間、田村慶將軍征夷の時、夷會惡路王
の據つた所と云ひ、夷會滅亡の報賽の爲め、將軍の建立し
た毘沙門堂がある、これより一小丘陵を越れば五串溪に
至るのである

水瀧みづさは 水瀧公園、西南八町、關の西四町、世界四觀測所の一な
る臨時緯度觀測所あり、人力車賃十四錢、**駒形神社**、西南八町、**栗山**
山、東十二里、**鐵橋**、**鐵橋**、**木炭**、**牛馬**、**金ヶ崎**、かねがさき、**鹽澤城**
址、東十五町、古の鎮守府址で、今鎮守府八幡宮がある、**鳥海橋**址、宮
の西北十町餘、**鹽澤泉**、西北七里、**軍馬補充部支部**、西北二里半
馬瀧尻、くるさはじり、驛の西方四里乃至九里の間に關取、水瀧、仙人、
大荒瀧、鶯の巢の諸嶺山あり、驛前より仙人嶺山觀望所まで五里、馬車賃道
あり、賃金三十九錢、**金塊**、**荒瀧**、**鐵橋**、**石香**、**花**、**谷**はたまき、**岩手**
輕便鐵道接續點、**鳥谷ヶ崎城**址、東十町、**志戸平温泉**、西二里半、馬
車賃三十五錢、**大瀧温泉**、西三里半、**馬車賃四十錢**、**鉛温泉**、西四
里半、**馬車賃四十五錢**、**鹽澤泉**、西北二里半、**馬車賃三十五錢**、**米穀**、
薪炭、**木炭**、**硫黃**、**磨石**、**一日**、**詰みづつ**、**志賀里別神社**、北十五町、**關**

東 北 本 線

關神社、北一里、河田次郎其主丞衛の首を討して頼朝に献じた處、**木村**
木炭、**盛岡**もりをか、北上河畔の平野に在り、遙に岩手山を望む、もと南
部と稱し、南部氏の城市であつた、今人口四萬三千人を有す、鐵道を産し、
特に南部鐵瓶名高く牛馬市亦盛である、其他南部鐵、南部鐵橋、木綿織を織
す、驛は別に市の南部に仙北町驛を設く、**盛岡城**址、東十四町、今拓いて
公園とした、櫻樹が多い、**櫻山**神社あり、**落祖**を祀る、又裁判所構内には
有名な石割、櫻がある、**關川**橋址、北二十町、**安倍貞任**の據つた所、**安**
倍氏最後の決戦場である、北上川に臨む、**小岩井**遺場、西三里半、**人力車**
賃一圓、**岩手山**の南麓に在り、**現演**宏大である、**岩手驛**、東十四町
市役所、東十五町、**農事試験場**、南一里、**物産陳列所**、東十六町
農工銀行、東半里、**種馬育成所**、**岩手種馬所**、北一里三十町、**盛岡劇場**、
東三十町、**瀧**、**たきざは**、**岩手山**、頂上まで西五里半、南部の鎮山、
形状端麗、八面玲瓏恰も扇を倒にしたやうで、奥の富士と云つて居る、**關**
張温泉、北七里、**蟹稻温泉**、西七里、**好**、**摩**、**かうま**、**巻**、**堀**、**神社**、東
北二十町、**中山**、**なかやま**、驛の在る所は海拔千四百十尺、中山峠以北は
古の奥の細路である、此の附近は東北嶺中最高山の風色に富んで居る處で、
秋風滿山樹木紅葉するの時、車窓自然の繪巻物を眺くのである、**弓嶺**の清
水、三十町、本邦屈指の大河北上川の水瀧である、**源頼朝**が弓嶺を以て岩頭

を突いて湧出せしめたと傳へて居る、**小鳥谷**、こづや、この驛より奥内に至
る間、**鐵路**馬瀧川の溪流に沿うて風光佳、**一戸**、いちのへの、**鳥**、**起**、**觀音**、
北二十七町、**末松山**、**浪打**、**打**、**能**、**東北三十町**、**關**、**岡**、**ふく**、**をか**、**御山**
觀音、西南四里、**人力車賃一圓二十錢**、**大瀧製材工場**、東南十町、**木村**、
大豆、**馬匹**、**化石細工**、**三戸**、さんへの、**有末光**、**東十町**、**長**、**隆**、**天**
皇、**陵**、**墓**、**考**、**地**、**である**、**異**、**國**、**馬**、**の**、**碑**、**西北十町**、**木村**、**木炭**、**牛馬**、**生**
果、**所**、**内**、**し**、**り**、**う**、**ち**、**八戸**、**線**、**の**、**分**、**岐**、**點**、**古**、**間**、**木**、**ふる**、**ま**、**ぎ**、**十**、**和**、**田**、**湖**、
西十四里、三本木まで四里馬車賃四十錢、三本木には軍馬補充部支部あり、
三本木より燒山まで六里、馬車賃一圓、人力車は古間木より燒山まで二圓、
途中奥入瀧溪の勝あり、**奥羽**、**紀**、**事**、**參**、**觀**、**牛馬**、**物**、**沼**、**崎**、**内**、**ま**
さき、**小川**、**原**、**沼**、**十町**、**日**、**立**、**鑛**、**山**、**製**、**材**、**場**、**一町**、**奥**、**羽**、**種**、**馬**、**牧**、**場**、**四**、**里**
三町、**牛馬**、**木村**、**乙**、**供**、**お**、**つ**、**と**、**も**、**此**、**驛**、**より**、**野**、**邊**、**地**、**に**、**至**、**る**、**間**、**は**、**八**、**甲**
風、**烈**、**し**、**く**、**冬**、**期**、**積**、**雪**、**の**、**盛**、**な**、**所**、**で**、**所**、**々**、**に**、**雪**、**除**、**の**、**木**、**造**、**障**、**道**、**が**、**あ**、**る**、**千**、**曳**、**ち**
び、**き**、**軍**、**馬**、**補**、**充**、**部**、**七**、**戸**、**支**、**部**、**南**、**一**、**里**、**半**、**野**、**邊**、**地**、**の**、**へ**、**ち**、**陸**、**奥**、**溪**、**の**、**東**、**南**、**嶺**
に在り、**橋**、**を**、**隔**、**て**、**遙**、**に**、**恐**、**山**、**の**、**噴**、**煙**、**を**、**望**、**む**、**此**、**より**、**汽**、**車**、**は**、**海**、**津**、**を**、**越**、**う**、**て**、**青**
森、**に**、**向**、**ふ**、**風**、**光**、**甚**、**佳**、**馬**、**門**、**温**、**泉**、**西**、**一**、**里**、**半**、**青**、**森**、**種**、**馬**、**所**、**西**、**八**、**町**、**大**
瀧、**北**、**二**、**三**、**里**、**汽**、**船**、**賃**、**一**、**圓**、**木炭**、**牛馬**、**帆**、**立**、**貝**、**粕**、**小**、**瀧**、**こ**、**み**
たと、**檜**、**山**、**北**、**三**、**里**、**小**、**瀧**、**半**、**島**、**の**、**絶**、**壁**、**に**、**在**、**り**、**瀧**、**山**、**峠**、**を**、**以**、**て**、**巖**、**ふ**、**磨**、**神**、**社**

山 手 線

あり ● 塔材、木炭、帆立貝 浅 蒸 あさむし 浅蒸温泉地である、三面山を覆ひて、北海に臨み、隅島、磯島、湯島等近く散在し、山光海色の美がある、湯島へ渡船賃四人まで四十五銭、六人まで五十五銭 ● 久慈良餅

青森 あをもり 青森灣頭に在り、開港場の一で、最近貿易額輸出十六萬圓、輸入七十二萬圓あり、東北本線及奥羽本線の終點、北海道交通の要路で其間鐵道院經營の連絡船あり、四時間で函館に着する、汽船賃一等三圓二等二圓三等一圓である、市は人口四萬七千人を有し、林檎、海産物、帆立貝、本通船細工を産す ○ 善知島神社、東九町 ○ 妙見堂の櫻、一里三十町 ○ 合浦公園、東一里二町、馬車賃二十銭 ○ 八甲田山、南七里、登降餅ヶ湯温泉あり、山頂の眺望雄大、太平洋、青森灣、津輕海峡、日本海皆題目の中に入る、其處より南して十和田湖に行くことが出来る ○ 青森縣廳、東南八町

○ 市役所、東南十町 ○ 農工銀行、東十五町 ○ 秋田木材會社青森製材所、西十町 ○ 青森縣木材會社青森製材所、東三十町 ○ ライジングサン製鐵所、東三十町 ○ 歌舞伎座、東二十町

山 手 線 品川—赤羽及池袋—田端

この線は東京市の西北東部を一周して、東海道本線と東

北本線とを連絡せしむる線で、また近時異常の發展をなしつゝある市近郊居住者の市内に出入する恰好の交通機關であるから、この線を通じて東京驛より品川、新宿、池袋、田端を経て上野に至る直通電車を運轉して居る、池袋、赤羽間も同じく電車を運轉して居るが、これは新宿より赤羽直通のもの數回あり、其他は池袋にて乗替を要するのである

大 崎 おほさき ○ 妙華園、南六町 ○ 品川白熱瓦會社、東南五町 ○ 東洋製菓會社、東八町 ○ 中央屠場會社、東五町 五反田 たんだ ○ 洗足池、南一里十五町、池畔野海舟の藝、南洲翁留魂碑あり ○ ラジューム温泉浴場

東三町 目 黒 めぐろ 市南郊の好散策地 ○ 目黒不動、西九町、人力車賃十五銭、堂後の丘陵に甘藷先生の墓あり ○ 祐天寺、西北十四町 ○ 日馬子母神、西北十町、淺岡の供養塔あり ○ 奥運の九品佛、西一里半 ● 菊、栗 惠美齋 えびす ○ 大日本麥酒會社工場、東南七町 ○ 日本増場會社、東四町 ● 麥酒、増場 滋 谷 しぶや ○ 水川神社、東四町 ○ 松蔭神社、西一里九町、三軒屋まで電車六錢、社の後に吉田松蔭、東原良園、額三樹三郎等の墓あり ○ 玉川遊園地、西一里半、電車十五錢 ○ 農科大學、西十五町 ○ 駒場農事試驗場、北半里 原 倉 はらじゆく ○ 代々木陸五場、南一里

常 磐 線

○ 十二社、十町 新大久保 しんおほくほ ○ 總國園、驛附近一帯 ○ 陸軍戸山學校、東十三町 高田馬場 たかだのば ○ 穴八幡宮、東八町 ○ 早稲田大學、東十町 目 白 めじろ ○ 雜司ヶ谷鬼子母神、東北七町 ○ 學習院 東三町 ● 雜司ヶ谷會堂 池 袋 いけぶくろ ○ 學者塚、東南半里 ○ 東洋クローズ會社、二十町 ● 練馬大根 大 塚 おほづか ○ 飛鳥山、北東二十二町、電車五錢 ○ 癩兵衛、東二町 ○ 養育院、東南七町 ○ 護國寺、東南十町 ○ 學者塚、東南十町 ○ 植物園、南十二町 巢 鴨 すかも ○ 刺拔地蔵、西三町 ○ 關本時計ゼンマイ製造工場、東南四町 駒 込 こまこめ ○ 飛鳥山、半里 ○ 農事試驗場、農業講習所、九町 ○ 吉祥寺、十町 板 橋 いたばし ○ 鎌切園、西二十五町 陸軍火藥製造所、西北十五町 ○ 陸軍砲兵工科學校、西北十五町 ○ 金剛寺、北東二十三町 ● 苗木、千大根、蓮 庭 十 條 じふでう ○ 飛鳥山、東南十三町

常 磐 線 日暮里—岩沼

この線は東京市外日暮里にて東北本線と岐れ、常磐の平野を貫いて水戸に至り、それより太平洋岸に沿ひ、岩沼に

至りて東北本線に合する大支線で、汽車は上野より、この線を通じて仙臺へ二回青森へ一回の直通列車あり、其青森直通列車に頼れば、仙臺までは約八時間、青森までは約十七時間半にて達するのである

日暮里より東北本線に岐れると、やがて南千住に至る、こゝは陸羽街道の首程で荒川を隔て千住と相對して居る、千住は俗に北千住と云ひ、陸羽街道と濱街道との分岐點でこれより汽車は殆ど濱街道に沿うて走るのである、金町より小利根川を渡りて松戸に至れば下總國で、小金ヶ原を過ぐれば更に大利根川の大鐵橋を渡りて取手に至る、佐貫ははや常陸國、これより汽車は牛久沼を左に見て女化原の荒涼たる高原の間を走る、高原を過ぐれば低地顯はれ、前に筑波の双峰を望み、眼下に浩蕩たる霞ヶ浦を見る、土浦は即ち霞ヶ浦の西岸に於ける繁華の地で、驛は直に湖光に接して風趣瀟々すべきものがある

水戸より以北は鐵路概ね濱街道に沿ひ、久慈川を渡りて

常磐線

土壌の大本はこれにあるのである、園内梅樹数千株あり清香のまゝである、
 ○常磐公園、西二十町、人力車賃十五錢、又第一公園と云ふ、烈公の經營に
 成り、好文亭あり、結構甚古雅、樓上を樂齋樓といひ、仙波湖を下瞰し、近
 く櫻山と相對し、遙に筑波、加波の聲響を雲際に向く、亭をめぐりて疎籬、
 萩、芙蓉あり、四季共に紅白妍を争うて居る、園の東北は即ち梅林で、この
 園の世に名高いのも亦此の梅あるが爲である、老梅數千株、幹枝參差として
 蒼苔厚く之を蔽ひ、松翠其間に點綴して雅致を添へて居る、常磐神社は園の
 東側に鎮し、義公烈公を祀る、社殿清麗崇高、祠に近く舊影、考、館書庫
 あり、大日本史の編纂もこれに頼つて成り、水戸學の基礎も之に頼つて立つ
 た、本邦教育史上看過すべからざるものゝ一である、○藤田東湖の墓、三十
 二町、人力車賃二十錢、○太田、水戸鐵道の便あり、賃金二十五錢、義公隱居
 の地として有名な西山は太田の西三十町、水戸家廟墓のある瑞龍山は北一里
 である、○勝田、かつた、○渡、五哩餘、濃鐵道の便あり、賃金十錢、水戸
 の門港、大吹崎と鹽屋崎との中間に位し、陸奥よりの運多し、○大洗海
 岸、湯より半里、海水浴地として有名である、後山磯前神社あり、○石神
 いしがみ、○村松虚空聖尊、東南三十町、人力車賃二十錢、海岸の砂山に在
 り、○大聖おほみか、○大聖神社、西六町、社は怪岩重疊の上にあり、○泉
 ケ森、北六町、○水木澤、東十二町、人力車賃十五錢、海水浴に委す、○太

常磐線

と共に、古陸奥に入るの門、地は小丘の頂古松蒼鬱として居る、園内に木
 橋を架らした碑がある、飛花鐘袖に落ちて將軍持はず、馬を立て、「吹く風
 を勿来の關」と高吟したるはこの邊であらう、○松川磯、藤東一帯の海濱、
 海水浴場あり、風光佳、○中野、二葉、三澤炭礦、西北一里十町、○植田
 うまだ、藤西二里、大谷、瀧炭礦、大瀧銅山あり、○石炭、銅礦、木材
 泉、○つみ、○小名瀧海水浴場、東三十町、○魚、海産肥料、○湯本
 ゆもと、○湯本温泉、西北三町、○小名瀧海水浴場、東南二里、馬車賃十二
 錢、○小野田炭礦、西北三十四町、○入山炭礦、北半里、○石炭、耐火煉瓦
 廠、○つら、東北第一の産炭地、いはゆる常磐線はこの附近より出づる
 のである、驛の西方、好間、岡田川、磐城、津川、入山、壬城の諸炭礦あり
 ○白水阿彌陀堂、西二十町、秀衡の姪徳尼御前の建立にして、平泉光堂の願
 造、七百年の古建築である、○高野嶺泉、西一里、○石炭、粘土、平、
 ひら、濱街道中水戸以北第一の都邑、濱街道と磐城街道との交點である、も
 と安藤氏の采地であつた、茲より東北本線の郡山に至る線は平線と云ひ、今
 工事中にて平より小川郷まで本年八月開通の豫定である、○飯野八幡宮、西
 五町、○赤井嶽藥師、西北三里、軌道賃八錢、夏秋の候山上より夏井川を瀾
 る瀧壁を見るべし、○尊稱寺、東二十五町、○品川白煉瓦會社分工場、東北
 三町、○石炭、木炭、粘土、耐火煉瓦、○四つ倉、よつくら、○木奴美ヶ浦、

田町、西二里半、馬車賃十八錢、○海草、鹽師、田作、海産肥料、下、
 しもまご、○河原子海水浴場、東十町、馬車賃六錢、○鮎川海水浴場北十五
 町、馬車賃十五錢、○甘藷、寒水石、石灰、○助川、すけがは、海水浴地と
 して名高い、驛の附近助川、會澤、官田皆遊地である、○日立鑛山、西北
 一里半、鑛山事務所、製煉所、製作所等あり、探鑛所は事務所より一里を隔
 つ、○助川セメント工場、西北三町、○銅、金銀、電気器具機械具、セメン
 ト、大理石、華賣、○小木津、をぎつ、○鼓穴の奇巖、南東十五町、川、
 かはじり、○川尻海水浴場、東南二十二町、○沃度、魚、木材、高、
 かはぎ、海水浴場、東五町、○清田炭礦、西北一里十六町、○茨城炭礦、西
 一里、○無煙炭、○磯原いそはら、○天妃山、東北五町、大北川の河口に
 あり、風光甚佳、○二つ島、東北半里、○茨城無煙炭礦、一里半、○茨城探
 炭、一里、○山口炭礦、一里五町、○無煙炭、木炭、木材、○岡本せきも
 と、○平高、東北半里、人力車賃十五錢、風景の勝を以て聞えて居る、地左
 右より御角突出して開門の状をなし、海水深く侵入して雲形を爲して居る、
 右方の御角には、崩崖海に沈んで鹽師堂あり、左方の御角には八幡神社あり
 山秀で水船、一島一御皆佳趣あり、野野瀧の山水畫を見るやうである、○五
 浦、東十七町、風光佳、鐘鼓瀧の奇勝あり、○開山鑛泉、二十町、○湯
 瀧泉一里、○魚介沃度、○勿來なごそ、○勿來岡址、西南半里、白河の關

東十町、風光佳海水浴地である、○玉水鑛泉、西北一里二十六町、○八雲
 山、西北三里、○磐城セメント會社工場、○久ノ瀧ひさのはま、
 立鹽師堂、南十五町、○海水浴場、東五町、○廣野ひろの、○檜原八幡宮
 北半里、○折木温泉、西北一里、○龍田たつた、○城戸炭礦工業所、一里
 富岡とみをか、○岩井戸鑛泉、三十五町、○碓井無煙炭工場、十三里、○雙
 葉製糸會社、九町、○大野おほの、○玉の湯鑛泉、西一里二十八町、○木炭、
 木材、長、塚ながつか、○關戸海水浴場、東一里、人力車賃三十五錢、風
 光明輝の境、關戸明神あり、○野上温泉、西二里、○木材、木炭、○櫻江
 なみえ、○相馬鑛製造所、一里十町、○鮭孵化場、半里、○小高をだか
 ○大野山、藥師如來、南十五町、○小高神社、北五町、相馬三妙見の一
 ○相馬製鐵會社、西南十町、○羽二重組合工場、三町、○羽二重、生糸、
 米穀、○磐城太田、いはきおぼた、○太田神社、西北十五町、相馬三妙見の一
 原ノ町はらのまら、○太田神社、南一里、小高、太田、中村神社を相馬三
 妙見と云ひ、七月十一日より、十三日に亘りて、野馬追祭あり、相馬氏の祖
 平將門が八州の兵を下總小金原に集めて訓練したるに瀧解し、中村町、原、
 町、小高町を通じて、南北七里に亘れる大祭典である、初日は原ノ町に集つ
 て奇業を試み、二日は野馬追にて野馬を追ひ、三日は小高野にて野馬掛を行
 ふ、其野馬に於ける野馬追の隊列を見れば、純然たる古の武裝で、眼を割せ

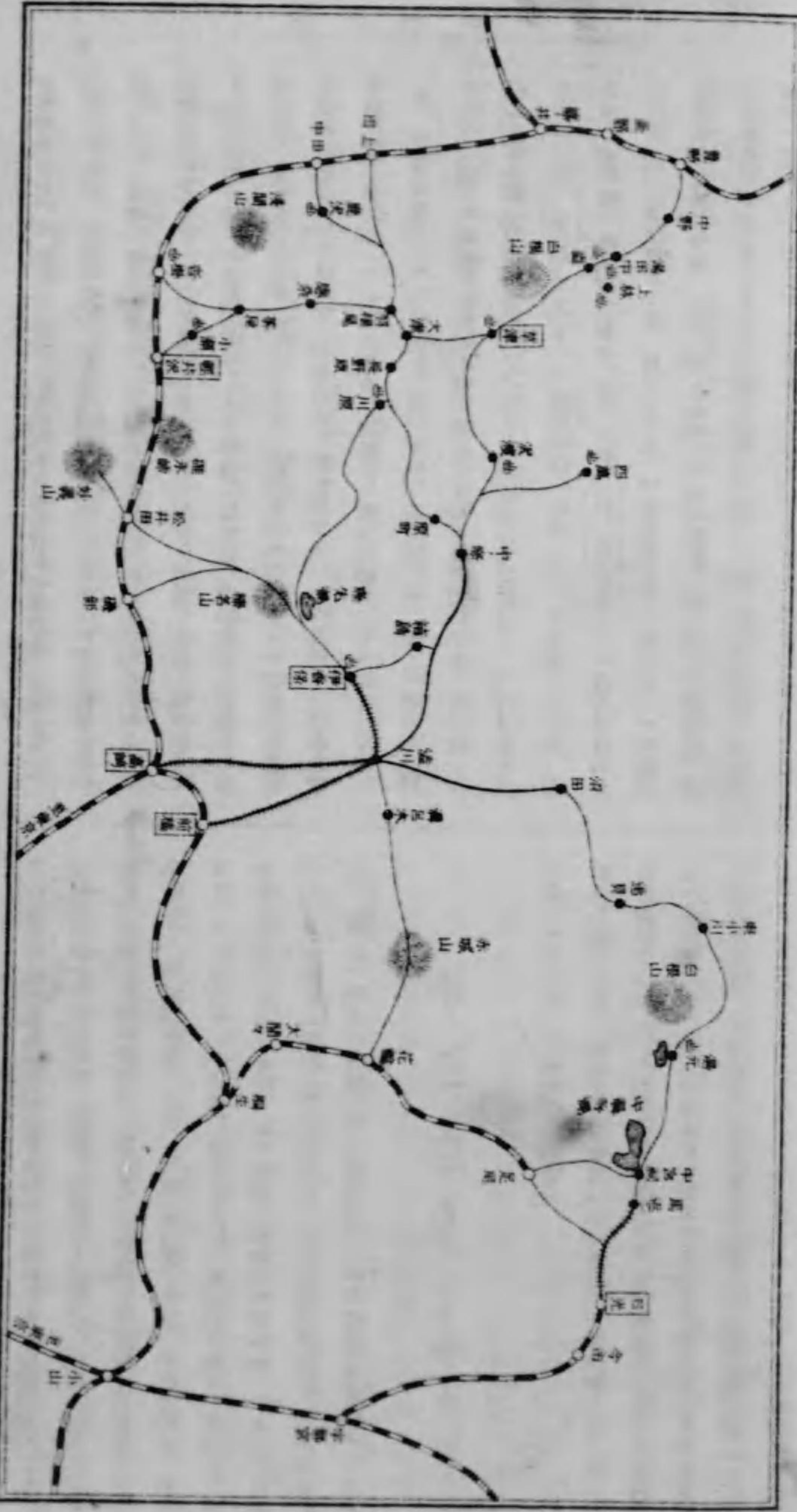
ざるものはなからう。夜の森公園、西十町。新田川鮭漁、東十町。鮭人工孵化場、東二十町。木炭、木材。鹿島かしま。鹿島神社、西六町。中村なかむら。相馬氏の舊城下、相馬焼を産す。中村城址、西十五町。中村神社、及相馬神社あり、中村神社は相馬三妙見の本社である。松川かは、東三十町、人力車賃十八錢、遊覧船四人まで一日四十錢、宇多川の河口開けて宛然一潟湖をなす所、江中岩礫星散し、小松島の風光をなして居る、全景取めて鶴の尾の夕顔観音より望見せらる。原釜海水浴場、東一里、馬車賃十八錢。新地しんち。海水浴場、東十五町。大和田水産養殖場、南一里。坂元さかもと。磯濱南二十八町、風光佳。互理わたり。鳥の海海水浴場、東三十町。荒瀬鮭漁地、東一里。互理神社、西九町。米、蕨、鮭、鮎。

高 崎 線 大宮—高崎

上尾あけを。秋葉神社、南一里二十七町。茶、甘藷。桶川をけがは。蒲櫻西一里。甘藷、綿布。鴻巣こうのす。勝願寺、東九町。箕田八幡宮、北三十町。吉見の百穴、西二里半、自動車賃三十錢。馬車賃十八錢、本町に於て有名なる橋穴、穴の總數二百を越え、丘原全面に

熊 谷 組 保 存 會

規則正しく排列して居る。米、甘藷、瓦。吹上ふきあげ。玉餅山、南一里。山山嶽、南西一里、武蔵國造の墓と云ふ。行田、北一里九町、馬車賃十二錢、足袋、綿布の工場あり。足袋、青銅、コイル天、白木綿。熊谷くまがや。蕨、綿物、米穀の取引盛に、名物五家賣あり、林組、尾瀬組、片倉組の製糸場、松木製粉工場、荒川砂利會社等あり、上武鐵道は茲より西南を指し、秩父銘仙の産地として名高い秩父大宮に達して居る。熊谷堤、南二町、櫻餅餅植、一里に長く花時甚美觀を呈す。熊谷寺、北西八町。熊谷護生坊、竝に草庵を結んで入寂したので名高い。嵐山重忠の墓、上武線武川驛より一里、満願寺内に在り。長瀬、同參道山驛より二町、百尺の懸崖轟轟聳立して荒川に臨む所、流水大岩に遮ぎられて深淵をなすこと三町餘、秩父赤壁の名其實に負かず、鮎漁の産地である。秩父神社、同秩父大宮町に在り、町は秩父銘仙の産地として名高い。武甲山、大宮より二里、秩父の嶺山で海拔四三三三尺、形状秀拔勇者の怒り立つて居るやうである、山頂の眺甚壯大、關八州の名山皆併中に入る。橋立觀世音、大宮より一里、鐘乳岩洞があるので名高い。三軒神社、大宮より六里、三峰山上に在り、其境幽邃、其社宏莊、武州第一の勝地である、詣道は荒川に沿ひ、兩岸盤崖高く對峙し、高さ四五丈より十餘丈に及べる處あり、奇景給も當はず、大宮より山麓まで六里を距してあるが、麓のある處、必ず湯池



高崎線・兩毛線

懸崖の跡がある、これ實に帝都を流す荒川の下流沿岸に住するものは一度は上流を窮めて、其風光を賞せねばならぬ。○秩父三十四番の札所、大宮町を中心として二里四方の地に散在して居る。○龍原かこはらの農事試験場、東北二十町。○深谷ふかや。○深谷城址、北五町。○忠度隈、西十三町。○上敷面煉瓦工場、東北三十町。○富岡製糸場、西九町。○開國製糸場、北一町。○煉瓦、生糸、繭、土器。○阿部をかへ。○島産養神神社、北十町。○本庄ほんじやう。○金鑛神社、西南三里。○馬車賃二十四錢、武藏二ノ宮と稱し官幣中社に列して居る。○神保原じんぼはら。○大和組製糸場、北一町。○原製糸場渡瀬工場、西南三里半。○榮葉、生糸、百合根。○新町しんまち。○八沙彌泉、南三里半。○馬車賃二十二錢。○鐘ヶ淵紡績新工場、北六町。○全製糸會社、驛附近。○桑切機械、ノイル系、眞綿、眞綿屑。○倉賀野くらがの。○慈眼寺、東北三十町。○櫻の名所。○岩屋火藥製造所、東十九町。○高崎たかさき。○烏川の左岸に在り、大河内氏の舊城下で、古來中仙道の要路に當り、今高崎線、信越線、兩毛線及上野鐵道の連絡點となつて居る、人口四萬二千人を有し、生糸、生絹、太織、繭の產出が盛である、赤城、標名、妙義の三山遙に市の東北西の三面に方りて聳え、展望雄大である。○高崎公園、西南五町。○烏川の清流に臨んで遙に淺間の噴煙を望むべし。○大信寺、十町。○境内駿河大納言出長の墓あり。○清水観音、



西二十町、人力車賃二十錢、驛敷十里に及び、淺間の驛、妙義の史跡、熊水、烏の清流、高崎市街第一陣の下にあり、市附近景勝第一の地である。○伊香保温泉、西北七里、電車賃六十四錢、○四萬温泉、西北十四里、遊山まで電車賃三十一錢、遊川より中條まで鐵道馬車五十錢、中條より四萬まで馬車賃五十六錢。○河原湯温泉、西十五里、中條より馬車賃六十錢。○草津温泉、西二十里、中條より馬車賃一圓三十錢。○市役所、西三町。○小島織工場、二十五町。○高麗産、驛前。

兩毛線 高崎—小山

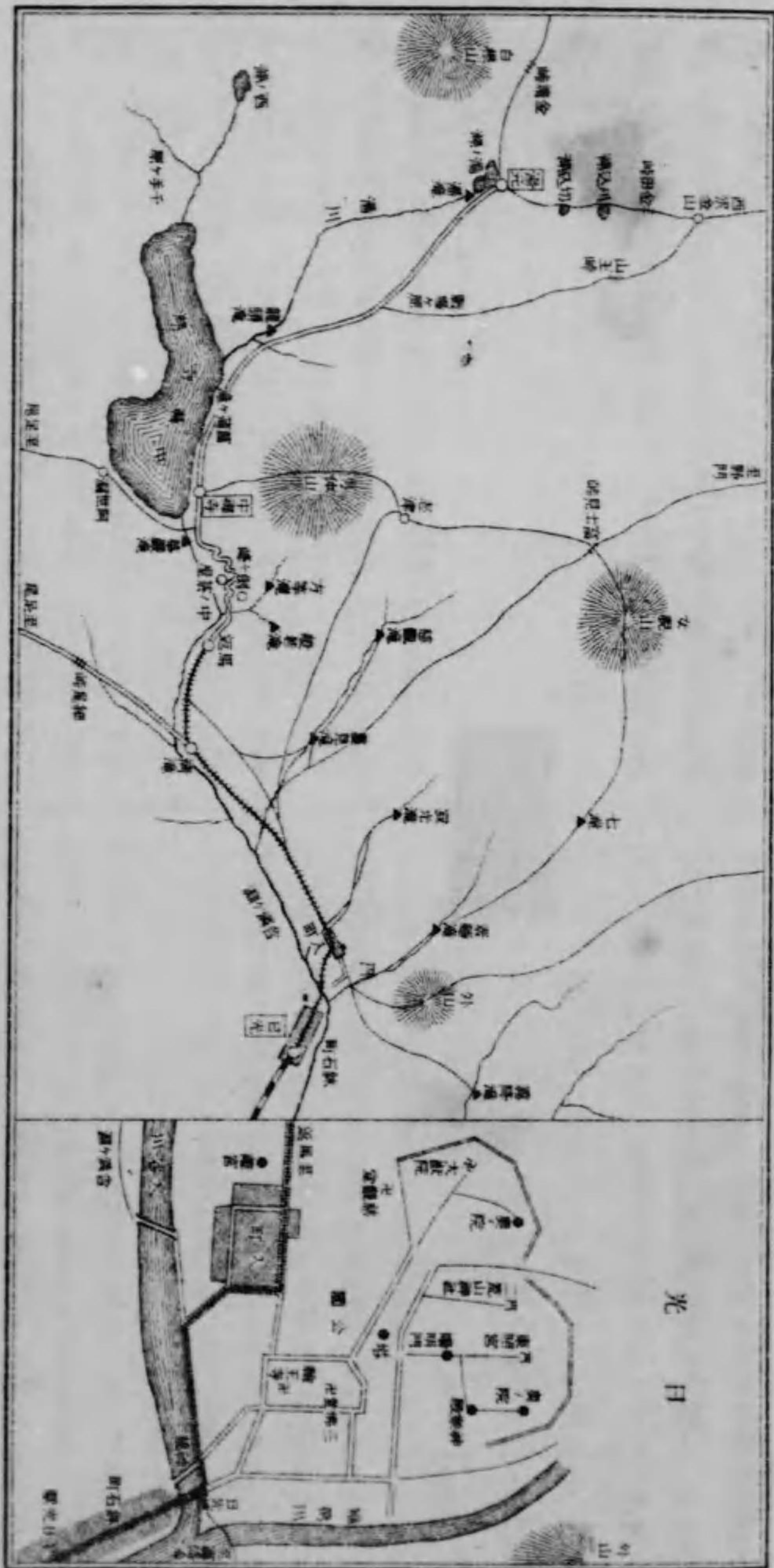
前橋まへばし 利根川の左岸に在り、南は開東平野を控へ、北は利根東は下野に通ずる要路に當つて居る、松平氏の舊城市で、上毛生糸市場の中心地をなし、生糸、眞綿、麥、薪炭、竹細工の産あり、今人口四萬九千人を有す。○前橋公園、十三町。○電車賃五錢、舊城址である、利根川、標名山の眺望あり。○天野驛園、二町。○妙安寺、十町。○木曾神社、北二里、電車賃十八錢。○伊香保温泉、電車賃三十四錢、標名山の東麓に在り、人家概ね餘座に據つて建てられ、乙樓、甲樓の上に聳え、丙樓乙樓の上に廻して居る、風景絶佳空氣清冷、好箇の避暑地である、温泉の噴口は、二嶽の下な

大島まで四里半、馬車賃三十五錢、開城址南二里、北畠親房の據つた所
 ●米 岩瀬 いはせ、○富谷親世昔、北半里、人力車賃十五錢、僧行基の
 開基、其三重塔は天平以後の古建築である、○濃部の櫻、東二十町、人力車
 賃二十錢、謠曲に名高き柳川は即此處、○雨引親世昔、西南一里半、○加
 沖山、西南一里半、○大泉石灰工場、西北一里 ●米、石材 羽黒はぐ
 る、○月山寺、北十町 ●花崗石 福原 ふくはら、○大覺寺、南一里、
 ●花崗石、庭石 稲田 いなだ、○西念寺、西北四町、稲田御坊で、親賢
 上人一宗開立の基を始めた地、門徒の最神聖視する所である ●花崗石
 笠間 かさま 牧野氏の舊城邑である、○胡桃下稻荷、北十三町、俗に故
 三郎稻荷と呼ぶ、社宇宏壯、○城山公園、東北三十町、櫻樹が多い、○共
 懸園、西北二十五町 ●陶器、胡兆羊羹

日光線 宇都宮—日光

本線は本邦有数の名勝地たる日光に至るの線で、上野日光
 間六回の直通列車あり、約四時間乃至四時間半にて達せら
 るるのである

○田つらた、○大谷親昔、西北二里、人車道十八錢、○宇都宮兵衛支



日光線 宇都宮—日光

廠、東北十六町 ●大谷石材 鹿招 かぬま、○三日月神社、西南一里

○古澤ヶ原神社、西七里、馬車賃四十八錢、○帝國製糖、鹿招製糖工場、三町
 ●漆器、麻織物、麻糸 今市 いまいち 藤北三里餘小佐越、小百、幸崎
 山、高徳金山あり、○中岩橋の勝景、北二里、○麻屋温泉、湯の温泉、北三
 里半、○川治温泉、北七里 ●木材、木炭 日光につくわう、○帝國製糖
 日光製品工場、藤附近、○日光電氣精製所、西二里、○西澤金山探銅會社
 業所、西北八里、○足尾銅山、細尾經由六里、清瀬まで電車二十一錢、夫よ
 り四里、中禰寺經由八里、○日光附近電車人力車賃、電車神橋七錢精製所前
 二十一錢、馬返三十一錢、人力車神橋十二錢、山内廻り往復四十五錢、馬返
 五十五錢、中宮祠二人乗二圓往復二圓六十錢、湯本二人乗三圓五十錢、○社
 寺拜觀料、一圓二十錢 ●精銅、銅線、金鑛石、麻、漆割、日光羊羹

日光 附近

日光の一区は本邦山水美の鍾まる所、峯巒あり、
 瀑布あり、湖水あり、溪流あり、叢原あり、温泉
 あり、之れに加ふるに殿堂樓閣の美あり、自然の秀麗、人
 工の精華、相俟つて雙美の盛名を獨占して居る、宇都宮よ
 り日光線に入り、例幣使街道の古杉蒼鬱たる間を走ること
 數里、文挾驛に至れば、一帯の山嶽既に車窓の眺に入り

今市驛に至れば、山容いよ／＼明に、男體山の偉大なる姿、高く群峰中に挺立して居るを見る、日光驛に下車して、坂道一路鉢石町を過ぐれば大谷川の急湍あり、左に神橋を望む、朱欄金珠、碧水に映じて綺麗繪を見るやうである、橋を渡りて左へ長坂を登れば、右に輪王寺あり、正面は即東照宮である、寺は即ち古の日光門跡で三佛堂あり、往時の金堂で偉大なる建築である

寺を出で、老杉の間を行けば、石の鳥居高く眼前に聳えて、其西に五重の塔がある、表門を入つて三神庫、御水屋を過ぐれば、金碧を盡したる陽明門、既に數歩の前に現はれ、人をして思はず暎若たらしむる、門は三手先遣四方唐破風造、柱は皆楓の白木の圓柱、天井には狩野探幽守信筆の昇龍降龍の畫あり、墨汁淋漓天下の逸品である

陽明門を距ること數間唐門がある、四方棟唐破風造で、正面破風上の屋棟に唐銅で製した惹と云ふ蟲の形を裝置してある、門の在右一道の瑞籬あり、長く木殿及拜殿を圍み、

鍍金を以て疊んだ五級の殿階直に拜殿に通じて居る

拜殿は其結構更に壯麗、黒耀色の高欄、及び濱椽、惣金だだみの殿内の柱、高彫金で彩色した承塵、唐草の藤繪を畫いた唐戸、折楊二重に重ねた格天井、其の内に畫いた紺青色の丸龍、承塵の上に掲げた廿六歌仙の額、探幽の筆に成つた英西の襖、拜殿と石の門に界した椎朱の卷柱等、その美を盡せる到底筆紙に盡すことは出来ない、唐門を出でて左すれば奥の院の入口に猫門あり、其上に刻める眠猫は左甚五郎の作と傳へて居る、それより長さ大凡一町半ばかりの石階を登れば東照宮の奥社がある、寶塔は其拜殿の正面にありて、家康の英魂は長へに茲に眠つて居るのである

東照宮の表門を出で、西に一町ばかり行くと、二荒山神社、社は大己貴命を祀り、一千年の古社である、社前の石階を下れば、常行堂、法華堂、相並びて立つて居る、二堂の間より更に古杉蒼鬱たる間を過ぐれば慈眼堂がある、天海僧正の墓で、近年其近くに北白川宮の廟を築造し

た

大猷院廟は三代將軍家光の遺骨を葬つた處で、東照宮と共に其殿堂の美を以て聞えて居る。常行、法華二堂を西に距ること數十間、二王門を入りて御手洗屋を過ぐれば、石階の上に二天門が聳えて居る。丹堊にして處々に黄金を鏤めてある。鼓樓、鐘樓を過ぐれば、夜叉門、丹堊黄金を以て之を飾り、左右の廻廊甚美麗である。唐門は其構造東照宮と均しく、鏤刻の精あり、采畫の妙あり、瑞龜の拜殿を圍繞せる、黒蠟色の殿階を設けたる等、皆東照宮と同じである。

拜殿は東北に面し、柱は皆白地で縁に黄金を鏤めてある、正面扉内には家光の木像を安んじ、格天井は蠟色、格子の内は百間百首、紺地は金の蟠龍を彫刻し、承塵は花鳥を刻して金の彩色を施してある、正面の破目には金地に獅子を畫き、簷頭には二十四個の鍍金の釣燈をかゝけてある。ことに金色燦爛として、殆ど人目を眩するばかりなのは、中

ある。湖畔に中宮祠がある、祠背より男龍山に登るがよい、山は日光連山の主峰で、海拔八千二百尺、眺望甚壯快である。

湖の北岸に沿うて一里すれば菖蒲ヶ濱、夫より地獄川を渡り、龍頭瀑を過ぐれば、戰場ヶ原である、原は夏期に至りて漸く春の時氣を得、百花一時に開き、爛漫として花麩を連ねるので、植物採集家の寶庫とする處である。原の盡くるところは古賀谷で湯澤は森林より數町の奥にある、瀑に沿うて急坂を上れば、幽寂なる湯ノ湖更に一景を開いて、風光の美をなして居る、湯元温泉はこの湖畔にあり、中禪寺より此に至る道程三里である、地は後に白根山、温泉ヶ嶽を貫ひ、前に湯湖の青藍を望んで居る、旅館は毎歲陰曆四月八日より九月八日まで客を引き、其餘は家を閉して去るのである、海拔四千尺、盛夏尙輕寒を覺ゆ。

平郡西線 郡山—小野新町

央にかゝげられた金製の天蓋で、其下に金梨子地の高机及び三具足の美を盡したのを据ゑてある。本殿は佛殿造二重屋根で其の周圍は朱塗の欄と黒塗の椽とで造らしてある。唐門を出て、更に右の瑞龜を遣れば、龍宮に擬した皇嘉門あり。これより奥の院に行くのである。

晁廟の拜觀がすんだならば翌一日を瀧廻りに費すがよい霧降、含滿、裏見、方等、般若、華嚴、布引、白練、相牛等、晃山七十二瀑と云つて居るが、中に最偉觀なのは華嚴である、瀑は即ち大谷川の源で、中禪寺湖水の決する所、其初めて落つるや、一曲また一曲、之字の様をなして流下すること七八町、大岩缺くる所直下四十丈、草木震動して巖石砕けむとし、餘沫霧となり、蓬勃として梢嶺に上り、去つて雲となるのである、石間に岩齧あり、水煙が破りて翹翹して居る。中禪寺湖は日光より四里、華嚴よりは十數町のみ、湖は東西二里南北三十町、水光一碧拭へる鏡の如く、倒瀾の四山、浮游の閑雲、洗洋として畫も亦及ばないので

三番みはる 秋田氏の舊城邑、良馬の産地として有名な地である。鶯鶯城址、東南二十三町。三番公園、南二十町。瀧の櫻、東南一里二十五町。芹ヶ澤馬場、東一里。三盛合名會社、東南八町。生糸、野斗系、木製子育駒、船引ふねひき。常葉町、二里、蕨及馬を産す。片曾根製糸會社、三十町。大越おほこえ。遠谷の餅、東南一里半。石炭工場、東二十町。生石灰、大理石、石綿。神保かんまた。遠谷の餅、東北一里。煙草、馬、薪炭、石材。小野新町をのにひまち。湯澤温泉、東一里半。薪炭、木材、蠟。

八 戸 線 尻内—湊

八戸はちのへ、馬淵河口の南に位し、土地豊饒にして近く鼓港あり、海陸の交通便利である。三八城神社、南二町。長者山公園、南五町。八幡八幡宮、西一里半。是川桃林、東南一里。鰐島、東三十町、鰐島の跡あり。白銀海水浴場、東一里半、自動車賃二十錢。鼓浦、東一里三十町、自動車賃二十五錢、海水浴に通ず、蕨島の跡あり、捕鯊事業場である。石灰石、木炭、海産肥料、魚類。湊。みなと。鼓港、東三十二町、自動車賃二十錢。水産試験場停習部、東五町。魚類、海産肥料、石灰石、大理石、鯨、木材、水産、軸木。

信越線

信越線とは

一信越本線 高崎、新潟間二〇三哩六分
一村上線 新潟、村上間三六哩九分

の總稱で、其本線は高崎を起點として、長野、直江津を経て新潟に達して居る、列車は東京上野驛より高崎線を通じて新潟に至るもの一回十四時間、岩越線を経て新潟に至るもの二回十三時間半にて達し、別に上野より直江津を経て北陸線金澤に至るもの一回、北陸線を経て神戸に至るもの一回、新潟より北陸線を経て山陽線姫路に至るもの一回あり、上野、金澤間約十六時間、上野、神戸間約二十八時間新潟姫路間約二十五時間を要する

高崎は先に記せる如く、正に上毛三山の觀望臺とも云ふ

べく、烏川を渡り碓氷川に沿って磯部に至れば、妙義の奇

峯殊に明に車窓の眺に入るのである、松井田附近は最妙義の嶮峻を見るに適し、金洞金舞兩山の間に聳ゆる蠟燭岩の奇狀を呈するあり、白雲山の山腹に在る妙義神社の森林、及それに連りて逶迤たる妙義町の人煙も、注意深き旅客の目には映するであらう

碓氷峠は坂東平野と信濃高原との通路に當り、古來中仙道第一の天嶮と稱せられて居る、今鐵道は山麓に横川驛を置き、中腹に熊ノ平驛を置き、峠を横斷して信州の輕井澤に至る、其間七哩、我邦鐵道線路中第一の難所で、アプト式鐵道により十五分の一の傾斜線を登り、二十六の隧道を出入し、忽ちにして明、忽ちにして暗、一時間半にして二十六

立去る事一里肩毛に

秋の晴寒し 藤村



妙義山中の嶽鏡岩



横川發電所

賑ないて妙義
赤城の日和かな
子規

梅の花確水峠を垣根かな

茶 靜



輕井澤より淺間山を望む



上田城跡

涼しさの中に
火を吹く淺間かな
子規



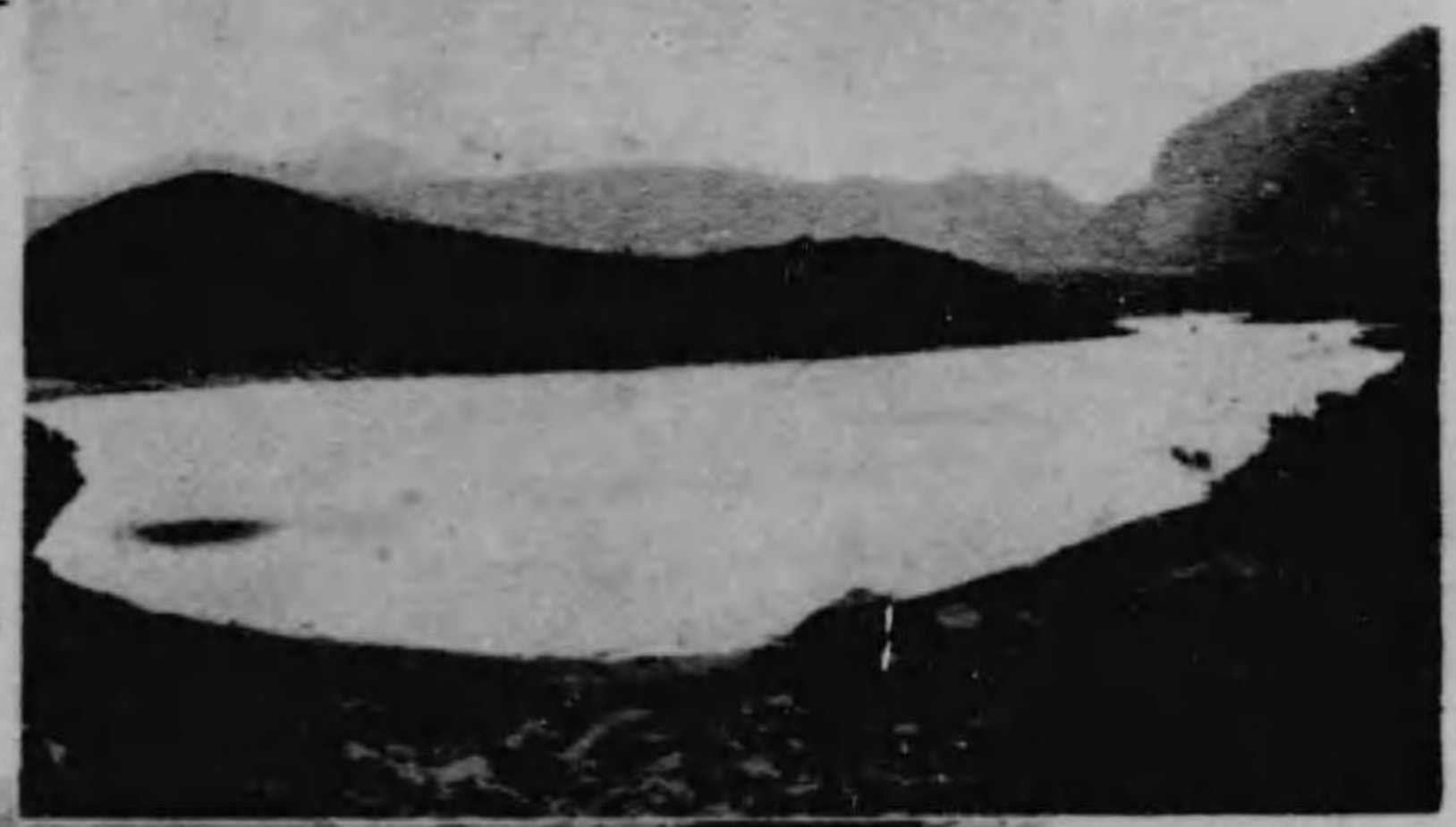
一
キ
ヌ
の
下
山
高
勢



善光寺 本堂
月影や四門四宗
もたゝひとつ
芭蕉



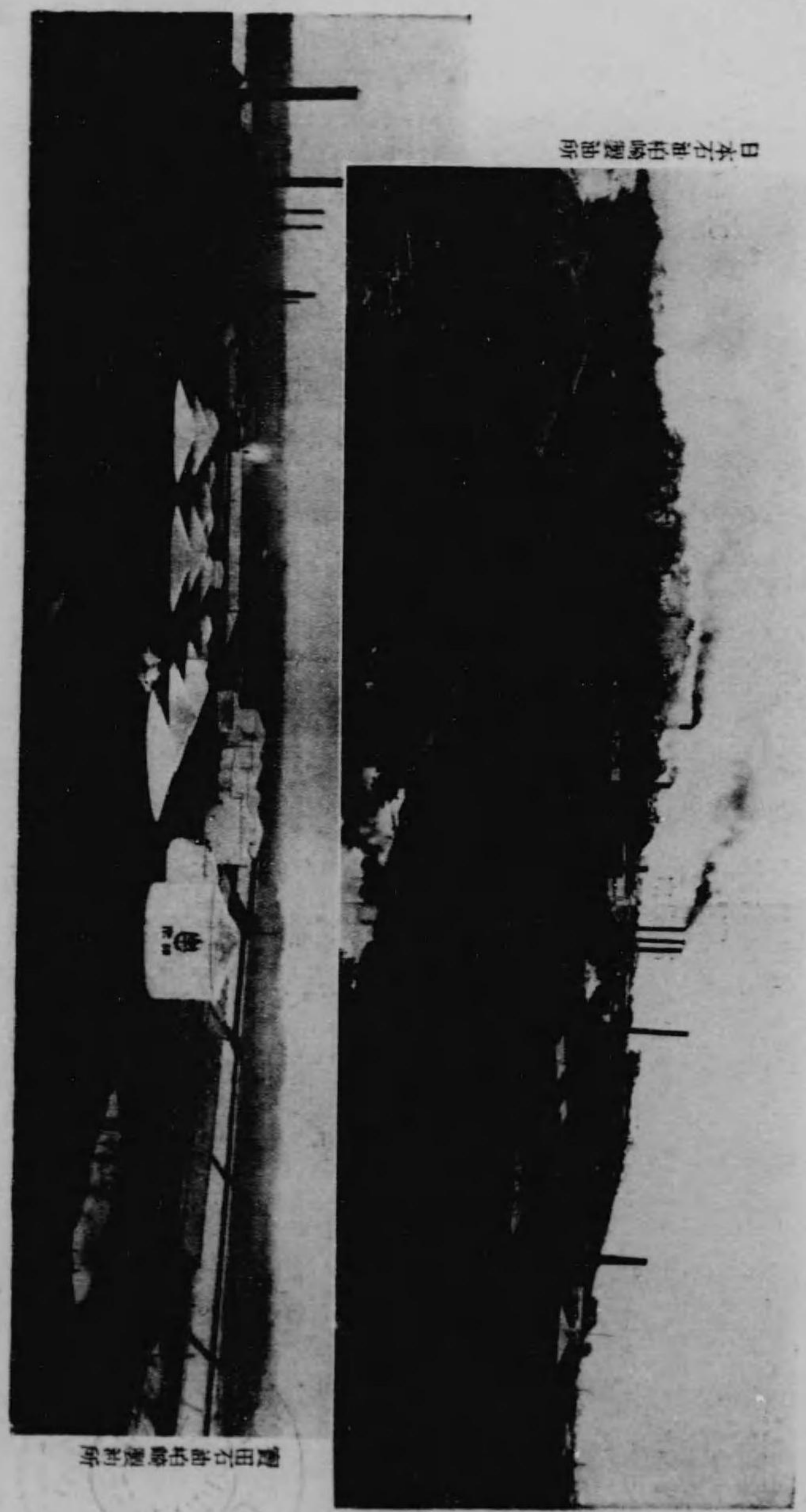
陽姿や手に下駄
はいて善光寺 一茶
城山館の眺望



滋温泉 琵琶池
難飼する國や
佛の善光寺
子規



聖身は鳥ぬし
たり蕎麦の花
几童
湯田中温泉



日本石田製茶所

石田製茶所



芙蓉湖より黒姫山を望む
これがまア終の
すみかか雪五尺
一

茶



初雁の信濃にかゝる
夜は寒し 院 壘
高田金谷山スキー



岩の原葡萄園
春日山頭鎮晚霞
驛驛嘶盡有啼鴉
惜君獨賦能州月
不詠平安城外花
馨 溪



春日山城址

晝夜あり、此間仰ぎては峻嶺を望み、俯しては深谷に對し、嵐氣搖曳、白雲空湧、坂東平野の平凡なる景色に倦んだ旅客をして、襟を披いてこれに向はしむるの趣がある、嶺上には楓樹多く、秋錦繡を織るの時最美觀である、近年横川輕井澤間に電氣機關車を使用することになつたので、往時の如く車内煤煙の侵入に惱まざるゝことなく、心靜に此風光を觀賞することが出来るのである

輕井澤は碓氷峠の西麓の高原、海拔實に三千八十尺、中央本線の富士見驛と共に、本邦に於ける最高停車場の一である。これより汽車は右に淺間の煙を見つゝ、走り、上田よりは千曲川に沿うて下り、川中島を過ぎて長野に至る、此間坂城、月倉、屋代のあたり、右に鏡臺山あり、左に冠者山あり、姥捨山あり、風光甚佳である

長野を後にして柏原に至れば南に飯綱、北に妙高、西に戸隠、東に斑尾、各數里を隔て、對向し、黒姫其中央に在りて驛の前面に聳立し、思はず人をして車窓を開かしむる



鮫波海岸
本つかしき先祖の櫓や
越後者許六

燃え出る火を
篋より清水かな
支考
日本石油長嶺油田



長岡驛に於ける油槽車
新潟にて
海に降る雨や
こひしき浮身やと
芭蕉

新潟萬代橋



のである、特に大雪の朝左窓より望めば、山高く野濶く、滿目皓々世に稀なる壯觀を現する、柏原より信越の境を超えて田口、關山に至る間は、冬季積雪甚しく、汽車はしばしば進行を阻止せらるゝので、所々に雪除け隧道を設けてある、田口に至れば妙高山正面に雙えて、富士式の山容秀麗である

直江津より、鐵路右に折れて日本海岸に沿ひ、米山の麓を縫うて柏崎に至る間眺望濶大である、鉢崎を過ぎてよりは狂瀾鐵路に逼り、飛沫時に車窓を打て、列車波浪の隧道に入るの趣がある、中に青海川驛附近勝景第一と稱せられて居る、柏崎よりは海岸に離れ、やがて信濃川の流域なる越後平野に出で、石油市の名ある長岡、及三條、新津を経て新潟に達するのである、新津よりは東して郡山に至る岩越線あり、北して村上に至る村上線がある

信越本線 高崎—新潟

飯塚いひづか 〇高崎公園、南二十五町 安中あんなか 〇鷹巣山城址、北十二町、岩屋館立頂上亭手社あり、碓氷川この懸崖の根を洗ふ 〇湯瀧温泉、東十四町、人力車賃十五銭 〇安中製糸會社、北半里 〇湯瀧炭山北半里 〇生糸 〇碓氷川 〇碓氷川製糸場、北四町 〇城山遊園地、東十町、佐々木盛綱の城址といふ、松岩寺内盛綱の墓あり 〇妙義山、西二里十町、人力車賃五十銭 〇碓氷川製糸場、北二十八町 〇小林製糸所、西四町 〇生糸、碓氷川製糸場、碓氷川サイダー 〇松井田まつむだ 〇妙義山、西南一里十町、人力車賃三十銭 碓氷川の橋を渡れば、前面既に蓬萊の三山の如く、屹立するを見る、山は海拔三九六〇尺、白雲、金洞、金鶴の三つに岐れ、山勢秀拔、船壁の削立岩柱の競峙洞門の開通等、神斧鬼鑿を極めて居る、三山中金鶴は最低として最險、何枚折かの屏風を削てたるが如く、石は挺秀山は削立、壁行尚難んずるが如き處もある、金洞は石門の奇を以て三山中最名高く、石門の數は十、人の稀に至るもの其第十六門までに過ぎず、第四門の邊最奇處である、白雲は最高として最幽邃、山麓に妙義神社がある、要するにこの山は火山岩の奇秀を極盡するもの、殊に霜葉紅をなすので秋季に登山する

人が多い 〇横川よこがは 碓氷川の北岸に在り、碓氷川を越ゆる電氣機關車の準備所である、驛南には鼻曲山、妙義山の雙ゆるあり、碓氷の溪澗深く、晴嵐氣涼しく翠微直ちに來つて眼前に迫り、山色水聲俗塵を絶つて居る 〇桃岡、北五町 〇不動瀧、西八町 〇霧積温泉、北三里半 〇碓氷の紅葉、驛附近數里、東京附近紅葉の貴すべきもの、霜根や鹽原や日光や甲斐の御嶽などがあるが、何れも妙所の大觀に及ぶものはない、旅客は先づ輕井澤驛に下車して舊街道を歩し、横川又は熊の平に出るがよい、輕井澤に下車して舊輕井澤を過ぎ、山徑二十五町を登りて碓氷山の絶頂に至れば熊野神社がある、眺望甚闊く、輕井澤の高原を西にし、碓氷の豁谷を脚下にし、前面には妙義の奇峯を始め秩父、甲斐連山の雙ゆるあり、東北には摩訶赤城の諸峯連貫し、宏瀟たる関東平野を展開して居る、世に日本武尊の弟橘媛を追慕せられし所と傳ふる遺跡は、社邊十數町を隔て、尊の倚りたまうたと傳ふる思婦石がある、峠より下り半里の間は薄が多く、満目悉く白く秋の日に光りて盡も及ばず、時に碓氷の溪澗の涼々たるを聞く、熊野神社前より熊ノ平に至る途は、近頃開いた道で紅葉道と云つて約一里餘、道は山の背を縫うて稍峻しいけれど、見渡す所左右も滿山これ紅葉、鳥聲人語赤赤からむとする、屏風を立て置はしたやうな、一帶の山は、其裾を洗ふ碓氷川

より洞天を覗く山頂まで、峯と云はず、谷と云はず、一面に紅葉の衣を著、色と云ふ色、木と云ふ木、堆又堆、葉又葉、累々然として錯綜矗立し、色相争ひ、影相競ひ、美觀又壯觀、形容の辭がない 〇輕井澤 かるむさは 海拔三千八十尺の高原、大氣新鮮水清冽、風に一味の冷あり、靜座すれば盛夏尚輕寒を受ゆる、郡人避暑に苦しむ時、此地偏に夏日の長きを愛するのである、毎年避暑の外人多く別墅相懸んで居る 碓氷の紅葉を觀るもの、先づ此驛に下るべし 〇淺間山、西北四里、人力車賃三人轎三圓 〇草津温泉、西北十里、乗馬賃一圓八十五銭 〇掛くつかけ 〇草津温泉、北九里、淺間火山の裾野と、その寄生火山小淺間の麓を過ぎて行くのである、乗馬賃一圓六十五銭、地は四方丘陵を繞らし摺鉢狀をなして居る、海拔四千五百尺、七月老鶯を聞き八月草花を見るべく、所謂高嶽の氣候自ら人體に適す、温泉は古來關西の有馬と併稱せられ、熱湯釜海の壯觀海内第一と稱へられて居る、時間湯とて隊長の命令による奇しき入浴法もある 〇淺間山、北三里、案内人一日金一圓、乗馬賃一圓一圓、次驛追分、御代田、小諸等よりも登山せらる、登路甚容易、何れよりも一日に上下することが出来る、山は有名な活火山で海拔八千二百尺、噴火口は東西に長く、南北に短く、濃煙幾度天を衝て昇り、轟々たる噴聲砂塵を降らし、硫氣瀰漫して咽喉を刺戟す、山頂の眺望宏闊壯麗である 〇小瀧温泉、北一里 〇赤岩温泉、北半里 〇津吹製材場、

東北四町 〇野原製材場、北半里 〇原木製材所、北十町 〇甘藷、木材、薪炭、水 〇追分おひわけ 夏朝臨時海抜三千百尺を超え、避暑に適す、地は往時中仙道と北國街道との追分で、俗語追分節は實に此地より弘まつたのである 〇御代田みよた 〇淺間山、噴火口北三三〇 〇鼻顏稻荷、南一里二十六町、馬車賃十五銭、〇開流山明泉寺、東南三里、馬車賃三十五銭、奇岩怪石が多い 〇佐久良社製糸場、南一里半 〇佐久社製糸場、南二里 〇長野縣野馬所、東南二里 〇小諸こもろ 元牧野氏の城邑、千曲川の東邊に在り 〇淺間山、噴火口迄三里 〇小諸城址、西二町 〇布引山製糖、一里半、麓まで人力車五十銭、一山皆岩石より成り、懸崖百仞、宛も屏障の如く千曲川岸に聳えて居る、山腹を括いて堂宇を設け、一條の危磴之に通じ、風光頗佳 〇森山桃林、南一里 〇小瀧風穴寶種貯藏所、西一里 〇日本養桃會社、南一里 〇島田製材工場、驛前 〇純水館製糸場、東一町 〇木材石材、木炭、絹糸、桃、苺ジャム 〇田中たなか 〇鹿澤温泉、東四里 〇大屋おほや 〇國分寺、西半里 〇靈泉寺温泉、西南四里餘馬車賃四十銭 〇鹿教湯温泉、西南四里半、馬車賃五十五銭 〇生糸、生皮亭、羅種、羅紙 〇上田うへだ 小瀧盆地に在り、千曲川に臨む、元藤田氏の城下で、維新前は松平氏の城下であつた、信州に於ける養蠶機織業の中心をなし、蠶及羅紙の取引盛に、上田驛を越す 〇上田城址、西北九町、開ヶ原

の役田氏この城に據つて、徳川秀忠の西征を沮止した。田邊温泉、西四里、馬車賃三十錢。別所温泉、西南二里半、馬車賃二十二錢。松平神社、西北九町。國分寺、南東二十九町。生島足島神社、西南一里半、馬車賃十二錢。〇蠶糸専門學校、東南十四町。〇蠶、蠶種、生糸、繭物、蠶綿、蠶具、蠶器。坂城さかき。〇鏡山、北東一里半。〇竿の渡、西北十七町。戸倉とくら。〇更科神社、西十町。〇戸倉温泉、西南八町。人力車賃十錢。〇上山田温泉、西南十五町。人力車賃二十錢。〇杏、甘露。〇屋代やしろ。〇松代城址、東二里十町。馬車賃二十五錢。松代町附近に在り、源田氏上田より移封して明治維新に及ぶ、町に神社、白鳥神社、長國寺あり。〇一重山、北六町。〇大雲寺の樓、西一里。〇武水別八幡神社、西三十町。〇生糸、杏子。〇井ののゝ。〇井ののゝの接續點、驛は千曲川、野川の中洲なる川中島。〇中央に在り、横山不國庵の古戰場は東北一里餘の處、茶白山、西條山、當時の陣營の跡今尙互に相敵對してゐる、武田信繁、山本勘介の墓、共に東方一里半餘の處に在り。〇林檎、午夢。長野ながの

善光寺及附近

長野は善光寺平に在り、南に信濃川を控へて居る、もと善光寺と稱し、海内著名の靈刹善光寺がある。世に知られ、伊勢の神都に擬して寺に佛

、これを現鸞上人手活の松と云ふ。堂の中央一段高い處は内陣で、其西方に本尊を安置し、厨子の前に錦織の戸帳を垂れ、朝夕の開帳も只僅に戸帳を揚ぐるばかりで、世に秘佛と云つて居る。賽者は四時織るが如く、雑踏を極むる様、恰も歐洲中世のビルグリムが聖地セルサレムに巡禮すると異なるなく、人荷も生をうけて此寺に詣でなければ、彌陀の淨土に至りて、其光明に浴することは出来ないと思つて居るのである。本堂の内佛像の後面に幽冥に入るの道がある。案内者あり賽者を導いて居る。隧道の内黠黠としてものあいろも分らない、行くこと半にして一個の鍵がある、人此鍵に觸るゝことが出来なければ、極樂淨土に入ること出来ない、云ふので、歩毎に南無阿彌陀佛々の低唱哀れに如來の來迎を冀ふのである、かくて道は曲折して自然に外界に通じて居る。

寺の境内は一部は公園となつて、泉池あり、竹林あり、梅柳桃李其美を争ひ、四時の風光がよい。公園より東に至

都と唱へて居る、今日人口四萬人を有し、陶土、麻布、鐘詰、蕎麥粉、杏羊羹等の産あり。善光寺は驛北廿町、人力車賃十七錢、大峰山の麓にあり、南面して市街を俯瞰して居る、近世天台、淨土二宗の僧尼之に奉事し、僧寺を大勧進と云ひ、尼寺を大本願と云ふ。本尊は一光三尊佛と稱せらるゝ圓浮檀金の阿彌陀如來、一尺五寸の靈像で、抑我邦渡來最初の佛像である、嘗て中臣、物部二氏の爲に、難波の堀江に投ぜられたるを、後信濃の人本田善光之を江中に拾ひ、一字の小堂を建てて安置したるが濫觴である。今の堂宇は元祿年間、幕府が松代藩に命じて建築せしめたもので本門仁王門を過ぐれば山門がある、二重の棹門で、高さ六丈六尺宏壯まづ人目を驚かす、山門の内に巍然として、雙ゆるは本堂で、高さ十丈、二重屋根檜木造り、柱數百二十六、垂木六萬九千三百八十四、以て法華經の字數に准へてある、四方に階段あり、正面の板敷には大香爐を置き、其右脇に太鼓、左脇に花瓶あり、花瓶は常に松を挿んである

れば致町にして一丘阜がある、樓山氏の古城跡で城山と云ひ丘上に八幡宮がある、城山の三面は今拓いて公園とし、竹樹泉石の美頗る備つて居る、城山の中腹には城山館あり樓上より眺望すれば、姥捨の翠巒、千曲、犀川の碧流、松代、須坂の瓦葺、川中島附近の平野等一眸の下に集まり、宛然一幅のパノラマを見るやうである。〇往生寺、北西二十八町、加藤重氏の遺跡。〇菟宮、北西四町。〇ぶらん堂、北東二里、人力車賃四十錢。〇戸、野山、北西五里三十町、平維茂に鬼女を退治したりとて夙に世に知られて居る、山崎雄偉、男體の秀麗と妙義の奇蹟とを兼ね、加ふるに地質變遷の説と幾多の奇草とのあるあり、山水の鮮あるものゝ必ず登山すべき山である。〇長野縣廳、北西十二町。〇市役所、北十六町。〇農事試験場、南十町。〇商品陳品所、北二十町。〇農工銀行、北西十二町。〇畑山園工所、北八町。〇千歳座、北十町。〇三幸座、北二十一町。吉田よしだ。〇吉田藥系會社。〇升新製糖場、西北八町。〇須坂俊明社。〇梓場、東南二里十二町。〇同東行社。〇梓場、東南二里十六町。〇小田の樹葉場、東南二里十二町。〇米子礦黃礫山、東南六里二十六町。〇礫黃、炭化石灰、生糸、羽二重。〇野とよの。〇湯田中温泉、東北四里十四町、自動車四十六

村 上 線

新津と云つたのであると云ふ。妙蓮寺、南二十五町。高石織工場、東十二町。●石村類 龜田かめだ。龜田製糸場、同綿布工場、東十三町。●綿布、梨子 沼垂ゆつたり。新潟市の對岸、信濃川の右岸に在り、往時沼垂の漕を賣いて蝦夷に備へた所、舟楫の便に當んで居る、今新潟の一部となつた。●新潟織工場、北十町。●木、人造肥料、硫酸、石油類、蠶絲、魚、梨子、新潟にひがた。信濃川の河口に位し、南方越後の大平野を控へ、西北は砂丘を隔て、日本海に臨んで居る、我邦五港の一として早く開港せられたれど、港淺く且つ海波を防ぐに便ならざるのみならず、信濃川より吐出せる土砂の爲め、漸次淺淺となるので、港運が通まない、今人口六萬六千人を有し、最近貿易額輸出十三萬圓、輸入二百六十二萬圓あり、沼垂町に在る驛を出れば、前には新潟市の瓦製粉屋敷が如く、長さ四百二十八間、恰も紅鷲の如き萬代橋の信濃川に跨るあり、人をして一種名狀すべからざるの快感を覚えしむる、物産は漆器、石油類、蠶絲、肥料、白玉粉、糧物、綿織物、味噌等あり、梨子、柿かり、梨子羊羹等の名物もある。○白山公園、西二十町、市第一の遊藝地。○日和山、西北二十三町。○彌生神社、越後鐵道吉田驛より一里半、越後第一の神社である、越後鐵道は市内白山公園附近を起點として柏崎に至つて居る。○新潟縣廳、西十七町。○市役所、西十五町。○物産陳列館、西二十町。○醫學專門學校、西十九町。○農工銀行、西十七町。○新潟縣農會社、西北十五町。

村 上 線 新津—村上

○東洋物産會社、西北十四町。○越羽製炭會社、西田川製炭會社、西十六町。○新潟織工所、北二十四町。○新潟製炭會社、西北十五町。○川崎鐵工工場、北半里。○寶田石油製油所、西南二十六町。○齋藤製油所、西南二十七町。○改良座、永樂座、大竹座、西北十六町。○興港、佐渡に在る貿易港、最近貿易額二十一萬圓あり、新潟より汽船費二等七十五錢、三等五十錢。

水原すむばら 雖新の始越後府を置いた所。○出湯温泉、東南二里半、人力車賃五十錢。○村松温泉、東南三里。○八房の湯、西南一里半。○水原製糸會社、東南二十一町。○阿賀川鐵橋、新津との間に架す、長四〇七七呎、本邦第一の長鐵橋である。○天王新田てんのうしんでん 彌島川の南岸に在り、牛車天王堂あり。○米 新發田しばた 元溝口氏の城邑、城址は西北十町、今兵營となつて居る、町に長徳寺、託明寺、顯法寺あり。○聖陸觀世音、北一里半。○首谷不動尊、東北三里。○米白土、梨子、無花果餅。

中條なかでう 梅が橋の奇跡、胎内川の上流二里。○坂町さかまち 湯澤、高熱温泉、東三里半。○鷹巣温泉、東四里半。○金山製糸場、北二里十五町。○新炭、木材、栗。村上むらかみ 村上城址、東十五町。○

村 上 線

山温泉、西十三町、馬車賃十五錢。○瀨波港、西十六町、馬車十錢。○粟生島酒波より六裡、夏期定期汽船賃四十錢。○笹川流し、瀨波より六裡、夏期汽船賃三十錢。○山邊里礦物會社、東北三十四町。○小田織物工場、東北一里。○鮭産育養所、東北十六町。●鮭、茶、漆器、山邊里織、海府海苔。

院線に於ける著大なる鐵橋

線 名	名 稱	延 長
村上線	阿賀川	四、〇七五
東海道本線	天龍川	三、九六七
東海道本線	大井川	三、三三一
關西本線	揖斐川	三、三三五
常磐線	利根川	三、一〇四
東北本線	荒川	三、〇三三
關西本線	木曾川	二、八三四
酒田線	第二最上川	二、七〇一
東海道本線	下淀川	二、五三六
北陸本線	黒部川	二、四六八

六月の雲くづれけり妙義山 子規
 輕井澤君が來ませるふとんかな 召渡
 名月や淺間ヶ岳も靜なり 許六
 櫻時雨して淺間の煙餘所に立つ 蕪村
 松一本霞んで立てり茶白山 日人
 善光寺の月に諸人の涙かな 櫻真
 なり笠をきぬ人は涼し柏崎 支考

出雲崎にて

文月や六日も常の夜には似す 芭蕉
 荒海や佐渡によこたふ天の河 芭蕉
 ゆき／＼て越路にさらせ汗拭ひ 琴堂

總武線

總武線とは

一 總武本線 兩國橋、銚子間、七二哩七分、及貨物

支線

一 房 總線 千葉、勝浦間四四哩三分

一 木更津線 蘇我、上總湊間三四哩三分

一 東 金線 大網、成東間、八哩六分

の總稱で、其本線は東京市内兩國橋驛を起點とし、千葉にて房總線を岐ち、成東にて東金線を岐ち、銚子に至りて止まつて居る、列車は兩國橋より銚子行六回の外、勝浦行一回上總湊行一回あり、銚子まで約三時間半、勝浦まで約三時間半、上總湊まで約四時間を要す

總武本線 兩國橋—銚子

龜戸 かもねど 驛の附近には日清紡績會社、東洋モスリン工場、大日本人造肥料會社工場、富士紡績小名木川工場、東京製糖會社工場、東亞製粉精製所、日本製粉小名木川工場、大日本製糖會社工場、東京瓦斯會社等あり、
○ 龜戸天満宮、西北七町、人力車賃十錢、社殿社屋、社前池畔紫白の藤を植ゑ、花房長さ大餘に及ぶものがある、毎年一月初卯の日、豊饒の神事を行ふ、俗に之を初卯詣と云ひ、都下の子女争うて参詣す、
○ 臥龍橋、西北八町、人力車賃十五錢、清香庵内に在り、都下第一の老梅である、
○ 萩寺、西北九町、萩を多く植う、寺と細流を隔て、
○ 柳島見堂あり、
○ 平井 平井ひらね、
○ 平井聖天堂、西二町、
○ 最勝寺目貫不動、東南三町、
○ 布無苦、クゴ岡、
小岩 小岩こいは、
○ 善養寺、東北十二町、境内屋下松あり、
○ 柴又、
○ 天、市二十町、
○ 草、
○ 市川、いちかは、
○ 市川桃林、北一町、
○ 次郎中

葛飾は水田に

たりぬ後の月

太 如

市川手古奈堂



中山法華經寺の泣観音

掛稻や雨雲おほふ

鴻の臺 天 府

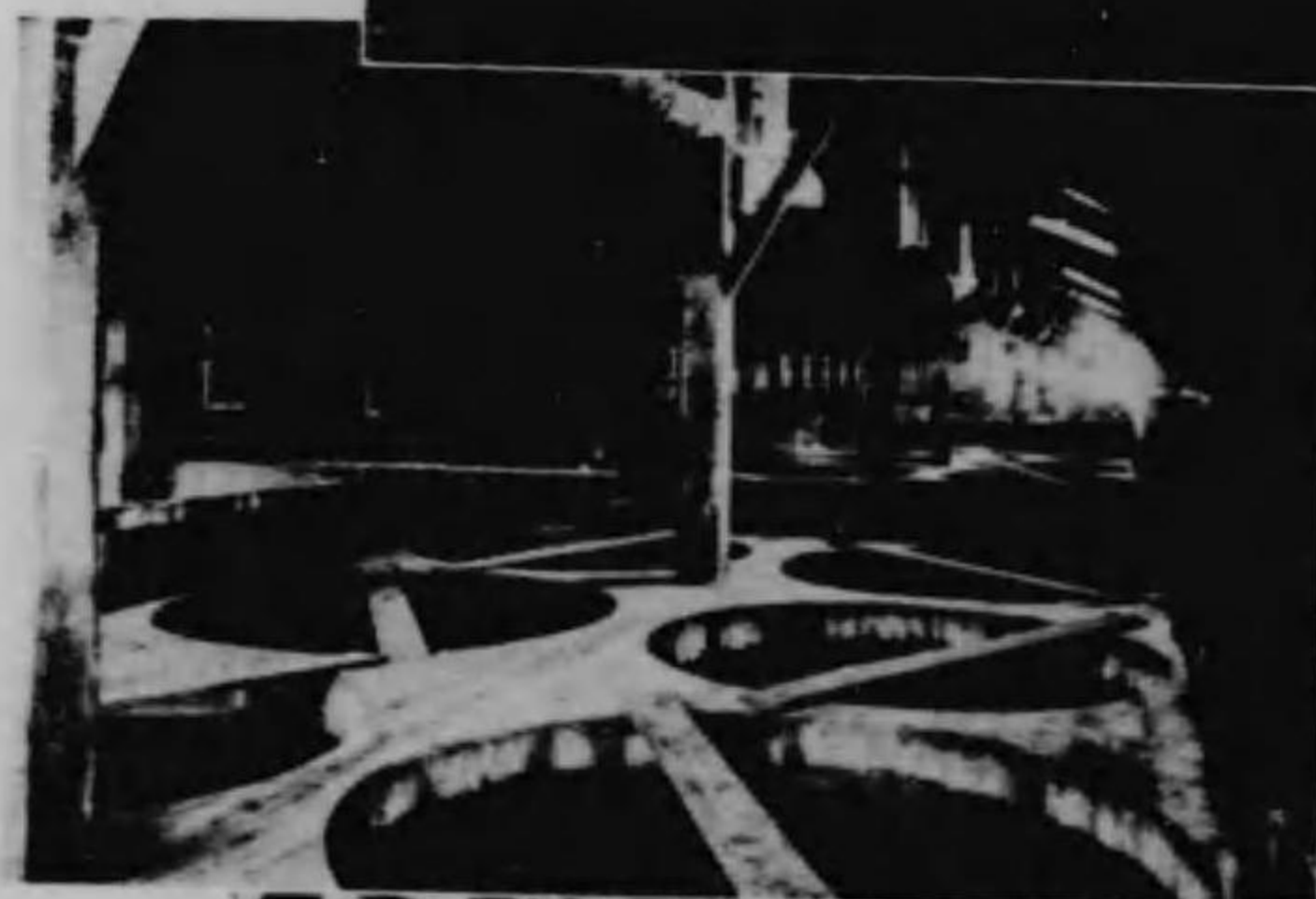
秋風にさくら

咲くなり法華經寺

子 規

野田香油龜甲

万願造仕込蔵



稻 毛 海 岸

線 本 武 總

山まで新築されて花時賑ふる美観を呈す。○法華寺、龍岡の龍橋、手古堂堂
堂、共に北八町、人力車賃十銭、寺は國府縣高地の御座に在り、境内には楓
樹多し。○國府縣、北半里、馬車賃六銭、高さ七十尺の懸崖に過ぎないけれ
ど、江戸川に臨みて眺望の勝あり、古の國府址は今の總持寺境内である、附
近今兵舎あり。○八幡不知の殿、東半里。●梨子、桃。○中山なかやま
○法華堂寺、北五町、正中山本妙法華堂寺と號し、日蓮上人最初の轉法輪の
道場だと云つて僧徒の崇敬が厚い、堂宇宏麗、常鳴堂の後に有る日蓮上人
人の泣眼あり。○行徳高瀬、西一里、徳願寺内に在り。○群芳園、御前
●大根切干、桃、梨子、甘藷。○船橋ふなばし。○船橋大神宮、東南八町
○三咲の櫻、東北二里半、櫻樹里餘に遡る。○海軍無線電信所、西北半里
●甘藷、落花生、切干。○津田沼つたぬま。○習志野原、東北一里。●甘藷、
介虫生。●藤張まくはり。○長作夫婦梅、東北半里。○海水浴場、南西三町
●甘藷、貝類。○船毛いなげ。海濱海水浴に通ず、西十一町、人力車賃十
二銭、袖ヶ浦の海濱、煙松翠を凝して優美沙上に俯仰し、小艇子の帆がある
●甘藷、介虫生。○千葉ちば。房總線の分岐點、東京港の東北に在り、人口
三萬五千人を有す。○葛島島、東南十五町、舊城址で、袖ヶ浦の風光を見渡
される。○千葉神社、東南六町。○千葉寺、東南二十二町。○千葉縣廳、南
東十五町。○陸軍歩兵學校、西北十七町。○千葉醫學專門學校、東南十五町

○農工商行、南九町。●栗濱、甘藷。○四時道よつかいだらう。○陸軍野戰砲兵
射撃學校、北三町。●甘藷、黒芋。○佐倉さくら。○成田鐵道の接續地、堀田
氏の舊城下、印旛沼の南に在り、佐倉炭を産す。○勝門山城址、東北三十
町。○堀田農事試驗場、東南二十町。○宗吾刑場、北一里。○八幡ちま
た。○富山の櫻、西北十五町。○三里塚、縣廳三三里塚附近黄金十九錢、
飼料牧場あり、櫻樹多し。●落花生、黒芋。○日向ひらが。○廣範村、源
村、西南二十町。●板戸。○成東なるとう。○東金線の分岐點、大綱に至り
て房總線に接續す。○浪切不動尊、西六町。○成東鐵橋、西六町、人力車
賃十銭。○成東公園、西十町。○九十九里濱、東南二里。○松尾まつを
○芝山仁王尊、西南二里。●落花生。○横芝よこしば。○八田金比羅、
西十四町。○出雲製糸場、廣前。●米穀、介虫生。○干潟ひがた。○落海村
桃林、西十六町。●落花生、米。○旭町あさひまち。○九十九里濱、南三十
町。●落花生、甘藷。○飯岡いひをか。○岩井不動尊、北二十八町。○飯岡
海水浴場、南一里半、馬車賃二十五銭。●甘藷。○藤田さるだ。○堀川の
櫻、西北十五町。●甘藷。○松岸まつぎし。○鎌子の接續地。○海上八幡宮、
西十二町。○長者山仁王尊、西八町。●甘藷、魚類。○鎌子てうし。利
根川の吐口に在り、本邦最東の御座である、港口には岩礁多く、大船の出入
碇泊に不便なれど、東海岸の一要衝であるから漸次發達した、此處より利根

鎌子港



鎌子港油山サ釀造場



大原小濱漁場

海上の沖つ八汐路

雲をさえて

浦わの千船

あさびらきせり

春海



野浦海岸



上總淡路附近海岸

轉地する安房の

濱地や堀引

子規



川及臨ヶ浦沿岸への汽船便あり、物産には醤油、饅子類及海産物、甘藷、粕肥料、瓦、石材等の産あり、海岸は砂地多く、其風光を巡覽するのを饅子遊覽と云ひ、今饅子遊覽鐵道の便がある。○飯沼親善、東十二町、遊覽鐵道三錢。○川口明神、東三十町。○饅子無線電信局、東一里。○犬吠御燈籠、東南一里半、遊覽鐵道十一錢、附近西明の里、墨生浦、外川、犬若等皆海水浴に適す。○今醤油醸造所、東七町。○今醤油醸造所、東北六町。○饅子香油會社醸造所、東十三町。

房 總 線 千葉—勝浦

本千葉 辰んちば ○袖ヶ浦海水浴場、西南五町 ●貝類餅 蘇 我 ぞが
本更線の分岐點、附近今井、小泉製紙場、水野製油場、大塚松根油精製工場あり。○小弓城址、大塚寺、共に東五町、大永年間足利義明之に據つて小弓御所と稱した。●穀粉、酒返紙、松根油 土 氣 と け ○土氣城址、東北二十町。○善勝寺、南十町。○南玉不動尊、南半里 ●薪炭、松九太、甘藷 大 綱 おほらみ 東金線の分岐點、同線東金線附近八幡越、本瀬寺、西福寺、東金城址等あり。○本國寺、北十町、伽藍宏大である。○雄略ヶ池、北一里 ●木、蓮花生、海産肥料、密柑 本 駒 ほんなふ ○馬場

葉を穿つて居るから、近海の潮が多く此處に集まり、大なるものは長さ四五尺に及ぶものがあるといふ。○清澄寺、小湊の西南六里半、馬車賃天津まで五里三十町、五十五錢、寺の西方一岩石の上に朝日堂がある、日蓮が旭天に向つて始て南無妙法蓮華經を唱へた所と云ふ ●魚、干鰯、肥料

木 更 津 線 蘇我—上總湊

濱野はまの ○本行寺、四町 ●佃麦、貝類 八 幡 宿 や は た じ ゆ く
○飯沼八幡宮、隣附近、社殿壯麗、東京灣の潮波に臨む、海濱は袖ヶ浦と云ひ海水浴に適す。○鳥穴神社、西南二十八町 ●米、薪炭、貝類 五 井
こゝの ○海苔養殖場、西北二十町 ○園分寺、東南二十町 ●海苔、貝類
姉ヶ崎 あねがさき ○姉ヶ崎神社、東南八町、丘陵の上老杉森々たる間に在り、社殿宏壯 ○靈光寺、南三十町 ●米、薪炭、生果 稻 葉 ならは
○神納百花園、東南十二町 ●牛、魚介、海苔、蠶豆 木 更 津 き さ ら づ
臨西海岸第一の繁華地、日本武尊東征の際、愛妃弟橘姫を海神の爲に失ひ、悲しみに堪へず海洲をさまよひ給ひ、去るに忍びざる御有様であつたから、後人君不夫と名づけたと傳ふ。○吾妻神社、弟橘姫を祀る、北十五町、人力車賃十五錢。○鹿野山、東南四里半、山麓まで馬車賃三十錢、幽邃の境である、

社、北十町。○蓮福寺、西五町 茂 原 も は ら ○藤原寺、寶山寺、共に西十町、人車鐵道賃六錢。○笠森寺、西三里、勝浦まで二里半、人車鐵道賃十五錢、上總屈指の聖地である。一ノ宮 いちのみや 加納氏の舊城邑である。○玉浦神社、北四町。○海水浴場、南十五町、人力車賃十八錢、船賃八錢 ●蘇、叭、甘藷、落花生 太 東 た い と う ○太東御、東二十五町、人力車賃二十錢、遠く北總飯岡御と相對して奇跡たる森開の沙灘長さこと十四里餘、九十九里濱と云つて居る、御脚尖岩嵐時、怒濤之に衝つて龍虎の圓をなして居る。○海水浴場、東二十町 長 者 町 ちやうじやまち ○海水浴場、東南半里 ●密柑、梨子 三 門 みかど ○海水浴場、東半里 ●白土

大 原 おほはら 一帯の海濱海水浴に適す、人力車賃十五錢。○八幡御、東九町、百尋の斷崖轟々として峙ち、海波之に激す。○大多喜町、北西四里、人車鐵道賃三十一錢 ●魚類、海産肥料 御 宿 おんじゆく ○海水浴場、南七町 ●海産物 勝 浦 かつうら 勝浦濱に臨む、近海は鰻鱺産である、勝浦御東南に斗出し、全濱一帯の海濱の西に盡くる所、丘岡波に洗はれて起伏し、暮色一度至れば沖邊く、波浪拍捲する所、漁火點々星散し、光景畫のやうである、海濱は勝浦と云ひ海水浴に適す。○小湊、西南四里三十町、馬車賃四十五錢、日蓮上人誕生の地、小湊山の麓に誕生寺あり、堂宇壯麗、小湊の海濱は物の浦と云ひ、日蓮の頭蓋を祭じた處だと傳へ、土地の人は今も此の山上神野寺あり ●海苔、蓮根、貝類 周 西 すざい ○鹿野山、東南三里、人力車三十六錢 ●海苔、蠶豆 青 塚 あさぼり ○富津、西一里、馬車賃十三錢 佐 賀 町 さぬきまち ○新舞子濱、西十三町 ○足柄公園、東十五町 上 總 湊 かづさみなと 海濱風光に富み海水浴に適す、此處より金谷、保田、勝山、岩井、那古を経て北條まで自動車便あり、北條まで九里、賃金一圓八十錢

冬枯や遙に見ゆる真間の寺 子規
中山や狂女もこもる御命講 子規
香取法衆
江を越ゆる梅の香とりの晉哉 夢太
鮎の居らぬ上總の國や鱈汁 子規
さみたれや此笠森をさしもくさ 芭蕉

冬枯や遙に見ゆる真間の寺 子規
中山や狂女もこもる御命講 子規
香取法衆
江を越ゆる梅の香とりの晉哉 夢太
鮎の居らぬ上總の國や鱈汁 子規
さみたれや此笠森をさしもくさ 芭蕉

岩越線

岩越線

郡山—新津

本線は東北本線郡山より分岐し、猪苗代湖畔を走りて若松に至り、夫れより阿賀川に沿うて新津に至り信越線に接する線で、延長百八哩二分あり、東京と新潟との間には信越線の外この線を通じての直通列車もあり、信越線の十四時間に對して、この線に頼れば十三時間半にて達せらるゝのである

郡山を後にして熱海より峯巒重疊の間を走り、中山宿を経て上月に至れば、初めて猪苗代の湖光に接し、關都に至れば右方又磐梯山の半空に雙ゆるあり、左顧右盼一幅の活畫の中を行くの思をなすのである。翁島を出てよりは鐵路稍下りとなり、車窓會津平野を見るべく、やがて粉壁瓦葺の眼前に現はるゝは即ち若松である

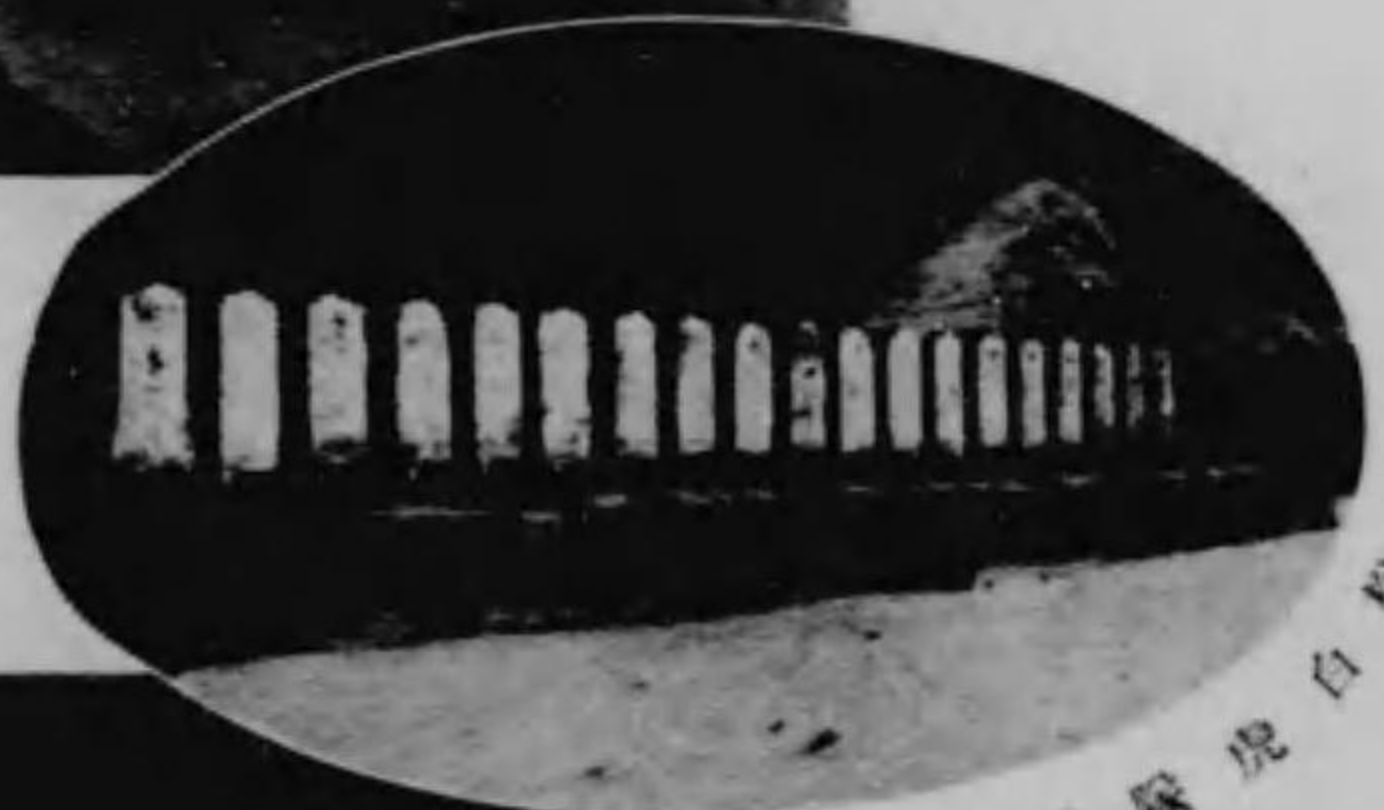
若松よりは鐵路會津平野を横ざり、右に猫間ヶ嶽の岬々たるを仰ぎて進み、山都より初て阿賀川に沿うて走り、萩野を過ぎて之を渡る、野澤を後にしてより風光の美漸く加はり、上野尻よりは峯巒の間に入り、阿賀川の峡谷に沿うて走る、所謂銚子の口下流凡そ五哩の間は、兩岸の花崗岩石屏列し、或は横斜して河水之を繞る處、潭となり峽となり、瀨となり淵となり、境塵々變じて景愈々幽、殊に晩秋錦繡滿山を染むるの候最美觀を呈するのである。徳澤を過ぎて再度川を渡る處は即岩越の境にして、豐實よりは急傾斜をなせる山腰の沿岸を迂繞し、左旋北行飯豊山脈の一脚延いて河溪に突出する所、隧道を穿ちて日出谷に出るのである。これより線路左折して三度川を渡り、延長六五八一尺



沼尻硫黄山採掘場
雄子啼いて
磐梯山のくづれけり
子 現



天神濱より
梯山を望む



磐梯山の
墓墳の



泉 澁 山 東



新津兩日本油田
地噴油の光景
明日よりは
いづくの人か
眺むらむ
なれし大城に
輝る月かけ
某 女

岩 越 線

本線最長の平瀬隧道を過ぎて四度川を渡りて津川に至る。津川以西の沿岸も亦風光の美に富み、五度川を渡りて五十島に至り、峻嶒なる傾斜を爲し、岩石累々たる山腹を迂繞し、十餘の隧道を過ぎて馬下に出で、漸く峡中隘谷の境を脱して廣瀾なる越後平野を走り、五泉を経て沿道油井橋の林立するを見つゝ新津に達するのである。

喜久田きくた 前田源造空堀、北二十四町 熱海あたみ 熱海温泉 驛前 高玉温泉、西北八町 高玉嶺山、東北二十町 福島縣種畜場、北二里 上戸じやうこ この驛より歌謡の間苗湖の湖光を見渡される。湖は周圍十三里半、湖抜一千七百尺の高處に在り、湖波渺茫、對岸の風物、宛然波瀾の繪を見るやうである。天晴れて風靜かな日は、巖壁の山影湖面に映じて山光水色美觀云ふばかりなく、ことに瑤雪山巒を蔽ひ、碧波激湍油の如き時、最風光の美をなすのである。月形嶺山、南二里 ●木材、礪石、白土 関 都せきと 小平瀨天満宮、西二十五町、猪苗代湖畔に在り、附近を辨天齋と云ひ山水の眺望佳 川 新かはげた 大原まで耶麻軌道あり、黄金三十錢 沼尻温泉、大原より一里半 中ノ瀬温泉、大原より十四町 横向温泉、大原より一里二十町 川上温泉、驛北二里半 水産養殖場、東

光 風 の 津 川 賀 岡



十五町 沼尻硫黄製煉場、大原より二十町 ●硫黄、木材、木炭 猪苗代みなしろ 土津神社、北二十町、人力車道二十錢、保科正之を祀る、湖の全景を見るべし 川上温泉、西北二里半 磐梯山、西北頂上まで二里、案内強力一圓、形状富士に似て居る、湖抜六千五百尺、山の半腰より登路甚急峻、頂上に至れば眺望開闊飛騨越中の連山も題目の中に入り、弱氣肌を癒ひ白雲脚下に飛び、快云ふべからず 磐梯神社、北十五町 龜ヶ城址、北十二町 磐梯山、西北十四町 ●生糸、木炭、湯ノ花 龜ヶ城址をきたじま 磐梯山、北二里半 十六橋、西南一里半 高松官御別邸、南三十四町 大寺 おほでら 猪苗代水力電氣發電所、東南十五町 廣田ひろた 二階堂、西南十四町 日本化學工業會社工場、東北半里 ●鹽澁加里、米若 松わかまつ 會津盆地に在り、四面山を繞らして自ら別天地を爲し、古來要害の區と稱せられ、蘆名、蒲生、上杉、加藤の諸氏相次で據に居り、威を東北に振うたが、後保科氏封を此地に受けて維新に及んだ、戊辰の役幕府に與みして王師に抗し、天下の大兵をこの一城の下に集めて、苦戰旬日會津武士の氣風の尋常ならざるものあるを示した、今人口四萬人を有し、會津藩、會津藩を蓋す 龜ヶ城址、南二十五町 飯盛山、東十五町、人力車道二十錢、戊辰の役白虎隊の十有七士が、春尚早き青衫の身を以て若姪に殉じ、封建時代最後の光彩を放つた所で、墓あり、碑あり、感慨無量である、墳墓の下は墓

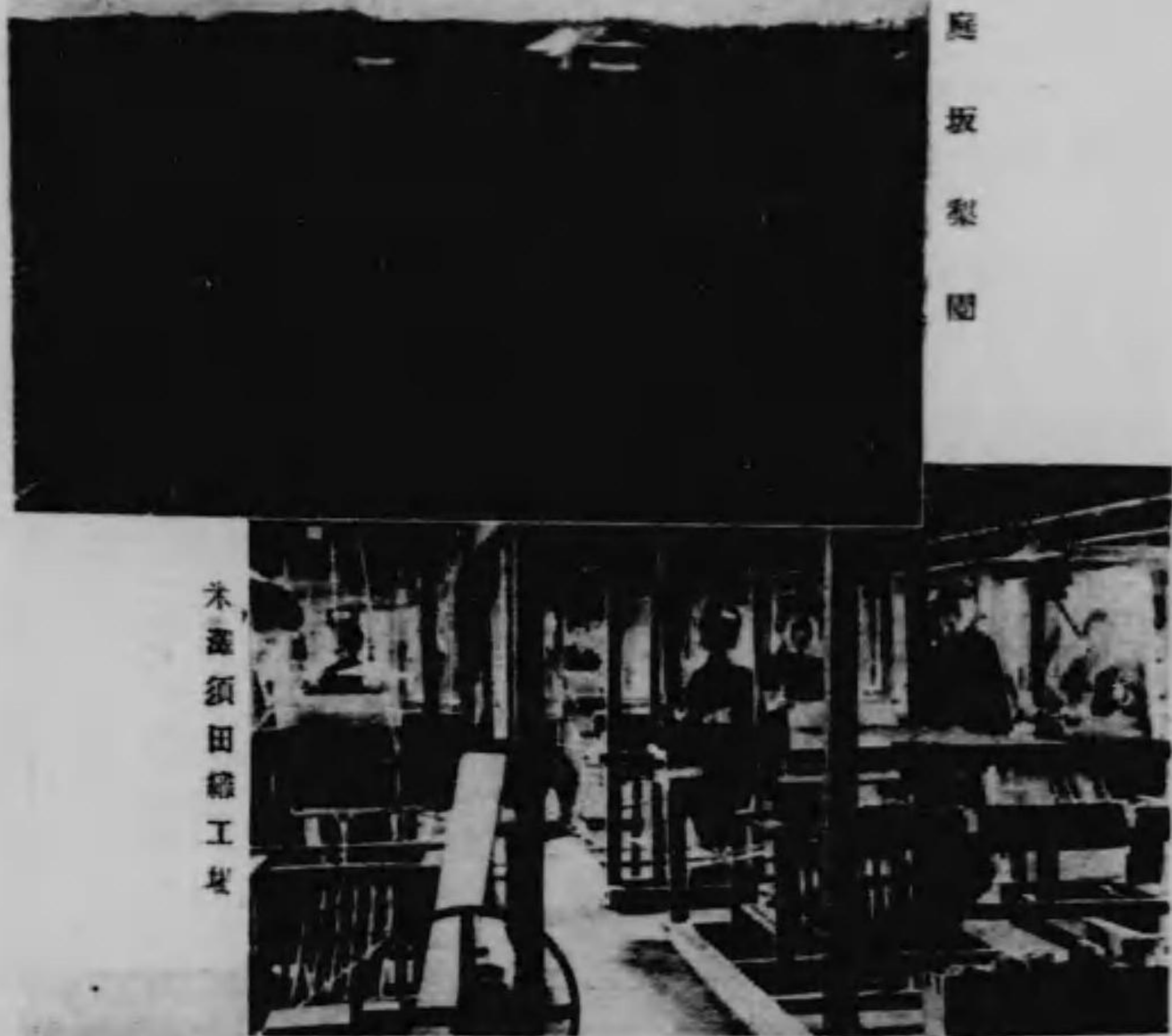
岩 越 線

堂は、六段三層高さ八間半、漸々に盤旋して頂に至り、漸々に降りて下に廻る、其狀榮螺の殻中に似て居る、堂の西側宇賀神社あり、白虎隊士の木像を安置して居る。○**葦**、**國神社**、東十町。○**蒲生氏郷の墓**、南二十町與徳寺に在り。○**榮樂庭**、南十五町。○**東山温泉**、東南一里、人力車賃三十錢、會津地方第一の遊樂地、地は峯崎の間にあり、廣瀬湯川の兩岸に並んで流水泉に激して耳聾するばかり、泉は無色透明玲瓏として玉のやうである、川に沿うて幾多の瀑布奇巖あり。○**伊佐須美神社**、西南三里。○**柳津虚空齋**、西六里半、馬車賃六十錢、人力車賃八十五錢、四面山嶽波濤の如く起伏し、只見川蜿蜒として白濁の過するが如き處、柳津の人家皆岩に凭り水に洗んで、宛然畫圖の趣をなして居る、堂は川に臨みて絶壁の高きに安んじ、伽藍宏大、高欄に凭りて望めば、山光水色甚佳、岩越沿線屈指の名勝である。○**喜多方きたかた**。○**熱鹽温泉**、東北三里、馬車賃二十九錢。○**日中温泉**、東北三里半。○**加納鑛山**、西北二里十町。○**鉛及亞鉛鑛**、**漆鑛**、**米**。○**山都**やまと。○**飯豊山**、北山麓まで五里。○**萩野**をぎの。○**柳津虚空齋**、南三里。○**野瀨**のさは。○**大山**神社、南一里半。○**五疊敷**、早戸温泉、東南五里。○**山口鑛山**、東南二里。○**鑛石**、**桐材**、**薪炭**、**白土**。○**上野尻**かみのじり。○**山之神冷泉**、南三十町。○**川魚**、**薪炭**。○**日出谷**ひでや。○**白山神社**の櫻、西北十二町。○**鹿**、**瀧**かのせ。○**鹿海鑛山**、東二十町。○**津川**つがは。○**阿賀川峡谷**の首邑、こゝより下

流船便あり、譽を遂げ溪谷の勝を探るべく景致幽遠である。○**鮮紅山城址**、南二十町。○**小花地**、北三十町、次郎白輪との間阿賀川の兩岸絶壁、岩石亂立、**本尊岩**、**經岩**、**衣岩**、**大鼻岩**、**黒比須岩**等の名あり、蒼松其間に聳え顯る佳景である。○**新炭**、**桐材**、**山芋**。○**白輪**しろさき。○**大清水鑛山**、西南三里。○**日本平鑛山**、西南三里半。○**鑛石**、**石灰石**、**白土**、**鮎**、**木炭**。○**五十島**いがしま。○**阿賀川の南岸**に在り、附近の平、等寺には餘五將軍平維茂の墳墓を傳へ、其廟堂は永正年間の古建築で、柱梁所々朽損して居るけれども、羽目板に幾々の顯畫ありて考古の料とするに足る、世間希觀の寶窟である。○**持倉鑛山**、東南三里。○**同製煉所**、東南一里半。○**電氣亞鉛製煉所**、東南一里十五町。○**型鋼**、**亞鉛鑛板**、**鑛石**。○**馬下**まおろし。○**小山田**、西南四十町。○**大谷鑛山**、西南二十町。○**北越石村會社**、東北二十町。○**五泉**ごせん。○**鑛業地**で五泉平と云ふ地産地である。○**村松町**、一里半。○**羽二重**五泉平、**鵜**、**八ッ橋**、**鰻**。

形なき繪を習ひたる會津盆 嵐 蘭
むら紅葉會津商人なつかしき 蕪 村
若松の椀荷見初る枯野かな 沾 徳

庭 坂 梨 園



米 瀧 須 田 織 工 場



赤 湯 温 泉



上 の 山 温 泉



男鹿半島の奇岩
男鹿島に曼陀羅と云ふ岬あり



聲はすれども姿は見えぬ
それかあらぬか
きりくす
能代秋田木材會社製材作業



十和田湖鏡子の口
さつきとめとて
戀しのばせて
今は代田の
おとし水



小坂礦山全景

閉かさや
岩にしみ
入る鯉の
聲
芭蕉
光月御道山登山三羽田



寺 山



東根温泉



湯殿山鏡ふむ
蓮の涙か
曾良
田澤湖の湧き官





しめなほす奥の
草鞋や冬の月
唯然
暖ヶ岡温泉



大鱒蔵館温泉



弘前附近目屋溪の釣橋



弘前附近林檎園
木枯や犬吠え
たつる外ヶ濱
子
現



軍 神 部 田 右 十

奥羽線

奥羽線とは

- 一 奥羽本線 福島、青森間三〇二哩三分、及貨物支線
- 一 長井輕便線 赤湯、長井間一一哩四分
- 一 酒田線 新庄、酒田間三四哩三分、及貨物支線
- 一 船川輕便線 追分、船本間一一哩八分
- 一 能代線 機織、能代間二哩五分
- 一 黒石輕便線 川部、黒石間四哩一分

の線稱で、其本線は東北本線福島驛より分岐し、板谷峠を横断して米澤を指す、其間は本線工事中最困難であつた所で、十數の隧道を穿ち、山愈深き處、赤岩、板谷、峠、大澤の四驛を置いてあり、古來峻峻無比、旅客の最も難所と

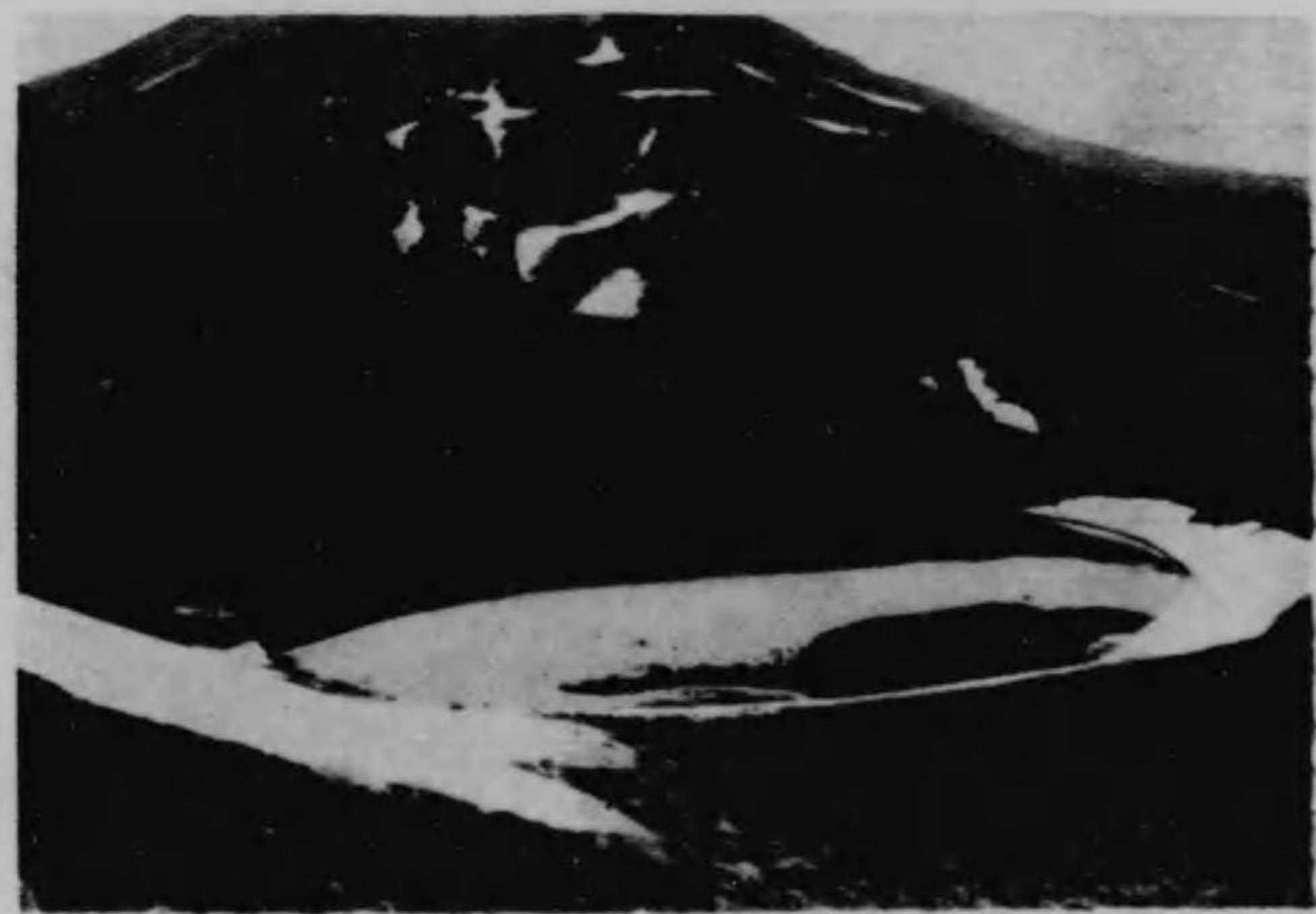
した米澤入の道も、今は車窓溪谷に臨み、瀑布を仰ぎ、岩石の奇、山路の曲、變化果しなき自然の大畫幅を繰きつゝ、容易に其峻路を越ゆるを得ることゝなつたのである。米澤よりは鐵路國道に沿うて山形、新庄を経て秋田に至る、其間出羽の三山の眺望があり、鳥海山の展望がある、鳥海山はいはゆる出羽の富士で、其山容の雄偉壯麗なる、津輕の岩木山と共に西奥州を旅行した人のながく忘るゝ能はざるものゝ一つである。秋田より汽車は八郎潟に沿うて走り、風光の美うたゝ車窓の人を楽しませしむるのである。機織より線路右に折れて米代川の溶々たる平野の間を走る二ツ井驛のあたり、對岸七座の奇峰聳え、河流屈曲して山光と相映じ、風色頗る佳である。



最上川の蘆帆
曇き日を海に
入れたる最上川 芭蕉



麻刈りて鳥海山に雲もなし 子規
最上川河口



鳥海山の鳥の海

線本羽奥

大館を後にすれば、汽車はやがて矢立の山中に入る、これが羽後、陸奥の境で、下内川之より南し、平川は之より北に流れて居る、大鱒に至るまで平川を渡る、こ前後六回、溪山の勝また捨つべからざるものがある。弘前に至れば岩木山の秀容、巖然として雲表を摩して居る、それより汽車は津軽平野を走り、大釋迦より津軽坂の險を過ぎて青森に至りて止まるのである。列車の運行は本線を通じて上野青森間相互直通列車二回あり、約二十二時間を要す。陸羽線の一部新庄より長澤を経て瀬見に至る一二哩餘、船川輕便線脇本羽立間三哩餘は共に本年十月開通の豫定である。

奥羽本線 福島—青森

庭坂にはさか 高湯温泉、西南二里半、登湯温泉、西南三里、土湯温泉、西南三里半、吾妻富士、西南四里、高湯より登る、藤巻登坂天際に秀で、山容甚だ富士山に似て居る。●梨果 坂谷 いたや、新五色温泉、西南三十三町、五色温泉、西南三十町、藤巻山、南二里、●硫黄、木炭

線本羽奥

本炭、生糸、濃紙 全井 かなり、○沼川温泉、南二里半、群川の上流に在り、人力車賃一圓五十錢、駄馬賃七十錢、○龜王山、東南四里半、●鑛工品 山形やまがた 古の最上、山形平野の中央に在り、遙に月山の翠微を眺む、維新前水野氏の城市であった、人口四萬三千人を有し、輪月餅、千歳燒、櫻桃林檎、銅鑛を産し、闘斗梅、雲柿の名産がある、市附近多く薄荷を産す、○六橋八幡神社、南九町、○柏山寺、東北二十四町、○専稱寺、東北二十町、堂宇壯麗、瀧間の影刻有名である、○千歳公園、東北二十四町、○釋迦堂、東一里半、○山形縣廳、東北十七町、○市役所、東北十七町、○農事試験場、東南二十一町、○農工銀行、東北十九町、○漆山、うるしやま、○山寺、東二里、人力車賃五十錢、支那天童驛よりは三十錢、寶珠山立石寺である、○山寺の中腹に在り、全山奇岩怪石崇々として重疊し、磴道野茶、殿堂飄々として散在し、出羽屈指の靈刹である、○千手堂、西十二町、●米、綿布、苗木、天童てんどう 織田氏の舊城下、騎東田野の間に隆起せるは舞鶴山で、天童の城の在つた所、戊辰の役、織田氏が勤王の大義を唱へ、奥羽連衡軍と戦ひ、城市悉く兵燹に罹つた、山上僧長を祀つた建勳神社がある、遙に月山を望んで壯致佳、○若松觀世音、東一里十町、○出羽の三山、西十二里より十八里、途中本道寺まで九里半、人力車賃二圓、月山、羽黒山、湯殿山を云ふ、山形及この驛より登るがよい、夏時参拜者山中に絡繹して居る、賃金多くは

峠 たらげ 沼川温泉、西南一里、○姥湯、西南二里、米源よね

さは 米澤平野の中央に在り、山岳四方に聳る、上杉氏の舊城市で、藤山公遠策の地である、今人口三萬八千人を有し、米澤驛の産地として、櫛野の響到る處に噴しい、其他生果、酒、米、木炭、生牛等の産あり、○松崎公園、西二十町、人力車賃十五錢、舊米澤城址である、中央に上杉神社あり、藩僧及治癒の靈を祀る、○林泉寺、西南二十四町、人力車賃十八錢、市内第一の巨刹、開ヶ原當時の怪燈、直江兼續の墓あり、○小野川温泉、西南二里、人力車賃五十錢、○高湯温泉、南四里半、○唐戸屋崎山、西南四里、○市役所、西十五町、○高等工業學校、西南二十五町、○米澤織物同業組合事務所、西十二町、○米澤座、西半里、●鹽の目、ぬかのめ、○龜岡文芸堂、東一里、人力車賃二十錢、堂宇壯麗、○保呂羽堂、西南一里半、●米、生牛、林檎、鑛石、○赤湯あかゆ 長井輕便線分岐點、○赤湯温泉、東十六町、人力車賃十二錢、温泉は古より世に聞えて居る、八幡神社は烏帽子山に在り、今公園とし修築園と云ふ、町の東北十町、白龍湖あり、○中川 ながかは、○岩部山、北一町、○葡萄 上ノ山 かみのやま、○鶴屋温泉、西十町、古來有名な温泉である、町の西丘に在る月岡城址は、今公園となつて居る、前に織田王の連山を穿み脚下群川の流あり、●硫黄、○赤山温泉、東三里、○龜王山硫黄鑛山、東四里、○銅鑛石、硫黄

將豊を第一にし、月山を第二にし、湯殿を最後にする、俗に三山懸越九里と云つて云る、○津山温泉、東八町、○小山嶺山、西八里、●米、草履表、○神町 じんまち、○水晶山、西二里、○小見川餅人工製工場、西三十町、●鑛石、銅、木材、草履表、東根 根ひがしね、○東根温泉、北十町、人力車賃十二錢、○東根製糸場、東十一町、●葉黃、○桶岡 たてをか、○釜淵西一里、人力車賃二十錢、最上川に架す、此邊風光頗る佳、○湯澤沼、東十七町附近小松澤、觀音あり、○大石田 おほいした、最上川の河港とも云ふべく、これより酒田まで流程二十二里、兩岸の風光甚佳、驛の東銀山鑛泉、西に龜井田炭山あり、●石炭、米、木工板、舟形 ふながた、○瀬見温泉、東三里、人力車賃六十錢、○新庄 しんじやう、戸澤氏の舊城邑、酒田驛の分驛點である、○沼田城址、西十二町、○瑞雲院、東北二十町、●薪炭、木材、麩粉、生糸、○泉田 いづみた、○軍馬補充部支部、東二十町、○縣立種畜場、南十六町、○新町 あらまち、○金山殖林、東二里、●薪炭、米、木材、○院内 むんない、○湯の澤温泉、南二十六町、○院内銀山、北一里半、木邦著名の産銀山である、人力車賃二十八錢、●金銀鑛石、木炭、石材、○横堀 よこぼり、○小野小町芍薬塚、東七町、○稻住温泉、南四里、駄馬五十錢、○湯ノ原温泉、東七町、○愛宕公園、南十町、○佐藤信淵の墓、西二里半、○秋田木工會社、東一町、○湯澤木工場、東一町、○建勝製糸場、東六町

線本羽奥

の目を變しましむるのである。○中外石油アスファルト會社、東三十五町
 ○石油、アスファルト、礫石 五城目、こじやうめ、○八郎崎、西半里、○三
 倉、北一里、湖の全景を見るべき景勝の地である、人力車賃十五錢 ●鐵
 瓶、佃麦 鐵瓶はたおり 能代線の分岐點、能代は能代川に在る港にし
 て、木材、香燐の産地として名高く、其他銅、木炭、木屑、鮮魚を出し、
 名物翁飴、梨、羊羹あり、秋田木材會社工場を始め、深井、館岡、金野、杉
 本、穂谷等の換材工場多し、港の北五里半橋山あり、二ツ井ふたつ
 ○七座山神社、東南一里十二町 馬車賃二十錢、祠宇森嚴、古木天に穿る、
 ○高岩神社、北一里半 ○後坂、東北十六町、○太良嶺山、北六里、○阿
 仁嶺山、東十里 ●銅、鉛、木炭、楠木、鮎 早口はやくち ○田村鐵工
 場 東十五町 ○赤倉嶺山、北四里 ●木材、硫黃、楠木 大館おほだて
 附近小坂、尾去澤、花園の諸嶺山あり、中に小坂が最知られて居る、小坂鐵道
 は此より分岐して小坂に至る、賃金二等五十八錢、三等二十九錢、○十和田湖
 小坂より八里、外に東北本線古間木より奥入瀬の溪流に沿うて行く道がある、
 小坂より行く人は歸途この道を取りて古間木に出づるが可い、青森から八甲
 田山に登つた人は、直に南して湖畔に出づるが可い、小坂より大湯温泉まで三
 里馬車賃八十錢、人力車賃一圓、大湯より湖まで五里、途は溪流に沿うて寂
 寥の氣に漂り、歩毎に曲境に入るの感がある、湖は約三里四方、汀曲曲出

入して十渡の湖あり、湖前は海抜千五百尺、花部山、十和田嶽、戸來嶽、其間
 を繞り、北方更に八甲田群山の、嶮然として雲漢を穿するを見る、惠比壽嶽、
 甲島、鐘島、蓮葉島散在していづれも古松を飾き、景風瀟らむばかりである、
 湖畔には、村落二三炊煙遠離、湛々たる明鏡と對して、幽邃の風致を醸めて
 居る、水邊は船檣直ちに起りて絶壁をなし、暗綠の松樹倒に影を湖心に投じて
 居る、微風時に徐に動けば、藍綠の漣波交代す、これを色分と云ふ、嶺中山、
 鶴嶺山の長脚南岸に突出して、内湖、中湖、外湖の三湖を擁し、其嶺中山に十
 和田神社あり、風光の勝を占めて居る、湖水落ちて相坂川と爲る處に子の
 口の湖あり、魚道を斷つて居るので、久しく魚類が棲まなかつたが、近時和
 井内氏苦心十年の經營により、鰻の湖として世に喧傳せらるることゝなつた、
 子の口の湖より下流には、櫻井湖、白糸湖、白布湖、松見湖等がある、
 これが即ちいはゆる奥入瀬の溪流で、十和田湖の風光は、この溪流の景勝を得
 て、更に其價値を高めるのである。 磁ヶ岡いかりがせき ○磁ヶ岡温泉、南
 八町、平川に臨む、馬車賃十錢 ●林檎 大館おほだて 平川の清流を隔
 て、大湯温泉及磁ヶ岡温泉相對す、雲より共に四町、人力車賃十錢、○大
 日堂、東四町、堂前菴桂の古木あり ○阿闍羅山、南一里 ○津輕味噌醬釀
 造會社、東南六町 ●林檎、木材、漆工品、石材、味噌、醬油 弘前ひ
 るさき 津輕氏の舊城市、津輕平野の中央に在り、北に岩木山の秀容を望む、

線便輕井長

岩木川市の西北を遡つて居る、人口三萬八千人を有し、第八師團司令部あり、
 津輕産は此地の名産で、附近は苹果園藝が盛んである、其他清酒、木通豆細工、
 漆工品、織物、林檎酒、油等の産あり ○弘前公園、西十六町、馬車賃十五
 錢、舊城址の一部である、山川の眺望甚佳 ○岳ノ湯、西五里 ○岩木山、西
 三里十六町、馬車賃三十五錢、無抜五千二百尺、其形富士に似て居るので、津
 輕富士と稱し、山色秀麗である、南麓百澤に岩木山神社あり、國幣小社に
 列して居る、社殿宏壯、金碧燦爛、奥の日光と唱へて居る、山頂に本宮あり、
 夏期登山者が多い、山頂の眺望雄大である ○饒ヶ澤、西北海岸十里、馬車賃
 一圓 ○第八師團司令部、南十七町 ○物産陳列館、西十二町 ○柁木座、西
 十二町 川部かはへ 黒石輕便線の分岐點 黒石は津輕の支封地で、林
 檎を産し、黒石神社がある、黒石川町の南を流れ、川に沿うて二里、温泉及板
 留温泉がある ○猿賀神社、東南一里半、●林檎、馬鈴薯、米、漆工品
 浪岡たみをか ○浪岡城址、東半里、○浪岡八幡宮、東十五町、●林檎、
 漆工品 大澤迎、だいしやか ○梵珠巖、北一里、眺望佳

長井輕便線 赤湯—長井

官内町 みやうちまち 附近石澤、官内、製糸場あり ○吉野石膏採掘所、東

酒田線 新庄—酒田

この線は新庄より分岐して西し、津谷より最上川を渡り
 て其左岸に沿うて走り、日本海岸の一要津たる酒田港に至
 りて止まる線で、殊に古口より清川に至る九哩餘の間は最
 河岸に近づき、或は山脚を繞り深谷を渡り、或は山腹を穿
 ち懸崖を開き、山勢と共に屈し河流に従ひて伸び、隧道を
 曳つこと十、橋梁を架すること二十七、最上川沿岸中最景
 勝に富むと稱せる、いはゆる山の内の風光も、斯くして車
 窓靜に見ることが出来るのである。清川よりは眼界頓に展
 け、沃野數十里、遠く峯巒の連なるを見るのみ、やがて再
 度最上川を渡りて酒田に達するのである

北三里 ○吉野嶺山、東北三里 ○花嶺山、東北三里半 ●生糸、石膏
 今 泉いまいづみ ○松原文殊堂、西南一里十五町 ●米 長井ながみ
 ○羽陽館製糸場、八町 ○三由新製糸場、十三町 ○荒浜製糸會社、三里
 ●長井油、生糸、眞綿